

令和6年度使用

神奈川県立中等教育学校の前期課程
採択教科用図書一覧

(案)

神奈川県教育委員会

<参考> 発行者一覧

※発行者の記載順及び略称は、文部科学省発行の中学校用教科書目録（令和6年度使用）による。

発行者	発行者の略称	発行者	発行者の略号
東京書籍株式会社	東 書	株式会社大修館書店	大修館
大日本図書株式会社	大日本	株式会社新興出版社啓林館	啓林館
教育図書株式会社	教 図	株式会社山川出版社	山 川
開隆堂出版株式会社	開隆堂	数研出版株式会社	数 研
学校図書株式会社	学 図	日本文教出版株式会社	日 文
株式会社三省堂	三省堂	株式会社Gakken	学 研
教育出版株式会社	教 出	株式会社自由社	自由社
株式会社教育芸術社	教 芸	株式会社育鵬社	育鵬社
光村図書出版株式会社	光 村	株式会社学び舎	学び舎
株式会社帝国書院	帝 国	あかつき教育図書株式会社	あか図
		日本教科書株式会社	日 科

令和6年度使用教科用図書採択希望一覧

平塚中等教育学校 前期課程

種 目	発行者		教 科 書			使用 学年
	番号	略称	記号	番号	書 名	
国語	38	光村	国語	704	国語 1	1
	38	光村	国語	804	国語 2	2
	38	光村	国語	904	国語 3	3
書写	17	教出	書写	703	中学書写	1・2・3
社会 (地理的分野)	46	帝国	地理	703	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	1・2
社会 (歴史的分野)	116	日文	歴史	709	中学社会 歴史的分野	1・2・3
社会 (公民的分野)	2	東書	公民	901	新しい社会 公民	3
地図	46	帝国	地図	702	中学校社会科地図	1・2・3
数学	61	啓林館	数学	705	未来へひろがる数学 1	1
	61	啓林館	数学	805	未来へひろがる数学 2	2
	61	啓林館	数学	905	未来へひろがる数学 3	3
理科	4	大日本	理科	702	理科の世界 1	1
	4	大日本	理科	802	理科の世界 2	2
	4	大日本	理科	902	理科の世界 3	3
音楽 (一般)	27	教芸	音楽	702	中学生の音楽 1	1
	27	教芸	音楽	803	中学生の音楽 2・3 上	2・3
	27	教芸	音楽	804	中学生の音楽 2・3 下	2・3
音楽 (器楽合奏)	27	教芸	器楽	752	中学生の器楽	1・2・3
美術	38	光村	美術	702	美術 1	1
	38	光村	美術	802	美術 2・3	2・3
保健体育	2	東書	保体	701	新しい保健体育	1・2・3
技術・家庭 (技術分野)	6	教図	技術	702	New技術・家庭 技術分野 明日を創造する	1・2・3
	6	教図	技術	703	New技術・家庭 技術分野 明日を創造する技術ハンドブック	1・2・3
技術・家庭 (家庭分野)	6	教図	家庭	702	New技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する	1・2・3
英語	2	東書	英語	701	NEW HORIZON English Course 1	1
	2	東書	英語	801	NEW HORIZON English Course 2	2
	2	東書	英語	901	NEW HORIZON English Course 3	3
道徳	116	日文	道徳	704	中学道徳 あすを生きる 1	1
	116	日文	道徳	705	中学道徳 あすを生きる 1 道徳ノート	1
	116	日文	道徳	804	中学道徳 あすを生きる 2	2
	116	日文	道徳	805	中学道徳 あすを生きる 2 道徳ノート	2
	116	日文	道徳	904	中学道徳 あすを生きる 3	3
	116	日文	道徳	905	中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート	3

平塚中等教育学校の専門委員会の構成及び審議経過について

専門委員会の構成

校長 副校長 教頭 事務長 総括教諭（7名） 以上 11名

審議経過

令和6年度使用教科用図書採択方針及び教科用図書採択手続要領に基づき、次のとおり検討・選定を進めた。

- ◆ 6月8日（木） 第1回専門委員会
- ◆ 6月9日（金）～6月12日（月） 第2回専門委員会
- ◆ 6月22日（木） 第3回専門委員会

令和6年度は、令和5年度と同一の教科用図書を採択しなければならないことから、各教科指導計画や指導方法の更なる改善に生かしていくため、種目ごとに、各教科担当が昨年度の選定理由や選定した教科用図書の特色等を改めて共有した。

<参考>

教育目標	<p>【学校目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中等教育学校に適用される「教育課程の基準の特例」を活用した創立からの教育課程編成を検証し、生徒の学習目標、意欲に応えたカリキュラム開発を行う 2. 生徒一人ひとりの特性や抱える課題を見極め、問題解決に向け、保護者、学年、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーや外部機関等と連携した生徒支援体制を確立する 3. 学習指導および効果的な授業改善と研究授業の充実を図り、学力向上に向けた生徒の目的意識を醸成する。また、生徒の第一志望の進路実現を図る 4. 多彩な体験活動を通じて、生徒が自らの将来像を展望することを援助し、自立した社会観、リーダー性のある生徒を育成する 5. 地域への学校情報の提供を充実させる。また、地域との交流活動に積極的に参画する 6. 事故・不祥事防止を徹底する。また、生徒の交通安全意識、日常の防災意識や災害・緊急時の対応力の育成を図る
育てたい3つの力	<p>生きる（Live）～深い洞察と鋭い感性～ 慈しむ（Love）～高い志と豊かな人間性～ 学ぶ（Learn）～幅広い教養と光る知性～ 「自らの健康や他者の生命・人権を尊重し、広く社会に貢献してほしい」 「郷土かながわを慈しみ、国際社会に羽ばたいてほしい」 「自ら学び、考え、決断し、行動する力を身につけてほしい」</p>
学校のミッション	<ol style="list-style-type: none"> (1) 鋭い感性や独創性を高め、広く社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育てていく学校 (2) 思いやりの心を持ち、自ら進んで未来を切り拓く意欲や行動力あふれる、豊かな人間性とリーダーシップを備えた人材を育てていく学校 (3) 自主的な学習態度や向上心を養い、6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養を備えた人材を育てていく学校

めざす 生徒像	<p>(1) 自らの心身の健康や他者の生命・人権を尊重し、広く社会に貢献する深い洞察と鋭い感性を身につけた生徒</p> <p>(2) 郷土神奈川を慈しみ、国際社会に羽ばたき活躍する高い志と豊かな人間性を身につけた生徒</p> <p>(3) 自ら学び、考え、決断し、行動する幅広い教養と光る知性を身につけた生徒</p>
かながわ次 世代教養* について	<p>神奈川の豊かな国際性や歴史・自然など地域の特性を生かしつつ、地球規模で環境や歴史文化、科学技術などを考える視点を持ち、適切に情報を活用し、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力を育成する。このために、「IT活用」、「英語コミュニケーション」、「伝統文化・歴史」、「地球環境」の学習を中心に、段階を踏んだ体系的な学習内容と生徒が自ら学び方を学ぶ能動的な学習形態により、6年間継続した学習活動を行っている。</p>

* 県立中等教育学校において、中高一貫教育の特色を生かした探究活動を行うための学習活動のこと

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	国語	
発行者の番号・略称	38	光村
教科書の記号・番号	国語	704、804、904
書名	国語1 国語2 国語3	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の国語科においては、「表現コミュニケーション力」の育成を重視し、学習活動の「話すこと・聞くこと」「書くこと」に重きを置いて、他者との関わりを通して自分の意見を表現できることをめざしている。また授業では想像力・表現力を培い、「国語力」・「問題解決能力」を高めることを目標にしている。さらに「想像力や思考力を伸ばし言語感覚を磨く基礎となる語彙力を高める」ことや、「問う力の育成」にも重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「表現コミュニケーション力の育成」「情報活用能力の育成」「語彙力の育成」といった観点で、東京書籍「新編 新しい国語1、2、3」、三省堂「現代の国語1、2、3」、教育出版「伝え合う言葉 中学国語1、2、3」、光村図書「国語1、2、3」という全4者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現コミュニケーション力の育成に関して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」という表現コミュニケーション活動に関する『根拠の適切さを考えて書こう』などといった資料や活動例が掲載されていること。 ○ 情報活用能力の育成に関して、情報の収集、読取り、引用などを扱った『情報整理のレッスン』のコーナーが設けられていること。 ○ 語彙力の育成に関して、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを扱った『思考のレッスン』『語彙を豊かに』『表現テーマ例集』などが掲載されていること。 ○ その他、「幅広い教養を備える」視点では、日本の「伝統的な言語文化」に触れた小 		

単元『季節のしおり』などが掲載されていることや、発展的な学習資料や文章を扱った『学習を広げる』が掲載されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、光村図書出版の「国語1，2，3」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 国語

	東書	三省堂	教出	光村
内容と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統や文化に関する教育の充実について、筆者のものの見方や考え方、表現の仕方、当時の状況や作者の思いを捉える『伊曾保物語』『枕草子・徒然草』などが掲載されている。 ・体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、体験したことを場面に応じた形式で書く活動が『依頼状やお礼状を書こう』などに掲載されている。 ・情報活用能力の育成について、各学年にメディア・リテラシーを扱った「正しい言葉は信じられるか」などが掲載されている。 ・情報の扱い方、言葉の特徴・使い方などを扱った巻末基礎編『学びを支える言葉の力』、『文法解説』、資料編『発想の方法』、折込『学びを支える言葉の力』のコーナー一覧などが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統や文化に関する教育の充実について、音読して古典の世界を感じ取り、ものの見方や感じ方・考え方を捉える『竹取物語』『枕草子・徒然草』などが掲載されている。 ・体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、経験に基づいてわかりやすく伝える文章を書く活動が『体験に向き合い意味づける』に掲載されている。 ・情報活用能力の育成について、『情報社会に生きる—メディア・リテラシー』を読み、情報と適切に関わって生きることを扱った『複数の情報を関連づけて考えをまとめる』が掲載されている。 ・読書や我が国の伝統文化などを扱った巻末資料編『小さな図書館』『落語 桃太郎』などが、また折込で『思考の方法—一覧』などが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統や文化に関する教育の充実について、音読して内容を捉え、古人のものの見方や考え方、情景・心情を考える『物語の始まり』『教盛の最期』などが掲載されている。 ・体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、体験をもとに情報を集め、整理して文章を書く活動が『材料を整理して案内文を書く』などに掲載されている。 ・情報活用能力の育成について、編集されたメディアの特徴を扱った『全では編集されている』など、各学年でメディア・リテラシーに関する教材が掲載されている。 ・言葉の特徴や使い方、読書などを扱った巻末資料『言葉の自習室』『話すこと・書くことテーマ例集』、折込『表現に役立つ言葉』のコーナーなどが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統や文化に関する教育の充実について、音読して古典の世界に親しみ、表現の仕方や文体の特徴に着目し読み味わう『蓬萊の玉の枝』『扇の的』『季節のしおり』などが示されている。 ・体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、日常の体験から題材を選び目的に応じた文章を書く活動が『根拠の適切さを考えて書こう』などに掲載されている。 ・情報活用能力の育成について、『情報を集めよう』『情報を読み取ろう』『情報を引用しよう』などを扱った『情報整理のレッスン』のコーナーが掲載されている。 ・言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを扱った巻末『思考のレッスン』—一覧、表現テーマ例集、『語彙を豊かに』、折込『学習の窓—一覧』などが掲載されている。
分量・装丁・表記等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭詩、『目次』『1年で学ぶこと』『学習の進め方・教科書の使い方』『言葉の学習を始めよう』など、本編1章～7章、巻末『基礎編』『資料編』で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『目次』『領域別教材一覧』『この教科書の使い方 確かな言葉の力をつけるために』、本編1章～9章、巻末『文法のもとめ』『読書の広場』『資料編』で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭文、『目次』『言葉の地図』、本編1章～9章（3学年1章～11章）、『学びのチャレンジ』のコーナー、『言葉と文法解説編』『言葉の自習室』『折込』『漢字』で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭詩、『目次』『この教科書で学習するみなさんへ』など、本編1章～8章、巻末『文法・漢字・振り返り』『学習を広げる』（『学習の窓—一覧』など）で構成されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	書写	
発行者の番号・略称	17	教出
教科書の記号・番号	書写	703
書名	中学書写	
使用学年	1・2・3	
<p>〔選定理由〕</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の国語科では「表現コミュニケーション能力」の育成を重点目標としていることから、特に1学年では「書写」を重視し、毛筆における運筆の方法を身に付け、伝統的な日本文化を理解することをめざしている。</p> <p>また、日常生活と結びつき、生かしていくことができる書写も大切にしている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「毛筆における運筆」「伝統的な日本文化の理解」「日常生活との結びつき」という観点から、東京書籍「新しい書写一、二、三年」、三省堂「現代の書写一・二・三」、教育出版「中学書写」、光村図書「中学書写一・二・三年」という全4者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆における運筆に関して、筆遣いや穂先の動き、筆圧などの写真や濃淡の墨、数字、記号などが説明に用いられ、『考えよう』で模範例が例示されていること、また、実寸大の書写見本に、留意点を示す赤線が入っており、朱墨の濃淡による範例が掲載されていること。 ○伝統的な日本文化の理解に関して、教材に古典文学作品である『竹取物語』や『枕草子』『平家物語』『おくのほそ道』をはじめ、『文字の変遷』『日本建築と書』『芸術としての書道』などのコラムが掲載されていること。 ○日常生活との結びつきに関して、新聞、原稿用紙、案内状など生活に根差す書写の題材が掲載されていること。特に、社会とのつながりを重視し、外部機関に対して「お礼状」を書く活動が設けられていること。 <p>こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、教育出版「中学書写」を選定した。</p>		

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 書写

	東書	三省堂	教出	光村
内容と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成について、情報を整理したノートやレポートの書き方、効果的なメモの書き方などの学習活動が、各学年の基本単元や『書写活用ブック』に例示されている。 ・伝統や文化に関する教育の充実について、多様な文字文化について示されたコラム『文字のいずみ』が掲載されている。『書き初め』の模範例が示されている。 ・体験活動の充実について、保育園への職場訪問や本のポップの制作などが各学年の『生活に広げよう』に設定されている。 ・情報活用能力の育成について、職場訪問のレポートの書き方などが『書写活用ブック』に記載されている。 ・運筆の能力の育成について、基本点画や行書特有の4つの筆の動き（『二』『口』『十』『人』）が、朱墨やイラストで表され『確かめよう』で例示されている。 ・生活に役立てる観点について、行事の案内など知識・技能を活用する学習活動が、『生活に広げよう』や『書写活用ブック』などで例示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成について、グループ新聞や情報誌、名言集などの制作や記事を互いに推敲したり、作品を読み合ったりする言語活動が『やってみよう』で例示されている。 ・伝統や文化に関する教育の充実について、現代まで続く文字の歴史や文化を取り上げた『文字の変遷』や、文字に関わる仕事で活躍する人物の紹介が掲載されている。 ・体験活動の充実について、書写で学習したことを用いて新聞や情報誌などを書く学習活動が、各学年末の『やってみよう』に設定されている。 ・情報活用能力の育成について、書写で学習したことを用いて情報を整理し、まとめる学習活動が例示された『やってみよう』が各学年に設定されている。 ・運筆の能力の育成について、毛筆の行書での穂先の動きが濃淡の墨で示され、筆脈はイラストで示されている。文字を正しく整えて速く書く仕事の『達人』が紹介されている。 ・生活に役立てる観点について、書写で学んだことを日常の多様な「書く」場面で用いる『書いて身につけよう』『やってみよう』が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成について、情報を整理してポスターやレポートを書き、相手に応じた内容の伝え方を考える学習活動などが『学校生活に生かして書く』などに示されている。 ・伝統や文化に関する教育の充実について、『文字の変遷』や『日本建築と書』、『芸術としての書道』が『コラム』などに掲載され、『書き初め』の模範例が巻末に掲載されている。 ・体験活動の充実について、お薦めの本の帯やポップを、レイアウトや書体を工夫して書く活動などが掲載されている。 ・情報活用能力の育成について、分類メモなどから観察・取材レポートや新聞を書く『学習を生かして書く』などが設定されている。 ・運筆の能力の育成について、行書の筆づかいや穂先の動き、筆圧などの学習では写真や濃淡の墨、数字、記号などが説明に用いられ、『考えよう』で例示されている。 ・生活に役立てる観点について、書写で学んだことを用いる『学習を生かして書く』などが設定され、日常で触れる原稿用紙・案内状・礼状・手紙などが巻末の『書式の教室』などに示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成について、硬筆で名文を書いて味わう学習活動として、各学年に『季節のしおり』、書写ブックに『名文を書いてみよう』が掲載されている。 ・伝統や文化に関する教育の充実について、書写の道具の製造過程の紹介が裏表紙に掲載され、伝統文化や文字文化については『コラム』や『発展』に掲載されている。 ・体験活動の充実について、書写で学習したことを学校生活に用いる活動が示された『学校生活』や『国語』、『私の好きな言葉』が各学年に設定されている。 ・情報活用能力の育成について、書写で学んだことを用いて、伝えたいことを整理して書き表す学習活動が『学校生活』などで示されている。 ・運筆の能力の育成について、毛筆の行書特有の穂先の動きや穂先の向きなどが、筆の写真や記号、数字などを用いて『考えよう』や『確かめよう』に示されている。 ・生活に役立てる観点について、手紙や送り状の書き方など、学校での生活や日常生活で用いる例が掲載され、そのポイントが『日常に役立つ書式』に示されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	社会（地理的分野）	
発行者の番号・略称	46	帝国
教科書の記号・番号	地理	703
書名	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	
使用学年	1・2	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。</p> <p>本校における育成したい3つの力（表現コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会生活実践力）を育むために、社会科では探究的な活動、課題解決型の学習、言語活動の充実を図ることを重視し、学習内容をより身近なものにすることで興味関心を高めることを授業における重点箇所としている。また、本校の特色である「かながわ次世代教養」の学習に生かすことができるという観点も含め、重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に、「探究的な活動」、「課題解決型の学習」の観点から学習活動について全4者の教科書を比較・検討し、東京書籍の「新編 新しい社会 地理」、帝国書院の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」の2者に絞った。</p> <p>次に、本校の社会科では「社会の事象やさまざまな資料に対する多面的な見方や考え方、分析して表現する力を培う」ことに加え、「かながわ」・「日本」・「世界」を知る特別活動等との関連で「世界とのかかわりの中の日本」という地理的・歴史的な視点の育成を重視している。さらに中等教育学校であるからこそその高校（後期課程）の地理へのつながりも踏まえ、これらの観点で再度、2者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多面的・多角的に考察し、表現することについて、教科書全体のグラフ・写真・絵・図表・索引が掲載され、地理的事象の表現方法や調べ方が提示された『技能をみがく』が設定されている。 ○世界とのかかわりについて、『未来に向けて』のページで、SDGsに関連した内容を取り上げ、国際社会や現代の日本が抱えるエネルギー問題や諸課題が掲載されている。 		

こうした題材や資料等が本校生徒の学習に最も適していると判断し、帝国書院の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（地理的分野）

	東書	教出	帝国	日文
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連との関連	<p>・「知識・技能」の習得について、『地図帳を使って次の都道府県を探しましょう』など、『チェック』が設けられている。また、『日本略地図の描き方』や『統計資料の使い方』などの基礎的・基本的な技能について『スキル・アップ』で取り上げられている。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『学習課題』が設定されている。また、単元の最初と最後に『探究課題』が掲載されている。</p> <p>・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容と関連のある現代社会の事例について『地理にアクセス』に掲載されている。また、『水没の危機にあるツバル』などを取り上げた『もっと地理』が設けられている。</p>	<p>・「知識・技能」の習得について、『日本の白地図に都道府県名、県庁所在地名を記入し、整理しよう』など、『確認』が設けられている。また、基礎的・基本的な技能について『地理の技』で取り上げられている。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『表現』が設定されている。また、単元の最後に『表現しよう』が掲載されている。</p> <p>・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、日本の諸課題を取り上げた『現代日本の課題を考えよう』が設けられている。また、『公害を乗り越えて』など日本の諸課題を取り上げた『現代日本の課題を考えよう』が設けられている。</p>	<p>・「知識・技能」の習得について、『都・道・府がつく都道府県名をそれぞれ挙げよう』など、『確認しよう』が設けられている。また、基礎的・基本的な技能について『技能をみがく』で取り上げられている。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭で『地理的な見方・考え方』を解説している。また、学習ごとに『説明しよう』が掲載されている。</p> <p>・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、<u>地域社会の取組事例を掲載した『地域の在り方を考える』が設けられている。また、『地球温暖化による影響と危機』など持続可能な社会に関連した取組を紹介した『未来に向けて』が設けられている。</u></p>	<p>・「知識・技能」の習得について、『47都道府県の県名と県庁所在地名を書きましょう』など、『確認』が設けられている。また、基礎的・基本的な技能について『スキル UP』で取り上げられている。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、表見返して『地理的な見方・考え方』が解説されている。また、『チャレンジ地理』が掲載されている。</p> <p>・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習課題を示した『アクティビティ』が設けられている。また、『アフリカの紛争と私たち』など日本や国際社会の諸課題を取り上げた『自由研究』が設けられている。</p>
かながわ教育ビジョンとの関連	<p>・「思いやる力」の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『自然災害と防災・減災』で取り上げられている。</p>	<p>・「思いやる力」の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『災害から身を守るために』で取り上げられている。</p>	<p>・「思いやる力」の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『自然災害に対する備え』で取り上げられている。</p>	<p>・「思いやる力」の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災・減災への取り組みについて考え、実践できることが『災害にそなえ』で取り上げられている。</p>

	<p>災への取り組み』に示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した医療の可能性が『ICTで変わる離島の医療』などで取り上げられている。 ・[社会とかがわる力]の「地域貢献活動」について、青年海外協力隊としてアフリカで食事の改善に取り組む活動の様子が『発展に向けた課題』で取り上げられている。 	<p>に示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した農業の可能性が『地域おこしの知恵』などで取り上げられている。 ・[社会とかがわる力]の「地域貢献活動」について、熊本地震の被災地で、日本人とともにカレーをふるまうネパール人の様子が『災害から身を守るために』で取り上げられている。 	<p>示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した地域おこしが『通信網を生かした地域おこしの取り組み』などで取り上げられている。 ・[社会とかがわる力]の「地域貢献活動」について、自然の保全活動について『熊野古道の保全に取り組む人の話』で取り上げられている。 	<p>るために』に示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTの発達による生活の変化が『交通・通信からみた日本の地域的特色と地域区分』などで取り上げられている。 ・[社会とかがわる力]の「地域貢献活動」について、ボランティアによる雪かきの支援が『寒冷な気候に対応した人々の生活』で取り上げられている。
内容と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、『地図帳で調べよう』など小集団での参加型学習のテーマを示した『みんなでチャレンジ』が設けられている。 ・言語能力の育成について、単元のまとめに『日本はどのような姿をしているのでしょうか』などの『探究課題』が設けられている。 ・情報活用能力の育成について、写真やグラフ・地図などの資料の読み取り方や調べ学習を行う際の手法などが『スキル・アップ』に掲載されている。 ・学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、『シンガポールはいま』などを取り上げた『特設ページ』が設けられている。 ・言語能力の育成について、単元末に『言葉や習慣が異なる人たちと社会生活を送るために、どのような工夫が必要だろうか』などの『意見を交換しよう』が設けられている。 ・情報活用能力の育成について、写真やグラフ・地図などの資料の読み取り方のヒントが、『読み解こう』に掲載されている。 く生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮について> ・学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、『ブラジルの熱帯雨林は、どのようにして開発されているのかな』などの問いがキャラクターの吹き出しで掲載されている。 ・言語能力の育成について、単元末に、学習内容に関連した言語活動のテーマを掲載した『特設ページ』が設けられている。 ・情報活用能力の育成について、『ハザードマップの読み方』や『防災情報の入手のしかた』などが、『技能をみがく』に掲載されている。 ・学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認しよう』と学習したことを活用する『説明しよう』が設定され、学習の流れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、『なぜ六つの祭りが集まって東北絆まつりが開催されているのでしょうか』など学習内容に関連した『クイズ』が設けられている。 ・言語能力の育成について、『地域の魅力を広めよう』など言語活動のテーマを掲載した『アクティビティ』が設けられている。 ・情報活用能力の育成について、『統計資料を活用する』や『巻末資料の使い方』が『スキルUP』に掲載されている。 ・学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認』と学習内容を深める『深めよう』が設定され、学習の流れが提示されてい

<p>る『チェック』と発展的な課題を提示した『トライ』が設定され、学習の流れが示されている。</p> <p>・生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、地理的な見方・考え方を活用して考察する問い『見方・考え方』が設けられている。</p> <p>・課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、単元のはじめに『探究課題』が提示され、終わりには『探究課題を解決しよう』が掲載されている。</p>	<p>と学習したことを活用する課題を示した『表現』が設定され、学習の流れが示されている。</p> <p>・生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『位置や広がり』などの『見方・考え方』のポイントが提示されている。</p> <p>・課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認』『表現』が掲載されている。</p>	<p>が提示されている。</p> <p>・生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。</p> <p>・課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認しよう』『説明しよう』が掲載されている。</p>	<p>る。</p> <p>・生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。</p> <p>・課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認』『深めよう』が掲載されている。</p>
---	--	--	---

	東書	教出	啓林館	日文
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『デザインにひそむ数学』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『ランドルト環』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『緊急地震速報』など、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『身のまわりの正の数と負の数』など、『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。

	東書	教出	啓林館	日文
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q 目標を達成することはできるのかな?』などが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『学び合おう』のコーナーが掲載されている。

	東書	教出	啓林館	日文
体験活動の充実	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『くじを先にひく?あとにひく?』などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『立体の体積と表面積』の問題などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『ゆっくり落ちる紙の形や大きさは?』の問題などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした正多面体の特徴を調べる問題などが掲載されている。

	東書	教出	啓林館	日文
情報活用能力の育成	情報活用能力の育成について、標本を無作為に抽出する方法として、コンピューターの表計算ソフトの操作手順が『母集団から標本を取り出す方法について考えてみよう』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、標本と無作為抽出する方法の一つとして、コンピューターの表計算ソフトを利用する方法が、『標本調査とデータ活用』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、プログラミングの段階的な学習を課題とした『プログラミングで模様をつくろう』や『表計算ソフトを使って』などが掲載されている。	情報活用能力の育成について、プログラミングの学習を課題とした『素数を求めるプログラムを考えよう』など、『プログラムと数学』が掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	社会（歴史的分野）	
発行者の番号・略称	116	日文
教科書の記号・番号	歴史	709
書名	中学社会 歴史的分野	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。</p> <p>本校における育成したい3つの力（表現コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会生活実践力）を育むために、社会科では「探究的な活動、課題解決型学習、言語・表現活動の充実を図る」ことを重視し、学習内容をより身近なものにすることで興味関心を高めることを授業における重点箇所としている。また、「かながわ」、「日本」、「世界」それぞれの視点に立った教養を身につけ、国際社会で活躍する次世代のリーダーを育成することが学校の目標であることを踏まえ、特に社会の教科書選定においては、将来の「世界について」の視野を広げる観点も含め、重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に、「探究的な活動、課題解決型学習、言語・表現活動の充実を図る」「多面的・多角的な見方・考え方を働かせる学習が設定されている」の観点から学習活動について全8者の教科書を比較・検討し、帝国書院の「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」、教育出版の「中学社会 歴史 未来をひらく」、日本文教出版の「中学社会 歴史的分野」、の3者に絞った。</p> <p>次に、本校の社会科が重視している「主体的・対話的で深い学びに向けた学習活動に資する工夫や配慮」、「社会の事象やさまざまな資料に対する多面的な見方や考え方、分析して表現する力を培う」ことに加え、「かながわ」・「日本」・「世界」を知る特別活動等との関連で「世界とのかかわりの中の日本」という地理的・歴史的な視点の育成、さらに中等教育学校であるからこそその高校（後期課程）へのつながりも踏まえ、これらの観点で再度、3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <p>○「主体的・対話的で深い学びに向けた学習活動に資する工夫や配慮」に関して、『学</p>		

習課題』を提示し、『見方・考え方』『深めよう』では、学習課題への理解を深める問いが掲載され、また、『時系列』『推移』『比較』『つながり』をキーワードとした『見方・考え方』が掲載されている。

○「社会の事象やさまざまな資料に対する多面的な見方や考え方、分析して表現する力を培う」に関して、社会的事象を時期や内容、立場を変えて表にまとめる作業が、編のまとめの『アクティビティ』に掲載されている。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、日本文教出版の「中学社会 歴史的分野」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果

「社会（歴史的分野）」（令和4・5・6年度用）」令和3年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（歴史的分野）

	東書	教出	帝国	山川
課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮	課題を追究・解決する活動について、地域、日本の震災の歴史を取り上げた現代的な課題について考える、『地域の歴史を調べよう』や『歴史に学び、未来へと生かそう』が掲載されている。また、各節の冒頭と各章末に『探究課題』が設けられている。	課題を追究・解決する活動について、現代的な課題について考える『身近な地域の歴史を調べよう』や『歴史を探ろう』が掲載されている。また、歴史学習の終わりに、『現代の課題について、歴史の流れをふまえて考えてみよう』が設けられている。	課題を追究・解決する活動について、SDGsに関連する内容など、現代社会の諸課題について課題を追究・解決する内容の『未来に向けて』が掲載されている。また、章・節・学習内容で、『章の問い』『節の問い』『学習課題』が設定されている。	課題を追究・解決する活動について、現代の諸課題について考察する内容、『地域からのアプローチ』『今日の世界』『現代の日本と世界』が掲載されている。また、課題について話し合い、考察する活動が『歴史を考えよう』に設定されている。
	日本語	自由社	育鵬社	学び舎
	課題を追究・解決する活動について、災害の歴史や政治参加の歴史など、未来へ向けての課題が『歴史との対話』を未来に活かす』に掲載されている。また、考えたり対話したりする課題が『チャレンジ歴史』に設定されている。	課題を追究・解決する活動について、歴史から現代の日本の特色を考える活動が巻末の『歴史を学んで』に掲載されている。また、各時代から見出した課題について調べ、考える活動が『調べ学習のページ』に掲載されている。	課題を追究・解決する活動について、対立する意見を掲載し、課題を解決する活動が『歴史のターニングポイント』に掲載されている。また、歴史での学習を将来にどう生かしていくのかを文書にまとめる活動が『歴史学習のまとめ』で掲載されている。	課題を追究・解決する活動について、歴史的な出来事と関連した現代の諸課題を解決するために何をすべきかを考える『歴史を現代とつなげて、考えを深めましょう。』という内容が『学習のまとめ』に掲載されている。

	東書	教出	帝国	山川
社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、『Xチャート』や『くらげチャート』など、考えるための技法が、各章の『まとめの活動』に設けられている。また、『探究課題』『探究のステップ』『学習課題』『チェック』『トライ』が設けられている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容について視点を変えて捉える『歴史を探ろう』『歴史の窓』が設定されている。歴史的な事象を多面的、多角的に考察し、自分の言葉でまとめる活動が、『学習のまとめと表現』に掲載されている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、関連する資料から、問題の解決を図るための活動が、『多面的・多角的に考えてみよう』に掲載されている。また、各章末に、学習した内容を自分の言葉でまとめる活動が、『章の学習を振り返ろう』に設定されている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、さまざまな立場や時代の特色を捉え、自分の言葉で表現する問いが、各章末の『まとめ』に掲載されている。また、多面的・多角的に考察する内容や資料が『歴史を考えよう』に掲載されている。
	日本語	自由社	育鵬社	学び舎
	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、社会的な事象を時期や内容、立場を変えて表にまとめる作業が、編のまとめの『アクティビティ』に設定され、資料をもとに対話したり、体験したりする資料が、『チャレンジ歴史』に掲載されている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容に関連する資料や解説が『外の目から見た日本』『もっと知りたいコラム』『知っ得ポイント』に掲載されている。また、各時代を自分の言葉でまとめる活動が、『ひとこと』作文』に設定されている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容に関連する資料や解説が『このころの世界は』『歴史ズームイン』『歴史ビュー』『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。各時代を自分の言葉でまとめる活動が『学習のまとめ』に設定されている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、社会的な事象を比較・関連させ、意見を交換して考える課題が『学習のまとめ』に設けられている。また、各章の初めに、北極を中心とした地図で、世界とのつながりを示した内容や資料が掲載されている。

	教出	帝国	日文
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各章のまとめには『学習のまとめと表現』が設けられ、年表や地図などの資料を用いて表現する活動が設けられている。また、見開き2ページごとに、『表現』で問いが設定されている。</p>	<p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容において、『学習課題』や『説明しよう』で表現活動を行う問いが設定されている。各章の最後に、時代の特色を表現する活動が『章の学習を振り返ろう』で掲載されている。</p>	<p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『学習課題』を提示するとともに、『見方・考え方』『深めよう』で表現活動を行う問いが掲載されている。年表や地図から各時代の特色を表現する活動が『学習の整理と活用』で設けられている。</p>
かながわ教育ビジョンとの関連	<p>・[思いやる力]の「人権教育」について、『働く女性や子どもたち』『改革や平等を求めて』が、『歴史を探ろう』に掲載されている。また、人権や平和に関連する内容が『歴史の窓』に掲載されている。</p>	<p>・[思いやる力]の「人権教育」について、人権・平和の尊重や自然環境の保全に関する『未来に向けて』が設けられている。また、人々の多様性を考える『はじめに～さまざまな立場や多様性を踏まえた未来のために～』が掲載されている。</p>	<p>・[思いやる力]の「人権教育」について、古代から現代までの各時代の女性の姿が、『女性史コラム』に掲載されている。また、人権に関連した内容が『歴史+α』に掲載されている。</p>
内容と構成	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、本時の『学習課題』が示され、その学習課題を深める問いが『確認』『表現』に掲載されている。各章の導入では比較する資料を掲載し、各章の終わりには『学習のまとめと表現』が掲載されている。</p> <p>・体験学習の充実について、学び方の手がかりとして『地域調査の手引き』が『身近な地域の歴史を調べよう』に掲載されている。また、地域の遺跡や古墳、地域の寺社、地域の街道や港を訪ねるなど、地域社会と関わりながら学ぶ例が掲載されている。</p> <p>・社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『時期や推移』『比較』『関連』を例として見方・考え方を説明する内容が『歴史にアプローチ』</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、各章の問い、節の問い、各学習内容と区別され、学習課題に対応したまとめや振り返りが掲載されている。また、各章のはじめに『タイムトラベル』、各章の終わりに『章の学習を振り返ろう』が掲載されている。</p> <p>・体験学習の充実について、調べ学習や発表に関する学習の手順や、図書館や博物館、資料館、インターネットでの調査や、野外・聞き取り調査方法やレポートによる発表に関する内容が『歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた』に掲載されている。</p> <p>・社会的な見方・考え方を働かせる学習について、推移、相互の関連、時期や年代、比較の4つの見方・考え方の解説が『歴史の見方・考え方を働かせよ』</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、『学習課題』を提示し、『見方・考え方』『深めよう』では、学習課題への理解を深める問いが掲載されている。また、各編は、導入のページと振り返るまとめのページが掲載されている。</p> <p>・体験学習の充実について、取り扱う学習テーマと関連させ、博物館や遺跡の見学や調べ学習の方法について、『でかけよう！地域調べ』に掲載され、また、資料から課題について考える活動や体験について記述された『チャレンジ歴史』が設定されている。</p> <p>・社会的な見方・考え方を働かせる学習について、学習課題とともに、『時系列』『推移』『比較』『つながり』の4つをキーワードとして示した『見方・考</p>

	<p>に掲載されている。また、資料を『比較』『関連』させ、考えさせる問いが『歴史の技』に掲載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容について視点を変えて捉える『歴史を探ろう』『歴史の窓』が設定されている。歴史的な事象を多面的、多角的に考察し、自分の言葉でまとめる活動が、『学習のまとめと表現』に掲載されている。 ・課題を追究・解決する活動について、現代的な課題について考える『身近な地域の歴史を調べよう』や『歴史を探ろう』が掲載されている。また、歴史学習の終わりに、『現代の課題について、歴史の流れをふまえて考えてみよう』が設けられている。 	<p>う』に、『歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう』が章の振り返りに掲載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、関連する資料から、問題の解決を図るための活動が、『多面的・多角的に考えてみよう』に掲載されている。また、各章末に、学習した内容を自分の言葉でまとめる活動が、『章の学習を振り返ろう』に設定されている。 ・課題を追究・解決する活動について、SDGsに関連する内容など、現代社会の諸課題について課題を追究・解決する内容の『未来に向けて』が掲載されている。また、章・節・学習内容で、『章の問い』『節の問い』『学習課題』が設定されている。 	<p>え方』が掲載されている。また、『「歴史的な見方・考え方」とは？』に詳しい説明が掲載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、社会的な事象を時期や内容、立場を変えて表にまとめる作業が、編のまとめの『アクティビティ』に設定され、資料をもとに対話したり、体験したりする資料が、『チャレンジ歴史』に掲載されている。 ・課題を追究・解決する活動について、災害の歴史や政治参加の歴史など、未来へ向けての課題が『「歴史との対話」を未来に活かす』に掲載されている。また、考えたり対話したりする課題が『チャレンジ歴史』に設定されている。
--	--	---	---

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	社会（公民的分野）	
発行者の番号・略称	2	東書
教科書の記号・番号	公民	901
書名	新しい社会 公民	
使用学年	3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。</p> <p>本校における育成したい3つの力（表現コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会生活実践力）を育むために、社会科では探究的な活動、課題解決型学習、言語・表現活動の充実を図ることを重視し、学習内容をより身近なものにすることで興味関心を高めることを授業における重点箇所としている。また、本校の特色である「かながわ次世代教養」の学習も大切にしている。これらを踏まえ全6者を比較・検討し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幅広い知識や教養を身に付け、現代の社会情勢や、現代社会が抱える諸課題について考える学習活動が掲載されていること ○課題解決型学習や探究的な活動、言語・表現活動の充実を図る観点から、調べ学習を通してプレゼンテーションなどを行う活動や、論理的思考力を育む観点からディベートなどの学習活動が掲載されていること <p>を観点として、東京書籍「新しい社会 公民」、帝国書院「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」、日本文教出版「中学社会 公民的分野」の3者に絞った。</p> <p>次に、本校の社会科が「主体的・対話的で深い学びに向けた学習活動に資する工夫や配慮」、「社会の事象やさまざまな資料に対する多面的な見方や考え方、分析して表現する力を培う」ことに加え、「かながわ」「日本」「世界」を知る特別活動等との関連で「世界とのかかわりの中の日本」という地理的、歴史的な視点の育成を重視していることを踏まえ、この3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学びに向けた学習活動に資する工夫や配慮」に関して、資料を活用し、社会的事象について考察する数値データや資料が掲載されていて、『みんなでチャレンジ』や『まとめの活動』のコーナーで、公民的事象を多面的・多角的に 		

考察し、グループで話し合う活動や参加型学習による対話的な活動が設定されていること。

○「社会の事象やさまざまな資料に対する多面的な見方や考え方、分析して表現する力を培う」に関して、生徒の探究的活動を促す内容『S市の市長になって条例を作ろう』や、『コンビニエンスストアの経営者になってみよう』などで、様々な見方・考え方を共有したり、発表したりできる学習活動が掲載されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、東京書籍「新しい社会 公民」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（公民的分野）

	東書	帝国	日文
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の習得について、公民の学習を進めるうえで必要な用語について『スキル・アップ』の『法律用語の読み方』に記載されている。 ・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、縦横の二つの軸の座標軸上に一つ一つの事項を位置付け、情報を評価する『座標軸』など、思考を整理する方法が『まとめの活動』に示されている。 ・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容が社会の中でどのように生かされているのかを取り上げ、読み取る活動が『もっと公民』に設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の習得について、基礎・基本的な技能や学習内容に関連する実社会の動きを紹介する特設ページとして『技能をみがく』が設けられている。 ・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、事例をもとにディスカッションという話し合いの技法を用いて取り組む活動が『アクティブ公民』に設定されている。 ・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容を生かしたり関連した取組を行ったりしている人へのインタビュー記事が『先輩たちの選択』に掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の習得について、見開きページの冒頭に、毎時間提示する学習課題とともに、『見方・考え方』が示されている。 ・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、国会の意義について『見方・考え方』を動かして取り組む活動が『国会と地位のしくみ』の『深めよう』に設定されている。 ・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会参画を促す特設ページとして『明日に向かって 年金のしくみについて知ろう』で年金や街づくりなどのテーマが提示されている。
かながわ教育ビジョンとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやる力」の「共生」について、障がいのある人も高齢者も安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、身近な事例から考える課題が『インクルージョンについて考えよう』に設けられている。 ・「たくましく生きる力」の「情報化」について、情報化の課題の解決のために自分たちにできることは何かを考える活動が『現代社会の特色と私たち』の『情報化』に設定されている。 ・「社会とかかわる力」の「地域貢献活動」について、地域の課題について解決策を提案する、または直接まちづくりへ参加をする活動が『政治参加をしてみよう』に設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやる力」の「共生」について、差別のない社会の実現に向けた法制化の動きについて、『日本社会の差別の現実』に記載されている。 ・「たくましく生きる力」の「情報化」について、他のメディアにはない新聞の特徴が掲載されており、新聞記事から事実と意見を区別する活動が設定されている。 ・「社会とかかわる力」の「地域貢献活動」について、民主主義における決定について事例をもとにグループで対話しながら取り組む活動が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやる力」の「共生」について、障がいのある人も高齢者も誰もが安心して暮らすためのまちのバリアフリー化について、資料を読み取る活動が設けられている。 ・「たくましく生きる力」の「情報化」について、『情報化で変わる社会と私たち』において、『人工知能（AI）』や『ICTの社会への活用』などについて記載されている。 ・「社会とかかわる力」の「地域貢献活動」について、『地方自治と私たち』において、地方自治を実現させるための住民参加の仕方について考える活動が設定されている。

	東書	帝国	日文
内容と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、事例で示された多数決が正しい決め方なのか考え、グループで話し合う活動が『みんなでチャレンジ』の『多数決について考えよう』に設定されている。 ・言語能力の育成について、小集団での参加型学習による対話的な活動として、『みんなでチャレンジ』が設定されている。 ・体験活動の充実について、市の課題や市民の声をもとに、ステップチャートを活用して条例案を作る活動が設定されている。 ・情報活用能力の育成について、掲載されている資料から情報を収集し、分析し、まとめる活動が設定されている。 ・『導入の活動』において、『章の学習を貫く探究課題』、探究課題の解決に向けた『探究のステップ』が示されている。 ・社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『見方・考え方』が枠組みで示されている。また、章末に見方・考え方を活用する課題が設定されている。 ・社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、<u>経営者・客・店員の視点で、出店先を考え、意見の交流をする活動が『コンビニエンスストアの経営者になってみよう』に設定されている。</u> ・課題を追究・解決する活動について、『探究課題』『学習課題』『探究のステップ』『まとめの活動』と4段階で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、身近なテーマである自分のまちについて、どのようによりよくしていくのかを考える活動が設定されている。 ・言語能力の育成について、論理的な説明と合意形成を目指す議論を中心としたテーマ学習が特設ページ『アクティブ公民』に設けられている。 ・体験活動の充実について、これまでの学習内容を盛り込むかたちで自分が起こしたい企業の企画書について作成する活動が設定されている。 ・情報活用能力の育成について、新聞の特徴が示され、実際の新聞記事から事実と意見を区別する活動が『新聞について知ろう』に設定されている。 ・各章の冒頭に『章の問い』、節ごとに『節の問い』、各見開きページに『学習の課題』が示されている。 ・社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『やってみよう』で問いを示し、考える活動が『アクティブ公民』に設定されている。 ・社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、意見交換を行う中で、他者の見方・考え方を取り入れる活動が各章の最後の『章の学習を振り返ろう』に設定されている。 ・課題を追究・解決する活動について、レポート作成の課題が『課題の探究』として設定されている。作成段階ごとの手順が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、様々な立場の意見をひきまえて、話し合う活動が『チャレンジ公民』に設定されている。 ・言語能力の育成について、社会の課題について考えるテーマ学習が、特設ページ『チャレンジ公民』に設けられている。 ・体験活動の充実について、裁判員裁判の手順が示され、記載された証言例をもとに判決する活動が『明日に向かって』の『裁判員裁判シミュレーション』に設定されている。 ・情報活用能力の育成について、情報を収集し、読み取り、まとめる際に必要な知識・技能、留意点などが『統計とグラフを使いこなそう』に掲載されている。 ・各編において、冒頭に『学習の初めに』が、2～4編(章)末に『チャレンジ公民』がそれぞれ設定されている。 ・社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『見方・考え方』が学習課題とともに示され、考える活動が『アクティビティ』に設定されている。 ・社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、『日本の議院内閣制とアメリカの大統領制』について比較する活動が『内閣のしくみと議院内閣制』の『アクティビティ』に設定されている。 ・課題を追究・解決する活動について、レポート作成から発表までの手順が『私たちの課題』に掲載されている。また、『もしも行き詰ってしまったら』が示されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	地図	
発行者の番号・略称	46	帝国
教科書の記号・番号	地図	702
書名	中学校社会科地図	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。</p> <p>本校における育成したい3つの力（表現コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会生活実践力）を育むために、社会科では探究的な活動、課題解決型学習、言語・表現活動の充実を図ることを重視し、学習内容をより身近なものにすることで興味関心を高めることを授業における重点箇所としている。また、6年間の中で「かながわ」、「日本」、「世界」それぞれの視点に立った教養を身につけ、国際社会で活躍する次世代のリーダーを育成することが学校の目標である。</p> <p>本校の社会科においては、「社会の事象や様々な資料に対する多面的な見方や考え方、分析し表現する力を培うこと」、「体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか」を主眼としていることから、全2者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「社会の事象や様々な資料に対する多面的な見方や考え方、分析し表現する力を培うこと」に関して、「地図帳の活用を促すため、『地図活用』が各ページに記載され、「地域ごとの部分図」が世界・日本ともに掲載され、地域の特色やその地域が抱える課題について、グラフ・図・表から分析し考える学習活動が設定されていること。 ○「体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか」に関して、版型でA4判が採用されており、生徒が学習しやすくなっていること。 <p>こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、帝国書院の「中学校社会科地図」を選定した。</p>		

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（地図）

	東書	帝國
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『一般図を見てみよう』などで取り上げられた『この地図帳の活用方法』が掲載されている。 ・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『ヨーロッパの言語分布』や『北海道の土壌』など、資料をもとに考えるテーマが『テーマ資料』で取り上げられている。 ・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭で『環境』『エネルギー』などの社会問題が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『いろいろな地図を使いこなそう』などで取り上げられた『地図帳の使い方』が掲載されている。 ・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『五大湖周辺とサンベルト地域ではどのような違いがあるか答えよう』など、資料をもとに考えるテーマが『地図活用』で取り上げられている。 ・「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭で『世界の環境問題』について取り上げられている。
かながわ教育ビジョンとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやる力」の「いのちの大切さ」について、『世界の5歳未満死亡率』などが掲載されている。 ・「たくましく生きる力」の「食育」について、『世界の食文化』と『日本各地の郷土料理』などが掲載されている。 ・「社会とかかわる力」の「生きること」について、『日本の自然環境』で災害とその対策について取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやる力」の「いのちの大切さ」について、アフリカ諸国の『貧困率と栄養不足の人口』などが掲載されている。 ・「たくましく生きる力」の「食育」について、世界の『特色ある料理と食事』と『日本の伝統的な料理』などが掲載されている。 ・「社会とかかわる力」の「生きること」について、『日本の自然災害・防災』で災害とその対策について取り上げられている。
内容と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、『世界の気候・海流』と『世界各地の平均気温・降水量』など、学習内容と関連する資料が『ジャンプ』で示されている。 ・カリキュラム・マネジメントについて、歴史的分野や公民的分野の学習と関連したページや資料に『歴史・公民マーク』が示されている。 ・言語能力の育成について、言語活動のテーマとなる資料に関する問いや疑問などが、キャラクターの吹き出しに掲載されている。・地図帳の巻頭部分に地図帳の活用方法が示されている。また、教科書で学習する世界や日本に関連した資料が掲載された『テーマ資料』が設けられている。 ・判型はA B判が採用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについて、『伝統工芸品を一つ選び、その特徴やよさについて調べ、クラスで発表しよう』などの学習課題を示した『地図活用』が設けられている。 ・カリキュラム・マネジメントについて、歴史的分野や公民的分野の学習と関連した『江戸時代の大阪』や『霞が関』などの地図や資料が設けられている。 ・言語能力の育成について、『世界の言語と宗教の分布にはどのような特徴があるだろうか』など、言語活動のテーマが示された『学習課題』が設けられている。 ・地図帳の巻頭部分に地図帳の活用方法が示されている。また、『函館山の山頂からゴールまでの直線距離を縮尺からも求めよう』などの問いが『地図活用』の中に掲載されている。 ・判型はA 4判が採用されている

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	数学	
発行者の番号・略称	61	啓林館
教科書の記号・番号	数学	705、805、905
書名	未来へひろがる数学1 未来へひろがる数学2 未来へひろがる数学3	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の数学科においては、「基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して物事を数理的に考える力をつける」、「数や図形に関する数学的な活動を通して、数学のよさや数学を学ぶ楽しさを実感する」、「日常生活や社会の中で数学を活用する力をつける」、「筋道を立てて説明する活動を通して、論理的な表現力を身につける」ことを目標にしている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「基礎的な知識や技能を習得する」、「日常生活や社会の中で数学を活用する力をつける」、「筋道を立てて説明する」といった観点から全7者の教科書を比較・検討し、東京書籍「新しい数学1、2、3」、教育出版「中学数学1、2、3」、啓林館「未来へひろがる数学1、2、3」、日本文教出版「中学数学1、2、3」の4者に絞った。</p> <p>次に、「基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して物事を数理的に考える力をつける」、「筋道を立てて説明する活動を通して、論理的な表現力を身につける」に、「体験活動の充実」、「情報活用能力の育成」という観点を加え、4者を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して物事を数理的に考える力をつける」について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『緊急地震速報』など、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されていること。 ○「筋道を立てて説明する活動を通して、論理的な表現力を身につける」について、話し合う中で課題解決をする活動『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されていること。 ○体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『ゆっくり落ちる紙の形や大きさは？』の問題などが掲載されていること。 ○情報活用能力の育成について、プログラミングの段階的な学習を課題とした『プログラミングで模様を作ろう』などが掲載されていること。 <p>こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、啓林館の「未来へひろがる数学1、2、3」を選定した。</p>		

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 数学

	東書	大日本	学図	教出
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『デザインにひそむ数学』など、『 <u>学びをひろげよう</u> 』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『身の回りのマイナス』など、『 <u>MATHFUL</u> 』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『米は何粒?』など、『疑問を考えよう』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『 <u>ランドルト環</u> 』など、『 <u>数学の広場</u> 』のコーナーが掲載されている。
	啓林館	数研	日文	
	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『緊急地震速報』など、『 <u>自分から学ぼう編</u> 』の『 <u>学びをいかそう</u> 』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『降水確率』など、『 <u>数学旅行</u> 』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『身のまわりの正の数と負の数』など、『 <u>数学のたんけん</u> 』のコーナーが掲載されている。	

	東書	大日本	学図	教出
生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	問題解決の順序を例示した『 <u>身長</u> の平均をくふうして求めてみよう』など、『 <u>深い学び</u> 』のコーナーが掲載されている。	巻頭で学習時の問題発見、問題解決の流れが例示され、実践する課題として『 <u>75°の角度をつくらう</u> 』などが掲載されている。	学習の流れを何段階かにわたって示した、『 <u>文字式の利用</u> 』などの『 <u>数学的活動</u> 』のコーナーが掲載されている。	巻頭で学習時に必要な『 <u>学習のプロセス</u> 』が示され、実践する課題として『 <u>Q 目標を達成することはできるのかな?</u> 』などが掲載されている。
	啓林館	数研	日文	
	巻頭で学習時に必要な3ステップが示され、『身のまわりの問題を、数学を活用して解決するときの考え方』として『 <u>方程式の利用場面</u> 』などが掲載されている。	学習時に必要な手順が『 <u>探究ノート</u> 』の書き込み式のワークシートで示され、『 <u>比例と反比例</u> 』などで実践する課題が掲載されている。	問題解決の順序を例示した『 <u>スタート位置を決めよう</u> 』など、『 <u>学び合おう</u> 』のコーナーが掲載されている。	

	東書	大日本	学図	教出
生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	「知識・技能」の習得について、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題A』『章の問題B』、巻末には『補充の問題』が掲載されている。	「知識・技能」の習得について、節の最後に『たしかめよう』、章の最後に『〇章を振り返ろう』、巻末に各章に対応した問題『補充問題』が掲載されている。	「知識・技能」の習得について、節の最後に『確かめよう』、章の最後に『〇章のまとめの問題』、『〇年の復習』が掲載されている。	「知識・技能」の習得について、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題』、『学習のまとめ』、巻末に各章に対応した問題『補充の問題』が掲載されている。
	啓林館	数研	日文	
	「知識・技能」の習得について、節の中に『練習問題』、章の最後に『章末問題』、巻末に『もっと練習しよう』が設けられている。『自分から学ぼう編』に『力をつけよう』が掲載されている。	「知識・技能」の習得について、節の最後に『確認問題』、章の最後に『問題A・B』、巻末の『チャレンジ編』に『力をつけよう!』『力をのばそう!』が掲載されている。	「知識・技能」の習得について、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『〇章の問題』、『とりくんでみよう』、巻末に『補充問題』、『活用の問題』が掲載されている。	

	東書	教出	啓林館	日文
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『デザインにひそむ数学』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『ランドルト環』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『緊急地震速報』など、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『身のまわりの正の数と負の数』など、『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。

	東書	教出	啓林館	日文
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q 目標を達成することはできるのかな?』などが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『学び合おう』のコーナーが掲載されている。

	東書	教出	啓林館	日文
体験活動の充実	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『くじを先にひく?あとにひく?』などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『立体の体積と表面積』の問題などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『ゆっくり落ちる紙の形や大きさは?』の問題などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした正多面体の特徴を調べる問題などが掲載されている。

	東書	教出	啓林館	日文
情報活用能力の育成	情報活用能力の育成について、標本を無作為に抽出する方法として、コンピューターの表計算ソフトの操作手順が『母集団から標本を取り出す方法について考えてみよう』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、標本と無作為抽出する方法の一つとして、コンピューターの表計算ソフトを利用する方法が、『標本調査とデータ活用』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、プログラミングの段階的な学習を課題とした『プログラミングで模様をつくろう』や『表計算ソフトを使って』などが掲載されている。	情報活用能力の育成について、プログラミングの学習を課題とした『素数を求めるプログラムを考えよう』など、『プログラムと数学』が掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	理科	
発行者の番号・略称	4	大日本
教科書の記号・番号	理科	702、802、902
書名	理科の世界1 理科の世界2 理科の世界3	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の理科においては、生徒の学習意欲や探究心の向上、また、生徒一人ひとりの個性や創造力の伸長をめざすため、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす学習活動、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力の育成に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「主体的・対話的で深い学び」の実現といった観点から全5者の教科書を比較・検討し、東京書籍「新しい科学1、2、3」、大日本図書「理科の世界1、2、3」、啓林館「未来へひろがるサイエンス1、2、3」の3者に絞った。</p> <p>次に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす学習活動に、3年間を通じて観察・実験が、「科学的に探究する力」の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮がなされているかという観点を加え、3者を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」について、『問題を見つけよう』や『結果から考えよう』、『話し合おう』など、探究活動の過程がマークにより示されていること。 ○「科学的に探究する力」の育成について、『問題を見つけよう』『計画を立てよう』『結果から考えよう』『振り返ろう』に重点が置かれ、本文中では色分けしたマークにより示されていること。 ○「思考力・判断力・表現力等」の育成について、探究のプロセスを示す『理科の学習 		

の進め方』が掲載されている。観察・実験では考察するポイントとして『結果から考えよう』や、結果の例が示されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、大日本図書「理科の世界1, 2, 3」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 理科

	東書	大日本	学図
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮に関して	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭に探究の流れや発表の仕方などをイメージするマンガの解説が掲載されている。自分と他者との考えを交流させる活動として『課題に対する結論を表現しよう』や、章の最後の『学んだことをつなげよう』が設けられている。</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、『問題を見つけよう』や『結果から考えよう』など、探究活動の過程がマークにより示されている。また、『話し合おう』のマークとともに対話的な学びの活動を取り入れる場面に、例としてキャラクターの会話が掲載されている。</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭の『理科のトリセツ』で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた『どうやったら対話的になるの？』などの解説が参照ページとともに示されている。単元末に、『ふり返って深める』や『発信して深める』などをまとめた『学び続ける理科マイスター』が設けられている。</p>
	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭に『探究の進め方』が設けられ、探究活動が過程を追って示されている。探究活動において話し合いを取り入れる場面にキャラクターの対話モデルが示されている。また、『話し合おう』や『活用しよう』マークが示され、話し合いや考えを表現する活動が設けられている。</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びについて、第1・2学年の巻末『サイエンス資料』に理科における話し合いと発表の要点が示されている。また、各学年において『話し合ってみよう』、『考えてみよう』、『表現してみよう』や『みんなで解決』のマークとともに話し合いの活動が示されている。</p>	
科学的に探究する力・「思考力・判断力・表現力等」の育成について	<p>・科学的に探究する力の育成について、全学年とも、探究の流れが問題発見『レッツスタート!』で考えたり調べたりして、活用『学びを生かして考えよう』へと続く形式で設定されている。章全体の見通しと振り返りの『Before&After』が設けられている。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、『課題に対する自分の考えは?』『調べ方を考えよう』『考察しよう』など探究の過程に関する言語活動が設けられている。また、理科の見方・考え方が『科学のミカタ』で示されている。</p>	<p>・科学的に探究する力の育成について、全学年とも、『問題を見つけよう』『計画を立てよう』『結果から考えよう』『振り返ろう』に重点が置かれ、本文中では色分けしたマークによって強調されている。実験では、科学的な探究の過程が明確になるように『着目点』などの項目が示されている。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、巻頭に探究のプロセスを示す『理科の学習の進め方』が掲載されている。観察・実験では考察するポイントとして『結果から考えよう』や、結果の例が示されている。また、『自由研究にチャレンジしよう』や、単元末には『読解力問題』が設定されている。</p>	<p>・科学的に探究する力の育成について、全学年とも、各単元に、観察・実験を計画して結果を分析・振り返りをする『探Q実験』が設けられ、重視する『探究のふり返し』の項目に『ここをしっかりと!』と付されている。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、科学的な表現活動の例として観察・実験の後に『わたしのレポート』が掲載され、レポートにまとめる際のポイントが示されている。また、グラフの作成や作図、モデル図の描画など、表現の場面として『かきこみ』が設けられている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	音楽（一般）	
発行者の番号・略称	27	教芸
教科書の記号・番号	音楽	702、803、804
書名	中学生の音楽1 中学生の音楽2・3上 中学生の音楽2・3下	
使用学年	1、2・3、2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の音楽科においては、「多様な活動を通し、生涯にわたり音楽を愛する気持ちの育成」、「日本から世界へ視野を広げる態度の育成」、「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「多様な活動を通し、生涯にわたり音楽を愛する気持ちの育成」、「日本から世界へ視野を広げる態度の育成」、「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」という観点で、教育出版「中学音楽1、2・3上下 音楽のおくりもの」と教育芸術社「中学生の音楽1、2・3上下」という全2者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「多様な活動を通し、生涯にわたり音楽を愛する気持ちの育成」に関して『My Melody』でキャラクターの吹き出しにより、表現の工夫や曲の特長を捉える際の着眼点が示されていること。また『深めよう！音楽』では、表現の工夫に関して考え、仲間と意見交換する活動例が示されていること。 ○「日本から世界へ視野を広げる態度の育成」に関して、全学年において仲間との絆を語る歌詞や、2・3上下では震災からの復興に関する合唱曲が掲載されていること。2・3下での『生活や社会の中の音楽』では、SDGsに関連した、海外での音楽教育による支援活動の事例が掲載されていること。 ○「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」の充実に関して、2・3下で『能』が取り上げられていること。 <p>こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、教育芸術社の「中学生の音楽1、2・3上下」を選定した。</p>		

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 音楽（一般）

	教育出版	教育芸術社
教育基本 法、学校教 育法及び学 習指導要領 との関連	<p>・「思考力・判断力・人間性等」の育成について、全学年の教材に『学びのユニット』として、学びの手掛かりとなる、音楽を形づくっている要素が示されている。教材のページ左下に『比べてみよう』『深めてみよう』がマークで示され、他の教材と比較することで特長やよさを考える機会が設定されている。</p> <p>・「学ぶに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭に『作者の思いにふれる』として第1学年ではシューベルト、2・3上ではベートーヴェン、2・3下では滝廉太郎が、音楽と関わってきた話が掲載されている。また、全学年の『日本の歌、みんなの歌』では歌詞と関連のある風景の写真が掲載されている。</p>	<p>・「思考力・判断力・人間性等」の育成について、『My Melody』でキャラクターの吹き出しにより、表現の工夫や曲の特長を捉える際の着眼点が示されている。また『深めよう！音楽』では、表現の工夫に関して考え、仲間と意見交換する活動例が示されている。</p> <p>・「学ぶに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭では、第1学年では野村萬斎、2・3上では松任谷由実、2・3下では谷川俊太郎、木下牧子の音楽への思いや、人生観が掲載されている。また、巻末の『曲の良さをプレゼンしよう』では、話し合い活動の学習が設定されている。</p>
かながわ教 育ビジョン との関連	<p>【思いやる力】の「人権教育」について、第1学年の合唱曲『明日を信じて』の歌詞には、命の大切さに関する内容が掲載されている。また、『何が同じで何が違う？』において世界の舞台芸術や楽器の特徴の違いなどから、それぞれの文化の多様性について考える学習が設定されている。</p>	<p>【思いやる力】の「人権教育」について、全学年において仲間との絆を讀める歌詞や、2・3上下では震災からの復興に関する合唱曲が掲載されている。2・3下での『生活や社会の中の音楽』では、SDGsに関連した外国での音楽教育による支援活動が掲載されている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	音楽（器楽合奏）	
発行者の番号・略称	27	教芸
教科書の記号・番号	器楽	752
書名	中学生の器楽	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の音楽科では、「多様な活動を通し、生涯にわたり音楽を愛する気持ちの育成」、「自主的に器楽奏法を習得する力の育成」、「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「多様な活動を通し、生涯にわたり音楽を愛する気持ちの育成」、「自主的に器楽奏法を習得する力の育成」、「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」という観点で、教育芸術社「中学生の器楽」と教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」という全2者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「多様な活動を通し、生涯にわたり音楽を愛する気持ちの育成」に関して、『アンサンブル・セミナー』では、示された音楽を形づくっている要素を手掛かりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されていること。また、後半には協働的な学習として合奏教材が掲載されていること。 ○「自主的に器楽奏法を習得する力の育成」に関して、アルトリコーダーの学習で、基本的な技能の習得に向けて課題が段階的に設定されていること。『姿勢と構え方』では注意事項がイラストで解説されていること。 ○「自主的に器楽奏法を習得する力の育成」、「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」に関して、箏の学習で『姿勢と構え方』では、複数方向から撮影した写真が掲載されており、体の向きや力の加減、手の使い方について解説が掲載されていること。 <p>こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、教育芸術社の「中学生の器楽」を選定した。</p>		

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 音楽（器楽）

	教育出版	教育芸術社
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『Let's Play!』では、曲名の下段に、学習目標が示されている。また、題材ごとに先生役や生徒役のキャラクターの吹き出しに演奏方法のイメージについてアドバイスする内容が掲載されている ・リコーダーや和太鼓7の演奏における構え方や姿勢について、手元を拡大した写真が掲載されており、息の流れについて図示され、その方向を示されたりするなど、奏法の改正が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教科書の前半に『アンサンブル・セミナー』が設定され、学習目標が縦書きで表記されている。また、『深めよう！音楽』では、学習目標や表現方法について、仲間との対話を通じた学習事例が掲載されている。 ・箏における『姿勢と構え方』という項目では、複数方向から撮影した写真が掲載されており、体の向きや力の加減、手の使い方について解説が掲載されている。
内容と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成について、『発展』では、世界各地の楽器の文化や伝統について、いつ、どこで、何のために演奏されるかについて調べ、まとめる記入欄が設定されている。また、『話し合おう』では、仲間と意見交換する場面も設定されている ・学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したソプラノリコーダーによる重奏や歌唱曲などが、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーによる重奏や、ギターとリコーダーとの合奏用に編曲されて掲載されている ・主体的・協働的な学習について、合奏教材の『不思議な旋律 PART 1、2』には、【共通事項】である音楽を形づくっている要素の中から、旋律、リズム、音色、構成を取り上げ、仲間と意見交換しながら合奏を完成させる学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として、合奏教材が掲載されている。 ・情報活用能力の育成について、『何が同じで、何が違う？』では、楽器の写真を見たり曲を聴いたりすることで、構造や構え方、特徴などについて、その共通点や相違点を比較する学習が設定されている。 ・主体的・協働的な学習について、合奏教材の『不思議な旋律 PART 1、2』には、【共通事項】である音楽を形づくっている要素の中から、旋律、リズム、音色、構成を取り上げ、仲間と意見交換しながら合奏を完成させる学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として、合奏教材が掲載されている。 ・音楽文化の理解について、『発展』の『吹く楽器の仲間たち』では、世界の吹奏楽器の写真や、素材が説明されており、文化や伝統について考える学習が設定されている。また、太鼓が、古くから地域の伝統行事や祭りにおいて演奏されてきた写真が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成について、『アンサンブルセミナー』の『深めよう！音楽』では、アンサンブルの表現を工夫するために、言語活動例が掲載されており、生徒役キャラクターのアドバイスや投げかけの言葉を手掛かりに、仲間と意見交換する学習が設定されている。 ・学校段階間の円滑な接続について、『アンサンブルセミナー』には、小学校で学習したソプラノリコーダー二重奏曲が掲載されている。また、ギターや楽器の練習曲には、小学校で学習した歌唱曲が編曲されて掲載されている。 ・主体的・協働的な学習について、「学習内容」一覧に、【共通事項】である音楽を形づくっている要素が示されている。また、『アンサンブル・セミナー』では、示された音楽を形づくっている要素を手掛かりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として合奏教材が掲載されている。 ・情報活用能力の育成について、『アンサンブルセミナー』での『深めよう！音楽』で、複数の楽器群より、どの楽器を演奏するかについて考える際に、各パートの役割や旋律、リズムなどの特徴を手掛かりに選択する学習が設定されている ・音楽文化の理解について、巻末に、和楽器に取り組む中学生の様子が掲載されている。また、ギターでは、クラシック以外にフォーク、ロック、ジャズなどのジャンルの違いが紹介されている。『バンドの世界をのぞいてみよう』では、音楽文化の一つとして、ポピュラー音楽が掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	美術	
発行者の番号・略称	38	光村
教科書の記号・番号	美術	702、802
書名	美術 1 美術 2・3	
使用学年	1、2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と獨創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の美術科においては、「対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにすること」や、「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにすること」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、「対象や事象を捉える造形的な視点について理解すること」「表現方法を創意工夫し、創造的に表すこと」「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えること」「主題を生み出し豊かに発想し構想を練ること」「美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めること」を観点として、開隆堂「美術1 発見と創造」「美術2・3 探求と継承」、光村図書「美術1」「美術2・3」、日本文教出版「美術1 美術との出会い」「美術2・3上 学びの実感と広がり」「美術2・3下 学びの探求と未来」という全3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「対象や事象を捉える造形的な視点について理解すること」に関して、基礎的な知識や技能を例示した『学習を支える資料』が掲載されていること。 		

- 「表現方法を創意工夫し、創造的に表すこと」に関して、情報機器の使用方法や、タブレット端末やプロジェクターを使用した活動例が掲載されていること。
- 「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えること」に関して、生活や社会の中の美術や美術文化の関わりを見据えた題材が掲載されていること。
- 「主題を生み出し豊かに発想し構想を練ること」に関して、生徒が主題を生み出し、発想し、構想を練る思考の過程が、アイデアスケッチなどとともに取り上げられ、題材の導入、制作、鑑賞の過程で示されていること。
- 「美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めること」に関して、日常生活の中のデザインが取り上げられていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、光村図書の「美術1」「美術2・3」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 美術

	開隆堂	光 村	日 文
夫や配慮 能「を習得するための工夫や配慮」を生きて働く「知識・技能」	「知識・技能」の習得について、各学年の巻末に『学びの資料』として、基礎的な知識や技能について掲載されている。また、題材ページには、美術に関連する言葉を説明した「美術の用語」が示されている。	「知識・技能」の習得について、各学年の巻末に『学習を支える資料』として、基礎的な知識や技能について掲載されている。また、『みんなの工夫』には、生徒が技能を動かしている様子が紹介されている。	「知識・技能」の習得について、各学年の巻末に『学びを支える資料』として、基礎的な知識や技能について掲載されている。また、題材ページには、知識に関連する『造形的な視点』が示されている。
成を 考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各題材に『思考力・判断力・表現力に関する目標』が示されている。また、『学習のポイント』として『視点の位置を工夫して、表したい風景に合った構図を考えよう。』などの発想・構想の方法や学習の進め方が掲載されている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『発想構想』『みんなの工夫』として、活動中に生徒が発想し、構想を練る思考の過程が、アイデアスケッチなどととも示されている。また『作家の発想・構想』が掲載され、美術家や画家の発想や構想について紹介されている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各題材に『発想や構想、鑑賞に関する目標』が示されている。また、『スケッチに描く対象は、感情がワクワクしたものが全て。』などの『作者の言葉』、学習活動の様子が分かる写真、アイデアスケッチが掲載されている。
貢 りの中で、自己を成長させ、社会に	「社会とかかわる力」の「生きること」について、美術で学ぶデザインや工芸について、身近で見られるロゴマークやはさみなどで説明されている。また、美術で学んだ力が社会の中で、落語家や保育士などの仕事に生かされていることが示されている。	「社会とかかわる力」の「生きること」について、美術で学ぶデザインが身の回りにあることについて、中学生の1日の生活を例にしなが写真とともに示されている。また、各地で行われている美術に関するイベントやプロジェクトが紹介されている。	「社会とかかわる力」の「生きること」について、美術以外の分野のシンガーソングライターやノーベル賞受賞者などの著名人を取り上げ、『美術には心を落ち着かせる力や、感動をもたらす力がある』などという言葉とともに、美術の学習が社会とつながっていることが示されている。
体験活動の充実	体験活動の充実について、美術館での鑑賞活動だけではなく、絵本や地図など、身近にあるものや地域にある造形物が紹介されている。また、日本各地の『明かりの行事』である『秋田竿灯まつり』などが掲載されている。	体験活動の充実について、美術館での鑑賞活動だけではなく、身の回りにある椅子に実際に座ってみたり、複数の角度から見てみたり、運んでみたりする活動や、公共の場にある椅子の形や色、材料に目を向ける活動が紹介されている。	体験活動の充実について、美術館の作品を鑑賞する活動だけではなく、地域の自然の材料や工芸技術を取り入れた列車のデザインを鑑賞する題材が掲載されている。また、自分たちの地域にあるものや漫画、パブリックアートを鑑賞する題材が掲載されている。
情報活用能力の育成	情報活用能力の育成について、デジタルカメラなどを使用したコマ撮りアニメーションの制作方法が示されている。また、映像メディアを活用する特設ページが設定され、表現の可能性が上げられる撮影機器と、その扱い方や活用例が掲載されている。	情報活用能力の育成について、情報機器の使用の方法やタブレット端末やプロジェクターを使用した活動例や、映像制作の流れなどが示されている。また、映像を使って空間の演出をしている事例が掲載されている。	情報活用能力の育成について、デジタルカメラやパソコンなど、情報機器を使用した写真表現や動画映像の表現方法が示されている。また、ヴァーチャル・リアリティの鑑賞事例が掲載されている。

<p>生徒の学習上の困難に応じた工夫</p>	<p>生徒の学習上の困難に応じた工夫について、中学校以上で習う漢字にルビが記載されている。また、各ページの図版には、番号が示されている。安全に関する注意点については、注意を促すマークが記載されている。</p>	<p>生徒の学習上の困難に応じた工夫について、『みんなの工夫』では、<u>2人の生徒が表現している過程が、発想や構想の段階から完成作品までの順序が、活動の様子やアイデアスケッチなどの写真や文で示されている。</u></p>	<p>生徒の学習上の困難に応じた工夫について、題材ページには、完成した作品だけではなく、『試しながら、発想を広げよう』『話して、つなげて、深めよう』などと題し、生徒の制作途中の様子が、写真や文などで示されている。</p>
<p>体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。</p>	<p>判型はA4変型判が採用されている。3ページ扱いの片観音開きや、4ページ扱いの両観音開きになる箇所において、伊藤若冲などの作品が掲載されている。</p>	<p>判型はA4判が採用されている。3ページ扱いの片観音開きや、4ページ扱いの両観音開きになる箇所において、俵屋宗達などの作品が掲載されている。</p>	<p>判型はA4変型判が採用されている。3ページ扱いの片観音開きや、4ページ扱いの両観音開きになる箇所において、尾形光琳などの作品が掲載されている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	保健体育	
発行者の番号・略称	2	東書
教科書の記号・番号	保体	701
書名	新しい保健体育	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の保健体育科の教科目標は「6年間を見通した系統的な学習指導」であり、仲間とのグループワークや教え合いにより、体育や保健の見方・考え方を働かせる学習展開を実践している。</p> <p>本校の前期課程・保健体育科においては、「基礎的・基本的な知識を習得し、健康や環境・社会のしくみに関心を持って学習に取り組めるようにすること」や、「自らの生活を振り返り、より良く生きていくことができる力を育成すること」をめざしている。また、後期課程においてめざす「セルフプロモーションの考えに立った行動の選択やヘルスプロモーションの考え方にもとづく活動で自らの健康をコントロールしていくことのできる力の育成」ということに重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、「基礎的・基本的な知識を習得し、主体的に学習に取り組むこと」「自らの生活を振り返り、より良く生きていくことができる力の育成」「ヘルスプロモーションの考え方により、自らの健康をコントロールしていくことのできる力の育成」といった観点から、東京書籍「新しい保健体育」、大日本「中学校保健体育」、大修館「最新 中学校保健体育」、学研「中学保健体育」という全4者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「基礎的・基本的な知識を習得し、主体的に学習に取り組むこと」に関して、各単元の授業の流れが『見つける』『学習課題』『課題の解決』『広げる』の4ステップで示されており、流れに沿って学習を進める活動が掲載されていること。また、これらに加えて、学習内容に関連する動画やシミュレーション、他教科の教科書紙面など、学習を進める上での教科書表記のDマークコンテンツが掲載されていること。 ○「自らの生活を振り返り、より良く生きていくことができる力の育成」に関して、自分の経験などと関連させ発表する活動を取り上げた『活用する』のコーナーが掲載されていること。 ○「ヘルスプロモーションの考え方により、自らの健康をコントロールしていくことのできる力の育成」に関して、学校段階間の円滑な接続について、『章の扉』に各章の 		

学習に関連する小学校や高等学校の学習内容が示されているとともに、道徳科との関連について掲載されていること。

こうした題材や資料等が、本校の生徒の学習に最も適していると判断し、東京書籍の「新しい保健体育」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 保健体育

	東書	大日本	大修館	学研
生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか	学習の流れを示した『見つける』『学習課題』『課題の解決』『広げる』が4ステップで示されている。また、巻末に『キーワードの解説』が設定されている。	学習の流れを示した『やってみよう』『意見を出そう』『考えよう』などの項目があり、当てはまるものをチェックする欄を設けた『課題をつかむ』が設定されている。	学習の流れを示した『やってみよう』『意見を出そう』『考えよう』などの項目があり、当てはまるものをチェックする欄を設けた『課題をつかむ』が設定されている。	学習の流れを示した『学習の目標』『課題をつかむ』『考える・調べる』『まとめる・深める』という目標や学習活動が設定されている。
ICTを活用した情報活用能力の育成に配慮がなされているか	二次元コードを読み込み「D マークコンテンツ内 容一覧」にある動画教材やシミュレーション教材などにアクセスして学習することができる。	二次元コードを読み込み、ウェブサイトにある動画や資料を使って学習することができる。	二次元コードを読み取って、学習に関連する情報を調べたり、動画で詳しく調べたりするウェブサイトアクセスすることができる。	二次元コードを読み込み、「教科書サイト」にアクセスすることでコンテンツを得られる。
生徒が個人生活における健康・安全について科学的に思考し、判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できるような学習活動が取り上げられているか	学習した資料を基に、自分の経験などに関連させた発表する活動を取り上げた『活用する』のコーナーが設定されている。また、課題の解決に向けて見開きページに発問が設定されている。	学習した資料を基に、自分の日常生活について考え、話し合う活動を取り上げた『話し合ってみよう』のコーナーが設定されている。また、グループでの話し合い活動などを取り上げた『学びを活かそう』が掲載されている。	学習した資料を基に、自分の考えを書き込み、意見を出し合う活動を取り上げた『話しあおう』『発表しよう』『生かそう』のコーナーが『学習のまとめ』で設定されている。また、学んだことを活用する『思考・判断・表現の問題』が掲載されている。	具体的に意見を出し合う『考える・調べる』コーナーや学習したことを基に、話し合う『まとめる・深める』コーナーが設定されている。また、グラフを読み取り、意見を出し合う活動を取り上げた『考える・調べる』が設定されている。
学校段階間の円滑な接続	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章の扉』が掲載されている。	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章扉』が掲載されている。	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章とびら』が掲載されている。	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章の扉』が掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	技術・家庭（技術分野）	
発行者の番号・略称	6	教図
教科書の記号・番号	技術	702、703
書名	New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する技術ハンドブック	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の技術・家庭科技術分野においては、「材料と加工、生物育成、エネルギー変換及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する」「技術と社会や環境との関わりについて理解を深める」「技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる」ことを育てる力とし、観点とした。これらを踏まえ、全3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「材料と加工、生物育成、エネルギー変換及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する」ことについて、実習を進める際に必要な作業手順が『つくってみよう』として掲載されていること。 ○ 「技術と社会や環境との関わりについて理解を深める」ことについて、『Society 5.0』による未来社会を考察する活動や、社会で活躍する人々を例示した『特集→Technology』や『技ピト』が掲載されていること。 ○ 「技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる」ことについて、技術の見方・考え方を働かせた学習として技術のプラス面、マイナス面の両面の例を資料として取り上げた『技術のプラス面とマイナス面』が掲載されていること。 <p>加えて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「表現やコミュニケーションにおいてコンピュータを効果的に活用する能力を養うこと」や「情報を主体的に活用し、情報社会に主体的に参加する態度を育てること」について、技能を掲載した別冊『技術ハンドブック』にプログラミングの基本技能が掲載されていること。 		

○ 課題を解決する力を養う学習過程について、『問題の発見する』『目的や条件をもとに構想を考える』『構想を具体化する』『設計をまとめる』の4つのステップを例示した『設計の手順』が掲載されていること。

○ 巻末資料に設計に関して『構想図』などの図を記入するワークシート『設計計画表にまとめよう』が掲載されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、教育図書「New 技術・家庭 技術分野」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 技術・家庭科（技術分野）

	東書	教図	開隆堂
教育基本 法学校教育 法 及び学習 指導要領 との関連	・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、着目する視点を例示した『問題解決カード』というワークシートや『チェック 技術の見方・考え方』という項目が掲載されている。	・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、設計を4ステップで表した問題解決の考え方を例示し、 <u>実習をプラス面、マイナス面から取り上げた『やってみよう』が掲載されている。</u>	・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、それぞれの過程での考え方を取り上げた『問題解決の流れ』が掲載されている。

	東書	教図	開隆堂
かながわ 教育ビジ ョンとの 関連	[社会とかがわる力]の「働くことの大切さ」について、『これからのエネルギー変換の技術について考える』などの技術の未来を取り上げた『未来のTechnology』ワークシートが掲載されている。	・[社会とかがわる力]の「働くことの大切さ」について、 <u>『Society5.0』による未来社会を考察する活動や、社会で活躍する人々を取り上げた『特集→Technology』が掲載されている。</u>	・[社会とかがわる力]の「働くことの大切さ」について、今までの技術の歴史と社会との関わりが取り上げられた『技術の工夫・創造と私たちの未来』が掲載されている。

	東書	教図	開隆堂
内容と構 成	<p>・実践的・体験的な活動について、体験的な活動を通して取り組む課題を取り上げた『活動』マークが掲載されている。ワークシート例が『問題解決カード』として掲載されている。</p> <p>・「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、技術の見方・考え方を例示した『最適化の窓』が掲載されている。見方・考え方に関するコメントを取り上げた『ミカタン』が掲載されている。</p> <p>・課題を解決する力を養う学習過程について、問題の発見、課題の設定、設計・計画、製作などの過程を取り上げた『問題解決カード』が掲載されている。</p>	<p>・実践的・体験的な活動について、実践的に画面のデザインを考える活動などを例示した『やってみよう』や『つくってみよう』の項目が掲載されている。</p> <p>・「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、社会で使われている技術のプラス面、マイナス面の両面について取り上げた『技術のプラス面とマイナス面』が掲載されている。</p> <p>・課題を解決する力を養う学習過程について、『問題を発見する』や『構想を具体化する』などの4つのステップを例示した問題解決の『設計の手順』やワークシート例が掲載されている。</p> <p>・言語能力の育成について、設計に関して『構想図』などの図を記入するワークシート『設計計画表にまとめよう』が掲載されている。</p>	<p>・実践的・体験的な活動について、知識の理解に関する『実験』が掲載されている。また、実習例に学習過程を例示した『問題の発見』や『評価・改善』などが掲載されている。</p> <p>・「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、ガイダンスには、『工夫』『技術のしくみ』『科学的な原理・法則』の視点から電気ストーブを例に、『技術の見方・考え方』が掲載されている。</p> <p>・課題を解決する力を養う学習過程について、製作者の意図が取り上げられた『いすに込められた工夫の例』が掲載されている。学習過程を例示した『問題解決の流れ』が掲載されている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	技術・家庭（家庭分野）	
発行者の番号・略称	6	教図
教科書の記号・番号	家庭	702
書名	New 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する	
使用学年	1・2・3	
<p>【選定理由】</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の技術・家庭科においては、「身の回りに関する生活事象に興味を持ち、学びを実生活にいかすことのできる実践的な態度を持った生徒」、「世界と関わりあっているという事を知り世界における様々な取り組み（資源・環境について）など、広い視野で物事を見つめられる生徒」の育成をめざしている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「体験的な学習活動や問題解決型の学習を通じ、思考力・判断力・表現力等の育成を図り、社会において人々と協働できる実践力の育成」、「家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する学習を通じ、家族や地域の一員として主体的に問題を見いだし解決策を構想し工夫できる能力と態度の育成」、「よりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする実践的な態度の育成」という観点から、全3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「体験的な学習活動や問題解決型の学習を通じ、思考力・判断力・表現力等の育成を図り、社会において人々と協働できる実践力の育成」に関して、実践的、体験的な活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、自分の生活の中から問題を発見する活動例が『学びを生かそう』などで設定されていること。 ○ 「家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する学習を通じ、家族や地域の一員として主体的に問題を見いだし解決策を構想し工夫できる能力と態度の育成」に関して、成人年齢引き下げや、持続可能な社会の実現、フェアトレードやエシカル消費など、自立した消費者となるための基礎的な知識と態度を育てることをねらいとした内容が掲載されていること。 		

- 「よりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする実践的な態度の育成」に関して、中学生にとって日常的に必要な栄養素の摂り方や献立作成、調理や食文化など知識と技術の習得について、基礎的内容から発展的な内容までが示されている。また、実習では、材料・調理手順など調理のポイントなどが示されていること。

その他、

- 発展的な学習内容としての資料が掲載されていること。
- 伝統や文化に関する教育の充実について、衣・食・住生活に関する資料が掲載されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、教育図書「New 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する」が本校生徒の学習に最も適していると判断し、選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 技術・家庭（家庭分野）

	東書	教図	開隆堂
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>・「知識・技能」の習得について、巻頭に家族・家庭の基礎的な機能などの『家庭分野のガイダンス』が示されている。各章末の『学習のまとめ』や実習の『いつも確かめよう』が設定されている。</p>	<p>・「知識・技能」の習得について、『日常の1食分の調理』など、課題解決学習の流れが『問題を発見する』など6つのまとまりで示されており、<u>思考力・判断力・表現力等の育成</u>について、知識や技能を活用した課題解決の流れが『<u>問題の発見</u>』『<u>課題を設定する</u>』などで示されている。</p>	<p>・「知識・技能」の習得について、ポイントとなる語句は太字で示されている。また、『しょうが焼き』など、基本的な調理手順や調理理論が示されている。</p>
かながわ教育ビジョンとの関連	<p>・『たくましく生きる力』の「消費者教育」について、自立した消費者に関するエシカル消費や消費者市民社会の説明などが『私たちの消費生活と環境』などに示されている。</p>	<p>・『たくましく生きる力』の「消費者教育」について、<u>自立した消費者、持続可能な社会の実現</u>について『消費生活が社会に与える影響を考えよう』などに取り上げられている。</p>	<p>・『たくましく生きる力』の「消費者教育」について、持続可能な社会の実現に向けた自立した消費者に関する取組が『消費行動が社会に与える影響』で、示されている。</p>
内容と構成	<p>・伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統的な文化が『日本の食生活と和食の調理』など、衣・食・住などで取り上げられている。</p> <p>・包丁の持ち方や姿勢、食品の切り方など実習の技能などが、各編において『いつも確かめよう』で示されている。</p> <p>・実践的・体験的な活動を通じた既習事項の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、知識・技能を活用する例が『弁当作りに挑戦しよう』などで示されている。</p>	<p>・伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統的な文化が『地域の食文化を知ろう』など、衣・食・住の各章で、取り上げられている。</p> <p>・各編において『やってみよう』『学びを生かそう』『章末のまとめ』が<u>基礎・基本から、発展的な題材へと順に記載</u>されている。</p> <p>・<u>実践的・体験的な活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成</u>について、<u>自分の生活の中から問題を発見する活動例</u>が『<u>学びを生かそう</u>』などで設定されている。</p>	<p>・伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統的な文化が『地域の食文化』など衣・食・住の各内容において、取り上げられている。</p> <p>・各編において、学習のポイントや情報を吹き出して伝えるキャラクターが『<u>幼児の発達と衣生活、食生活</u>』などにおいて示されている。</p> <p>・実践的・体験的な活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、<u>家族の気持ちや立場を考えるロールプレイング</u>などの活用例が示されている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	英語	
発行者の番号・略称	2	東書
教科書の記号・番号	英語	701、801、901
書名	NEW HORIZON English Course1 NEW HORIZON English Course2 NEW HORIZON English Course3	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。また、本校の教育理念は「深い洞察と鋭い感性」、「高い志と豊かな人間性」、「幅広い教養と光る知性」の3つである。</p> <p>本校の英語科においては、「表現コミュニケーション力」の育成を重視し、「基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音する活動」、「自然な英語を聞いて、正しく聞き取り、情報を正確に処理する活動」、「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝える活動」、「文字や符号を識別し正しく読む活動や、書かれた内容を考えながら黙読し、その内容が表現されるように音読する活動」、「文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書く活動や、語と語のつながりなどに注意して正しく文を書く活動」にも重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「まとまりのある文章を読む活動」、「読み取った内容を表現につなげる活動」といった観点から全6者の教科書を比較・検討し、東京書籍の「NEW HORIZON English Course 1, 2, 3」、開隆堂の「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1, 2, 3」及び三省堂の「NEW CROWN English Series 1, 2, 3」の3者に絞った。</p> <p>次に、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」という観点を加え、3者を比較・検討した。</p> <p>その結果、「未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮」という観点に関して、</p>		

○領域統合型のプロジェクト活動『Stage Activity』で、冒頭のアイコンとともに『目的・場面・状況』が明示され、互いに作ったポスターを読んで感想を伝え合ったり、クラスメイトに調査としてインタビューをしたり、立場に沿ったメモを作ったりすることなどが行われている。

○まとまった文章を概要把握、詳細理解、自己表現の3段階で読み取る『Read and Think』などの活動が設定されている。

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」という観点に関して、

○学習を見通し振り返る場面として、巻頭の目次が『学習の見通しを立てよう』のタイトルで示され、巻末に『学習を振り返ろう』のタイトルで学年別のCAN-DOリスト形式の学習到達目標が示されている。

○各 Unit の最初に『GOAL』として目標が示され、最後に『CHECK』としてその目標を達成したかどうかの振り返りが示されている。

○グループなどで対話する場面として、互いに向いていると思う仕事を伝え合い、そのアドバイスをもとに表現につなげる活動などが設定されている。

○生徒が考える場面として、『Think and Express Yourself』で、読み取った内容に関連した自分のことについて表現する活動などが設定されている。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、東京書籍の「NEW HORIZON English Course 1, 2, 3」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 英語

	東書	開隆堂	三省堂
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のままとめとして、<u>領域統合型のプロジェクト活動『Stage Activity』</u>で、『“All about Me” Poster（第1学年）』『Research and Presentation（第2学年）』『Let's Have a Mini Debate（第3学年）』などの活動が設定されている。これらの活動では、<u>冒頭のアイコンとともに『目的・場面・状況』が明示され、互いに作ったポスターを読んで感想を伝え合ったり、クラスメイトに調査としてインタビューをしたり、立場に沿ったメモを作ったりすることなどが行われている。</u>また、まとまった文章を概要把握、詳細理解、自己表現の3段階で読み取る『Read and Think』などの活動が設定されている。</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のままとめとして、<u>領域統合型のプロジェクト活動『Our Project』</u>で、『あなたの知らない私（第1学年）』『夢の旅行』を企画しよう（第2学年）』『記者会見を開こう（第3学年）』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で活動の目標が明示され、マッピングで情報を整理したり、リハーサルで互いにアドバイスをし合ったり、原稿メモについてペアでアドバイスしたりすることなどが行われている。また、教科書本文の情報から答えを自由に推測する問い（推論発問）が、『Q&A』の中に『?』のアイコンで示されている。</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のままとめとして、<u>領域統合型のプロジェクト活動『Project』</u>で、『理想のロボットを発表しよう（第1学年）』『修学旅行のプランを提案しよう（第2学年）』『ディスカッションをしよう（第3学年）』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で『何について』『何をやる』などの設定を生徒が書き込んで確認し、モデルとなる発表を聞いたり、ペアで提案内容を考えたり、参加者全員に役割を決めてディスカッションしたりすることなどが行われている。また、聞き取ったことをもとに自分の意見の発信につなげる『Take Action! Listen』などの活動が設定されている。</p>
	教出	光村	啓林館
	<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のままとめとして、<u>領域統合型のプロジェクト活動『Project』</u>で、『オリジナルの標識を考えて発表しよう！（第1学年）』『行ってみたい名所を紹介しよう！（第2学年）』『英語で卒業スピーチをしよう！（第3学年）』などの活動が設定されている。これらの活動では、タイトルと同一の活動目標が示され、モデル発表を聞いてメモを取ったり、アイデアのメモをもとに話す順番を決めたり、マッピングの手法で考えを整理したりすることなどが行われている。また、教科書本文とは異なる場面の英語を聞いてその内容について表現する『Task』などの活動が設定されている。</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のままとめとして、<u>領域統合型のプロジェクト活動『You Can Do It!』</u>で、『“ドリームファミリー”を紹介しよう（第1学年）』『日本のおもしろいものを紹介しよう（第2学年）』『3年間を締めくくる言葉を考えよう（第3学年）』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭に状況設定などが示され、グループ発表を聞き合っ代表を決めたり、ペアで紹介するものを決めたり、モデルとなる英語の詩から作成者の学校生活を想像したりすることなどが行われている。また、モデルの文章を読んでそれに近いテーマで自己表現をする『Goal』などの活動が設定されている。</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のままとめとして、<u>領域統合型のプロジェクト活動『Project』</u>で、『日記を書こう（第1学年）』『あこがれの職業を発表しよう（第2学年）』『有名人にインタビューしよう（第3学年）』などの活動が設定されている。これらの活動では、段階的に手順が示され、よく使われる語句が紹介されたり、発表を聞いて相手に質問したり、モデル対話を聞いてわかったことをメモしたりすることなどが行われている。また、3つのステップでミニスピーチを作成する『Express Yourself』などの活動が設定されている。</p>

	東書	開隆堂	三省堂
内容と構成	<p>○主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の目次が『<u>学習の見直しを立てよう</u>』のタイトルで示され、巻末に『<u>学習を振り返る</u>』のタイトルで学年別のCAN-DO リスト形式の学習到達目標が示されている。第1学年には小学校の学習到達目標、第3学年には高校の学習到達目標も示されている。各 Unit の最初に『GOAL』として目標が示され、最後に『CHECK』としてその目標を達成したかどうかの振り返りが示されている。グループなどで対話する場面として、互いに向いていると思う仕事を伝え合い、そのアドバイスをもとに表現につなげる活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『Think and Express Yourself』で、読み取った内容に関連した自分のことについて表現する活動などが設定されている。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に前後の学年も含めた全体の構成が示され、巻末の『英語で「できるようになったこと」リスト』で領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、自己評価する項目が示されている。各 Program の最初に3観点別の目標が示され、後のプロジェクト活動の目標と連動している。グループなどで対話する場面として、アイデアを出し合って英語でチャットをする活動などが設定されている。生徒が考える場面として、読み取った内容から自由に答えを推測する推論発問などが設定されている。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に『この教科書のしくみ』が示され、巻末の『What Can I Do?』で領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、教科書内で扱った主なパートの振り返り箇所が示されている。各 Lesson の最初に、扱われる新出文法事項に関する英文や活動の目標が示されている。グループなどで対話する場面として、提案するテーマについて話し合う活動などが設定されている。生徒が考える場面として、モデルとなるスピーチ原稿と書き加えられたメモを見て工夫している点を考える活動などが設定されている。</p>
	教出	光村	啓林館
	<p>○主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の『この教科書で英語を学ばみなさんへ』で全体の構成が示され、巻末の『Can-Do 自己チェックリスト』で前後の学年も含めた領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、顔の表情のアイコンで自己評価する項目が示されている。各 Lesson の終わりに3観点別の振り返りの機会が設けられている。グループなどで対話する場面として、スピーチを聞いて感想を言う活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『Think & Try!』で、読み取った内容に関連した表現活動が設定されている。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に学期ごとに区切られた全体構成が示され、巻末の『CAN-DO List』で学年の大きな1つの目標と領域別の目標が示されている。それぞれの目標は、学年が上がるにつれ、以前の学年の目標が併せて示されている。『CAN-DO List』と連動した目標を達成したかどうかを振り返るチェック項目が、各 Unit 末などに『ふり振り返り』として設定されている。グループなどで対話する場面として、留学生が楽しめる観光プランを考える活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『About You』というアイコンで示された箇所に、自分のことに関連して表現する活動が設定されている。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の『この教科書の使い方』で全体の構成が示され、巻末の『Can-Do リスト』で第1学年のうちから中学校3年間を見通した領域別の目標が示されている。この目標は、中学校学習指導要領に示されている領域別の目標にほぼ文言が合わせられている。各 Unit の最初に、パートごとの目標や扱われる文法事項が示されている。グループなどで対話する場面として、発表を聞いた後で発表者に質問する活動などが設定されている。生徒が考える場面として、まとまった文章を読み取り、内容に関連した自分の意見や考えを述べる『Read & Think』が設定されている。</p>

	東書	開隆堂	三省堂
内容と構成	<p>○学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、聞くことから導入されている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコンで明示されている。</p> <p>高校への接続について、第3学年の巻末に示した『CAN-DO リスト』には、高校の領域別の目標が示されている。<u>読む分量の増加に合わせ、本編中の読み物教材の使用語数が段階的に増やされている。</u>図やイラストの内容を表現する活動などを取り上げた『いざというとき役立つ標識』や、即興的な対話につながる課題を取り上げた『Plus One』などが掲載されている。</p>	<p>○学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校で学んだ表現などが扱われている。全編を通し、場面シラバスから導入されている。</p> <p>高校への接続について、<u>通常からまとまりのある文章を読む活動が繰り返され、学年が上がるにつれ語数が増やされている。</u>第3学年の最後には1,000語超の物語文を取り上げた『Further Reading』が掲載されている。</p>	<p>○学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校での学びを振り返り、文構造などが整理されている。小学校の既習語から発信語彙が抽出され、再掲されている。</p> <p>高校への接続について、補充語彙リストの『Word Bank』が設定されている。<u>まとまりのある文章を読む活動の語数が段階的に増やされている。</u>自分から英語に触れる手立てを示した『For Self-study』が掲載されている。</p>
	教出	光村	啓林館
	<p>○学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、イラストやゲームでの復習場面が設定されている。小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。</p> <p>高校への接続について、通常からスパイラルに活動を積み重ね、段階的に扱う語数や表現が増やされている。第3学年の最後には、4つの読み物教材を取り上げた『Further Reading』が掲載されている。</p>	<p>○学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、「聞く」「話す」「書く」の順に活動が設定されている。帯活動で発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。</p> <p>高校への接続について、通常から読む機会と読む量が段階的に増やされている。第3学年では、文章を読み比べ、自分の意見を表現する活動が扱われている。英語学習を続けていく手立てを示した『Your Coach』が掲載されている。</p>	<p>○学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、耳から学習した英語を文字と結び付ける内容で構成され、他ページと比べイラストが大きく使用されている。</p> <p>高校への接続について、通常から段階的に語数を増やしながらか読む活動が扱われている。第3学年の最後に、ディスカッションや長文の作文を取り上げた『Further Study』が掲載されている。補充の読み物教材も2点扱われている。</p>

	東書	開隆堂	三省堂
内容と構成	<p>○生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、領域ごとの活動内容を説明する動物キャラクターが設定され、その吹き出しで活動のヒントが掲載されている。英語の問いに対する回答例、海外の駅名に併記されたカタカナ、英単語の意味に対応したイラストが用意されている。学習活動などの補助として、<u>読み物教材に限らず、まとまりのある文章に使用単語数が併記されている。</u></p>	<p>○生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、マンガ形式による場面理解、英単語の意味に対応した写真、形容詞を視覚的に理解するイラスト、目標文の一覧とその日本語訳の併記、表面にイラスト・裏面に関連する英語を記した『アクションカード』が用意されている。学習活動などの補助として、ページ番号付近の単元の目標番号を示すアイコン、音読回数（5回分）のチェック欄が設けられている。</p>	<p>○生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、『Drill』内にある英語と関連したイラスト、新しく登場するキャラクターの人物紹介欄、言語活動の設定の記入欄、聞き取り教材『Take Action! Listen』で扱われた英文の原稿（巻末の『Audio Scripts』）、思考過程を明示するキャラクターの『ひとりごと』が用意されている。<u>学習活動などの補助として、読み物教材の使用語数や段落番号が併記されている。</u></p>
	教出	光村	啓林館
	<p>○生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、各課で扱う文法事項について示した目次内の罫み、過去の学年のものも含めた日本語訳付きの『重要構文復習リスト』、ものや人などを説明するゲームに使用する絵カードが用意されている。学習活動などの補助として、音読回数（10回分）のチェック欄、教科書内に朱書きされた内容を隠すマスキングシートが用意されている。</p>	<p>○生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、教科書が全編通してストーリー化されていたり、語句の意味に対応した写真が用意されたりしている。学習活動などの補助として、音読のやり方の指示がアイコンで示されていたり、読み物教材の使用語数が併記されたりしている。他ページと比べて帯教材『Let's Talk!』の紙質や大きさを変え、すぐ後に並行して使用する『Active Words』の欄が設けられている。</p>	<p>○生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、各Unitで扱われたテーマに関する日本語コラム『More Information』、語句の意味に対応したイラスト、日本語訳付きの『基本文のまとめ』、英語の文字の発音の仕方の説明、赤いボールの位置や動きで示された前置詞のイメージ図が用意されている。学習活動などの補助として、読み物教材の使用語数が併記されている。</p>

	東書	開隆堂	三省堂
内容と構成	<p>○文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真などから場面などを想像するリスニングで導入 ②教科書本文の概要把握 ③基本文をもとにした練習活動 ④『Mini Activity』で各技能の習得を図る ⑤『Read and Think (第2・3学年)』でまとまった文章を3段階のステップ(概要把握、詳細理解、表現につなげる)で読む ⑥領域統合型の『Unit Activity』で成果を確認 ⑦複数の単元のまとめとして行う領域統合型の『Stage Activity』などで設定されている。また、各技能別に特化した活動、他教科との技能連携題材、読み物教材などが設定されている。</p>	<p>○文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が段階的に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真やリスニングで題材への興味付けを行い、学習の見通しを立てる ②マンガ形式の短い対話で基礎・基本の習得を図る ③教科書本文の題材内容について考える ④自分の言葉で本文をリテリングする(第1学年 Program 9から設定) ⑤学んだ表現をもとに即興で自己表現する ⑥複数の単元のまとめとして行う領域統合型の活動を行うなどで設定されている。また、ペアによるスモールトーク、表現するうえでの技能の紹介、語彙力の増強活動、技能別のコミュニケーション活動、読み物教材などが設定されている。</p>	<p>○文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が並列に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①学ぶ内容への動機付けをし、学習の見通しを立てる ②教科書本文の概要を把握する ③基本文を確認し、文法事項や文構造を理解する ④基本文の練習活動を行う ⑤聞く活動から始める技能別の活動を行う ⑥まとまりのある英文を3段階のステップ(背景知識活性化、繰り返し読む、発信)で読み取る ⑦目的・場面・状況に応じてまとまりのある文章を書く ⑧目的・場面・状況に応じて発表する ⑨複数の単元のまとめとして、領域統合的な活動を行うなどで設定されている。また、聞き取り活動、やり取り活動、読み物教材などが設定されている。</p>
	教出	光村	啓林館
	<p>○文法事項について、小学校で扱った be 動詞と一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①教科書本文ごとの目標を確認 ②教科書本文の内容理解 ③基本文の確認 ④基本文を用いた練習活動 ⑤まとまった内容の振り返りやタスク活動 ⑥文法事項や文構造の整理 ⑦複数単元のまとめとしての領域統合型の課題解決活動などで設定されている。また、並行して帯活動で行うペアによる即興でのチャットやスピーチ、言語の使用場面に応じた活動、技能を高めるコツの紹介、読み物教材、英語の勉強の仕方についてのアドバイスなどが設定されている。</p>	<p>○文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、構成は基本的にストーリー仕立てで、①目標の確認とストーリーの予想 ②教科書本文を理解しながら音読練習 ③本文中で基本文や語彙を確認 ④目的や場面に沿った練習活動 ⑤基本文のルールなどの再確認 ⑥アウトプットと振り返り活動 ⑦複数単元のまとめとして行う領域統合型の言語活動などで設定されている。また、並行して帯教材で扱うリテリング活動、即興でのやり取り活動、領域別の練習教材、国際理解を深める教材、読み物教材などが設定されている。</p>	<p>○文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が段階的に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①テーマに沿った目標の確認 ②教科書本文の概要理解 ③新出文法や新出語句の確認 ④音声での新出文法の確認 ⑤新出文法の練習や表現活動 ⑥テーマに沿ったまとまった文章の読み取り(概要理解、要約、内容について考える) ⑦テーマに沿った発表活動 ⑧背景知識の補足資料 ⑨複数単元のまとめとして行う領域統合型の活動などで設定されている。また、新出文法の振り返り、「話す」「聞く」「読む」の各技能の学習、追加のディスカッション・ライティング活動(第3学年)、追加の読み物教材(第3学年)などが設定されている。</p>

	束書	開隆堂	三省堂
内容と構成	<p>○言語の使用場面について、地域のおすすめの場所を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。この活動は、<u>どのようなおすすめを紹介してほしいのかを「聞くこと」から始め、自分で考えたおすすめのことを「書くこと」「話すこと[やり取り]」をし、グループのメンバーが考えた内容を「読むこと」を行い、「話すこと[発表]」で紹介するという流れで構成されている。</u>この活動における言語の働きとして、「聞き直す」「褒める」「説明する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。</p>	<p>○言語の使用場面について、他人にあまり知られていない自分のことを伝える自己紹介活動の場面を取り上げた『あなたの知らない私』などが掲載されている。この活動は、モデルスピーチを「聞くこと」「読むこと」から始め、自分のスピーチのアイデアについて「話すこと[やり取り]」「書くこと」を行い、マッピングなどで自分の考えを整理し、即興のスピーチを繰り返していく中で原稿をまとめ、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「繰り返す」「礼を言う」「発表する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。</p>	<p>○言語の使用場面について、将来の夢がテーマのスピーチコンテストで発表する場面を取り上げた『将来の夢を紹介しよう』などが掲載されている。この活動は、モデルスピーチを「聞くこと」から始め、ペアやグループで「話すこと[やり取り]」をして互いの興味を確認し、モデルスピーチを「読むこと」で文の構成などを参考にし、自分のスピーチを「書くこと」を行い、練習をして「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「挨拶をする」「褒める」「報告する」「申し出る」「依頼する」などが取り上げられている。</p>
	教出	光村	啓林館
	<p>○言語の使用場面として、紹介したい日本の文化の一つを選んで発表する場面を取り上げた『日本の文化を紹介しよう!』などが掲載されている。この活動は、日本の文化について紹介された英文を「読むこと」から始め、それを参考に紹介したい日本の文化を考えてメモを作り、メモを参考に「書くこと」を行う。その後グループ内で「話すこと[発表]」「聞くこと」を行い、互いに質問や感想を言い合う「話すこと[やり取り]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「挨拶をする」「褒める」「描写する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。</p>	<p>○言語の使用場面として、ウェブサイトの掲示板の内容を参考に議論に参加する場面を取り上げた『学校に必要なものを考えて意見を伝えよう』などが掲載されている。この活動は、掲示板に書かれた意見を「読むこと」から始め、その内容についての賛否を考え、グループで議題を決め「話すこと[やり取り]」「聞くこと」を行い、「書くこと」で議論を整理する。最後に、そのテーマについての自分の賛否を「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「相づちを打つ」「謝る」「説明する」「反対する」「質問する」などが取り上げられている。</p>	<p>○言語の使用場面について、有名人や歴史上の人物などに架空のインタビューをする場面を取り上げた『有名人にインタビューしよう』などが掲載されている。この活動は、ALTにインタビューしている対話「話すこと[やり取り]」からわかったことについてメモを取りながら「聞くこと」から始め、それを参考にインタビューしたい人物を決めて質問事項を「書くこと」を行う。ペアで作った原稿を「読むこと」などを通して練習し、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「相づちを打つ」「歓迎する」「報告する」「申し出る」「質問する」などが取り上げられている。</p>

	東書	開隆堂	三省堂
内容と構成	<p>○小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭の『Unit 0』で学習内容を振り返り、『Unit 1～5』で学習内容を文法面から整理している。単元全体の本文を聞くことから始め、小学校で慣れ親しんだ表現を使って話す活動を行い、中学校の活動につなげている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコン、語彙については『小学校の単語』と囲みで明示されている。『Sounds and Letters』で、音と文字の関係を示した活動が設定されている。1年時の巻末のCan-Doリストは、小学校の目標も表記されている。</p>	<p>○小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Get Ready』『Program 0』を設け、小学校で学んだ表現、アルファベット、つづり字と発音など文字に関わる内容が扱われている。全編を通し、マンガ形式の『Scenes』で、新出表現が場面シラバスから導入されている。ペアのスモルトークのコーナー『Try』が各課2～3か所設けられている。巻末資料として、カテゴリごとにまとめられた『小学校で学んだ単語』が設定されている。目次では、小学校の時に学んだ表現が膏字で表記されている。</p>	<p>○小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Hello, Everyone!』『Starter』が設けられるとともに、『Lesson 1～3』が接続単元として設定されている。この中で、小学校で学んだ言葉の使用場面、語句・表現、アルファベットと文字の読み方などを振り返り、文法事項や文構造が整理されている。小学校で扱った語の中から発信語彙が抽出され、再掲語として各ページの下に卵型のアイコンで表示されている。発音に関して、段階的に音声のルールが示されている。</p>
	教出	光村	啓林館
	<p>○小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Springboard』が設けられ、イラストを使ったリスニングやゲーム、アルファベットや英語の書き方のルールなどを通して、小学校で慣れ親しんだ表現の復習場面が設定されている。『Activity』で、小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。『Activities Plus』の最初の内容は、小学校で学んだ日付や曜日の表現が扱われている。巻末の語彙リストを『Word List①』『Word List②』に分け、『Word List①』には小学校の既習語彙がグループ別に掲載されている。</p>	<p>○小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Let's Be Friends!』が設けられ、小学校で扱った語句と表現を用い、「聞くこと」から始め、「話すこと」、「書くこと」へとつなぐ流れが設定されている。その後の『Unit 3』までは、本文をマンガ形式のレイアウトにすることで扱う文字数が減らされている。帯活動の『Sounds and Letters』で、発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。巻末の『Word List』『基本本文のまとめ』では、小学校での既習事項に桜の花びらのマークが付けられている。</p>	<p>○小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Let's Start』が設けられ、小学校で学習した内容を聞くことから振り返り、耳から学習した英語を文字と結び付ける流れで構成されている。他ページと比べイラストが大きく使用されている。アルファベットの大文字と小文字を順番通りに書く練習をする『アルファベットを読み書きしよう』が設定されている。小学校の行事の英語の名称が、巻末の『Word Box』に記載されている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立平塚中等教育学校 前期課程

種目	道徳	
発行者の番号・略称	116	日文
教科書の記号・番号	道徳	704、705、804、805、904、905
書名	中学道徳 あすを生きる1, 中学道徳 あすを生きる1 道徳ノート 中学道徳 あすを生きる2, 中学道徳 あすを生きる2 道徳ノート 中学道徳 あすを生きる3, 中学道徳 あすを生きる3 道徳ノート	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校がめざす学校像は、「6年間の一貫した教育課程のもとで、幅広い教養と独創性を備え、次世代を担うリーダーを育てていく学校」である。本校の道徳教育の全体計画においては、「自己の役割と責任を自覚し、正義を重んじて、集団生活の向上に努める生徒の育成」や、「自他を認め合い、生命・人権を大切にする生徒の育成」、「高い志と豊かな人間性をもち、広く社会に貢献する生徒の育成」を重点目標とし、「他者の意見を尊重し、多様性を認め合い、社会に貢献する力」を高める学習を行っている。</p> <p>これらを踏まえ、特に、「他者の意見を尊重し、多様性を認め合い、社会に貢献する力」を高める学習活動について、「考え、議論する道徳」、「多面的・多角的に考える工夫」等の観点から、全7者の教科書を比較・検討し、東京書籍「新しい道徳1,2,3」、日本文教出版「中学道徳 あすを生きる1,2,3」、あかつき教育図書「中学生の道徳 自分を見つめる1,自分を考える2,自分をのばす3」の3者に絞った。</p> <p>次に、先に挙げた学校像や道徳教育の重点目標から次の3つの観点、「自主的な態度や向上心を身に付けられるか」、「自己の役割と責任を自覚できるか」、「豊かな人間性と社会貢献する態度を育成することができるか」について3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自主的な態度や向上心を身に付けられるか」に関連して、自己を見つめ考える発問『考えてみよう』『自分に+1』が設けられていること。 ○「自己の役割と責任を自覚できるか」に関連して、キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されていること。 		

○「豊かな人間性と社会貢献する態度を育成することができるか」に関連して、他者理解に触れ、広く社会に貢献する事例が掲載されていること。

加えて、

○「言語活動」の充実を図るための内容が取り扱われ、別冊『道徳ノート』に、自他の考えを記述する欄が設けられていること。また、『学習の進め方』では、話し合いの進め方が写真や、イラストを用いて、考え、議論する話し合い活動が示されていること。

こうした教材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、日本文教出版の「中学道徳 あすを生きる1, 2, 3」を選定した。

「県立平塚中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 道徳

	東書	教出	光村	日文
学校教育法との関連	<ul style="list-style-type: none"> 各内容項目に関連した道徳的諸価値に関する発問が、教材末に『考えよう』として設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値につながる発問が示されている。『道徳の学びを記録しよう』に教材と関連する内容項目が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材名のとなりに、関連する内容項目が示されている。主題に関する発問が、各教材末の『考えよう』に示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容項目に関連した主題が教材名の上に示されている。主題に関する発問が、各教材末『考えてみよう』『自分に+1』に示されている。
	学研	廣あかつき	日科	
	<ul style="list-style-type: none"> 内容項目に関連した発問が各教材末『考えよう』に示されている。巻末に教材と関連する内容項目が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値に関する発問が『学習の手がかり』『考えを広げる・深める』に示されている。巻末の内容一覧に、教材と関連する内容項目が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題に関する発問が、『考え、話し合ってみよう』に設定されている。巻末に教材と関連する内容項目が示されている。 	
	東書	教出	光村	日文
学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> 役割演技などをおして、人と関わることで多面的・多角的な考え方に触れる『ACTION!』のコーナーが設けられている。 授業について振り返ったり、教材から学び、心に残っていることを記述したりする『自分の学びを振り返ろう』が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な学習をおして、多面的・多角的な考え方に触れる『やってみよう』のコーナーが設けられている。 これから学びたいこと、がんばりたいことを記述する欄が巻頭に、『道徳の学びを振り返ろう』が巻末にそれぞれ設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を学んだ後に、別の視点から振り返る『見方を変えて』や『つなげよう』のコーナーが設定されている。 巻末に、学びに向かう自分の思いや、学んだことを記録する、『学びの記録』がシーズンごとに設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が他教科や活動とつなげて示された『プラットフォーム』のコーナーが設定されている。 『考えてみよう』では、主題に関する発問が示され、自分の考えを記述したり、振り返ったりする別冊『道徳ノート』が設定されている。
	学研	廣あかつき	日科	
	<ul style="list-style-type: none"> 視点や学習内容の違う関連情報を取り扱った、『クローズアップ+プラス』などのコーナーが設定されている。 自己を見つめ、振り返るページ『マイプロフィール』が巻頭に、『心の四季』『学びの記録』が巻末に設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を学んだ後に、今の自分の視点で振り返る発問などが、『考えを広げる・深める』のコーナーに設けられている。 毎時間の学習の記録を記述するコーナーや、自分の考えを振り返るコーナーが、別冊『中学生の道徳ノート』に設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いをおし、多面的・多角的な考え方に触れる発問などが、『考え、話し合ってみよう』に示されている。 1年間の心の成長と、1年間の道徳科の時間を振り返るそれぞれのページをおして、道徳科で学びたいことを記述するコーナーが設けられている。 	

	東書	教出	光村	日文
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止の視点から、複数の教材に関連付けた、いじめ・人権について学ぶユニット『いじめのない世界へ』が各学年に設定されている。 ・キャリア教育に関する教材『働くってどんなこと?』や社会参画に関する教材『本が泣いています』が掲載されている。「生きること」に関して、『桂歌丸 生涯・落語』や『ぼくの使命 野村萬斎』などの著名人の経験などが紹介されるコーナー『PLUS+』が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの問題についての教材では、関連する教材でユニットが組まれ、3年間をとおして、継続して学習する設定がなされている。 ・キャリア教育に関する教材『どうせ無理をなくしたい』や社会参画に関する教材『選ぶということ』が掲載されている。「生きること」について、竹下佳江など、身近な先人の生き方から学ぶ教材が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『魚の涙』や『三年目の「ごめんね」』など、いじめの問題を扱った教材に関連した『深めたいむ』のコーナーが、各学年に設けられている。 ・キャリア教育に関する教材『私の働く理由』や社会参画に関する教材『選ぶということ』が掲載されている。「生きること」について、環境教育など現代的な課題について取り上げたコラム『広げよう』のコーナーが設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活を複数の教材から考えるユニット『いじめと向き合う』や、役割演技を行い「いじめ」について考える『プラットホーム』が設けられている。 ・キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。「生きること」について、環境問題、安全教育など、現代的社会的な課題を考えられる教材が設けられている。
	学研	廣あかつき	日科	
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に関連した教材『卒業文集最後の二行』などが配置されている。「生命尊重」などを取り上げた、『クローズアップ+プラス』が配置されている。 ・キャリア教育に関する教材『掃除の神様が教えてくれたこと』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。「生きること」について、ユニット学習として『夢に向かって共に輝く』『地球と地域の未来のために』などが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『ヨシト』など、いじめに関する教材が配置されている。また、『いじめを許さない 私たちの心』のコーナーが各学年の巻末に掲載されている。 ・キャリア教育に関する教材『午前一時四十分』や社会参画に関する教材『加山さんの願い』が掲載されている。「生きること」について、巻末に、現代社会の諸問題や現状を紹介する、第1学年『よりよい未来をつくるために』などのコーナーが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『プロレスごっこ』や『コンスタンチン君 命のリレー』など、いじめ防止や生命尊重に関する教材が配置されている。 ・キャリア教育に関する教材『仕事と心』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。「生きること」について、家族の一員としての自覚に関する、第1学年『形見』などの教材が設定されている。 	

	東書	日文	廣あかつき
教育基本法との関連	<ul style="list-style-type: none"> 『考えよう』として教材末に内容項目に関連した道徳的諸価値を理解する主発問を示している。また、自分のこととして考えられる『自分を見つめよう』が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」の習得について、内容項目に関連した主題が教材名の上に示されている。ねらいに迫る発問の例が、『<u>考えてみよう</u>』、『<u>自分に+1</u>』として教材末に設けられている。また、『プラットフォーム』では学習内容が他教科や活動とつなげて示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値に関する発問が『学習の手がかり』や、『考えを広げる・深める』に示されている。巻末に内容一覧に、教材と関連する内容項目が示されている。また、『thinking』という理解を助ける補助資料のページが設けられている。
学校教育法との関連	<ul style="list-style-type: none"> 役割演技など、人と関わることをとおして、多面的・多角的な考え方に触れる『ACTION!』のコーナーが設けられている。また、人と関わることをとおして、様々な考えに触れる活動型の教材が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を他教科や活動とつなげ、考えや視野を広げる『君の心を打つ言葉』などが『プラットフォーム』のコーナーに配置されている。また、教材末に、<u>自らの考え方をより深く考える『考えてみよう』</u>、『<u>自分に+1</u>』が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を学んだ後に、今の自分の視点から振り返ったり、考えたりする発問が、教材末『学習の手がかり』の中に配置された『考えを広げる・深める』のコーナーに設けられている。
学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> 授業について振り返ったり、教材から学び、心に残っていることを記述したりする『自分の学びを振り返ろう』が設定されている。また、自己を見つめ自己の学びを振り返る『1年間で学ぶこと』のページや、自由に思いを書き込む『つばやき』をはじめ、その時の自分の考えを記述したり、振り返りをしたりするページが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「<u>学びに向かう力・人間性等</u>」の涵養について、巻頭の『<u>道徳科での学び方</u>』で学習過程が示されている。また、『<u>考えてみよう</u>』では、主題に関する発問が示され、自分の考えを記述したり、考えを振り返ったりする別冊『<u>道徳ノート</u>』が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ、振り返るコーナーや、毎時間の学習の記録や、心に残っている授業の記録を記述するコーナーが、別冊『<u>中学生の道徳ノート</u>』に設定されている。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 教材の冒頭には、学ぶ内容項目に関連した学びの観点が示されている。また、教材末に主題に関する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。第1学年『<u>楽寿号に乗って</u>』では、冒頭の『ボランティア活動に参加して』とテーマが示されている。また、各単元末にテーマに対する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。 各教科と関連した教材はページの右下にマークと教科名で示されている。第1学年では、技術・家庭科と関連した『<u>短文投稿サイトに友達の悪口を書く</u>』という教材が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年『<u>あったほうがいい？</u>』、第2学年『<u>自分ってなんだろう</u>』など、問題解決的な学習に関する教材のあとに、問題解決に向けた活動の例を示した『<u>学習の進め方</u>』のコーナーが設けられている。 全学年で自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられ、それらを対比させながら学習する別冊『<u>道徳ノート</u>』に、<u>自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられている</u>。『<u>学習の進め方</u>』では、話し合いの進め方が写真やイラストを用いて、<u>考え、議論する話し合い活動が示されている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 何を考えるのか、全体像をつかむことで主体的に学ぶ見通しをもつ『<u>学習の手がかり</u>』が教材ごとに設けられている。また、『<u>考えを広げる・深める</u>』では、他者と考えを交流する発問や活動が示されている。 他教科・領域・現代的な課題等との関わりが、『<u>内容一覧</u>』に示されている。第1学年、理科と関連した教材『<u>あのハチドリのように</u>』、第2学年では、総合的な学習の時間と関連した『<u>加奈子の職場体験</u>』などが設定されている。

<p>かながわ教育ビジョンとの関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルと友情の問題を扱った第1学年『短文投稿サイトに友達の悪口を書く』や、第3学年『スマホに夢中!』など、SNSやスマートフォンの扱いに関する問題を取り上げた教材が設定されている。 ・キャリア教育に関する教材『動くってどんなこと?』や社会参画に関する教材『本が泣いています』が掲載されている。「生きること」に関して、『桂歌丸 生涯・落語』や『ぼくの使命 野村萬斎』などの著名人の経験などが紹介されるコーナー『PLUS+』が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年『近くにいた友』『違いを意識したコミュニケーション』や第2学年『インターネットでの情報発信』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材や、情報の正しい活用方法について考えられるコラムが設定されている。 ・キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。「生きること」について、環境問題、安全教育など、現代的社会的な課題を考えられる教材が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年『ネット将棋』、第3学年『情報社会をいきていくために』など、情報モラルに関する問題を取り上げた教材が設定されている。また、年代の近い主人公や筆者の教材が設定されている。 ・キャリア教育に関する教材『午前一時四十分』や社会参画に関する教材『加山さんの願い』が掲載されている。「生きること」について、巻末に、現代社会の諸問題や現状を紹介する、第1学年『よりよい未来をつくるために』などのコーナーが設定されている。
-----------------------	---	---	--

令和6年度使用教科用図書採択希望一覧

相模原中等教育学校 前期課程

種目	発行者		教科書			使用学年
	番号	略称	記号	番号	書名	
国語	38	光村	国語	704	国語 1	1
	38	光村	国語	804	国語 2	2
	38	光村	国語	904	国語 3	3
書写	38	光村	書写	704	中学書写一・二・三年	1・2・3
社会 (地理的分野)	46	帝国	地理	703	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	1・2
社会 (歴史的分野)	116	日文	歴史	709	中学社会 歴史的分野	1・2・3
社会 (公民的分野)	46	帝国	公民	903	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	3
地図	46	帝国	地図	702	中学校社会科地図	1・2・3
数学	104	数研	数学	706	日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学1	1
	104	数研	数学	707	見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学1 探究ノート	1
	104	数研	数学	806	日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学2	2
	104	数研	数学	807	見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学2 探究ノート	2
	104	数研	数学	906	日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学3	3
	104	数研	数学	907	見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学3 探究ノート	3
理科	61	啓林館	理科	705	未来へひろがるサイエンス1	1
	61	啓林館	理科	805	未来へひろがるサイエンス2	2
	61	啓林館	理科	905	未来へひろがるサイエンス3	3
音楽 (一般)	27	教芸	音楽	702	中学生の音楽 1	1
	27	教芸	音楽	803	中学生の音楽 2・3上	2・3
	27	教芸	音楽	804	中学生の音楽 2・3下	2・3
音楽 (器楽合奏)	27	教芸	器楽	752	中学生の器楽	1・2・3
美術	38	光村	美術	702	美術 1	1
	38	光村	美術	802	美術 2・3	2・3
保健体育	224	学研	保体	704	中学保健体育	1・2・3
技術・家庭 (技術分野)	9	開隆堂	技術	704	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	1・2・3
技術・家庭 (家庭分野)	9	開隆堂	家庭	703	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	1・2・3
英語	38	光村	英語	705	Here We Go! ENGLISH COURSE 1	1
	38	光村	英語	805	Here We Go! ENGLISH COURSE 2	2
	38	光村	英語	905	Here We Go! ENGLISH COURSE 3	3
道徳	116	日文	道徳	704	中学道徳 あすを生きる 1	1
	116	日文	道徳	705	中学道徳 あすを生きる 1 道徳ノート	1
	116	日文	道徳	804	中学道徳 あすを生きる 2	2
	116	日文	道徳	805	中学道徳 あすを生きる 2 道徳ノート	2
	116	日文	道徳	904	中学道徳 あすを生きる 3	3
	116	日文	道徳	905	中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート	3

相模原中等教育学校の専門委員会の構成及び審議経過について

専門委員会の構成

校長 副校長 教頭 事務長 総括教諭（7名） 以上 11名

審議経過

令和6年度使用教科用図書採択方針及び教科用図書採択手続要領に基づき、次のとおり検討・選定を進めた。

- ◆ 6月8日（木） 第1回専門委員会
- ◆ 6月12日（月） 第2回専門委員会
- ◆ 6月22日（木） 第3回専門委員会

令和6年度は、令和5年度と同一の教科用図書を採択しなければならないことから、各教科指導計画や指導方法の更なる改善に生かしていくため、種目ごとに、各教科担当が昨年度の選定理由や選定した教科用図書の特色等を改めて共有した。

<参考>

教育目標	人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する
育てたい3つの力	(1) 科学・論理的思考力…科学的根拠に基づく考察などにより、さまざまな事象を論理的に理解し、順序立てて説明する力 (2) 表現コミュニケーション力…相手の主張や状況などを的確に把握し、自己の考えや行動をその場にふさわしい方法で表現し、相手に伝えることのできる力 (3) 社会生活実践力…さまざまな社会現象を多面的にとらえる知識や技能を持ち、課題解決のために活用できる力
学校のミッション	6年間の一貫した教育課程や学習環境の中で、多彩で豊かな教育内容の展開を通じて、個性や創造性の伸長を図るよう、カリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組む。 これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備え、よりよい社会の構築に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成するとともに、学年の枠を超えた活動などを通じて、思いやりの心を持ち、自ら進んで未来を切り拓く意欲や行動力あふれる、豊かな人間性とリーダーシップを備えた次世代を担うリーダーを育成する。 教育目標である「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」の達成に向けた取組を推進する。 教科・科目の学習を通して身に付けた知識・技能を基礎としながら、自ら課題を見出し、課題を解決するため、他者と協働する学習に取り組むとともに、自然を探究する学習を通して、科学的・論理的思考力の育成に取り組む。
めざす生徒像	○ 豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒 ○ これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒 ○ よりよい社会の構築に貢献できる生徒

<p>かながわ次 世代教養* について</p>	<p>神奈川の豊かな国際性や歴史・自然など地域の特性を生かしつつ、地球規模で環境や歴史文化、科学技術などを考える視点をもち、適切に情報を活用し、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力を育成する。このために、「IT活用」、「英語コミュニケーション」、「伝統文化・歴史」、「地球環境」の学習を中心に、段階を踏んだ体系的な学習内容と生徒が自ら学び方を学ぶ能動的な学習形態により、6年間継続した学習活動を行っている。</p>
---------------------------------	---

* 県立中等教育学校において、中高一貫教育の特色を生かした探究活動を行うための学習活動のこと

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	国語	
発行者の番号・略称	38	光村
教科書の記号・番号	国語	704、804、904
書名	国語1 国語2 国語3	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒」「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」「よりよい社会の構築に貢献できる生徒」としている。さらに本校の「育てたい力」である「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」も重視している。</p> <p>国語科では、世の中の現象や人の心の動きを言葉を通じて的確に理解し、表現する力を養うこと、我が国の言語文化に触れて豊かな感性を育むことを重視し、「言語能力の育成」「語彙を豊かにすること」「読書活動の充実」等にも取り組んでいる。</p> <p>これらを踏まえ、特に、「言語能力の育成」「語彙を豊かにすること」「読書活動の充実」といった観点から、東京書籍「新編 新しい国語1、2、3」、光村図書「国語1、2、3」、三省堂「現代の国語1、2、3」、教育出版「伝え合う言葉 中学国語1、2、3」という全4者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言語能力の育成」に関しては、『助言を自分の文章に生かそう』や『モアイは語る 一未来の地球』等に『学習の窓』が設けられていること。 ○「語彙を豊かにすること」に関しては、気持ちや状況にふさわしい表現を探す課題や、抽象的な概念を表す言葉を類義語と比べて理解する課題、相手に応じて言葉を選ぶ課題等が取り扱われていること。 ○「読書活動の充実」に関しては、著名なアニメーション映画監督や翻訳家、文芸評論家、小説家等を紹介する文章が掲載された上で、翻訳作品の読み比べや著名な作品が 		

紹介されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、光村図書出版「国語1，2，3」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 国語

	東書	三省堂	教出	光村
内容と構成	<p>・言語能力の育成について、第1学年では、学習のポイントが『飛べ かちめ』の『言葉の力』のコーナーや『学びの扉』のコーナーなどに掲載されている。メモを取り、質問することについて『話を聞いて質問しよう』に掲載されている。</p> <p>第2学年では、学習のポイントが『サハラ砂漠の茶会』の『言葉の力』のコーナーや『学びの扉』のコーナーなどに掲載されている。情報を集めることについて『郷土の良さを伝えよう』に掲載されている。第3学年では、学習のポイントが『絶滅の意味』の『言葉の力』のコーナーや『学びの扉』のコーナーなどに掲載されている。俳句を鑑賞することについて『俳句の読み方、味わい方』に掲載されている。</p> <p>・語彙を豊かにすることについて、第1学年では、『様子を表す言葉』を探す活動が『さんきち』の『広がる言葉』のコーナーに掲載されている。『論理的な言葉の力』『文学的な言葉の力』『対話的な言葉の力』について、系統的な学習として、巻末『学びを支える言葉の力』に掲載されている。第2学年では、『人物像を表す言葉』を考える活動が『辞書に描かれたもの』の『広がる言葉』のコーナーに掲載されている。『論理的な言葉の力』『文学的な言葉の力』『対話的な言葉の力』について、系統的な学習として、巻末『学びを支える言葉の力』に掲載さ</p>	<p>・言語能力の育成について、第1学年では、『課題を決めるときのポイント』が掲載されている。『詩の表現技法』に表現力をつける学習活動が『レポート 調べたことを整理してわかりやすくまとめる』に掲載されている。第2学年では、『短歌合評会』のポイント』が掲載されている。『創作文』に読み手を引きつける言語能力を高める学習活動が『短歌・俳句 表現の仕方を工夫して豊かに表す』に掲載されている。第3学年では、『情報を発信するときのポイント』が『ポスター 情報の信頼性を確かめて考えを発信する』に掲載されている。言語能力を高める学習活動が『読み方を学ぼう』のコーナーに掲載されている。</p> <p>・語彙を豊かにすることについて、第1学年では、『断句』の意味を、似た意味の語句と比較する課題が『玄関扉』の『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。『日本語と英語の音節』のコーナーに、日本語と英語の音節の数の違いが掲載されている。第2学年では、意味がそれぞれ微妙に異なる、大きいことを表す言葉について考える課題が『100年後の水を守る』の『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。日本語と英語の語順の違いについて『日本語と英語の語順』のコーナーに掲載されている。第3学年では、『間』を含んださまざまな表現がどのよう</p>	<p>・言語能力の育成について、第1学年では、『調べた内容を聞く』の課題解決の方法や結果を考えることについて『学びナビ 予想する』のコーナーに掲載されている。資料を読み取る力と表現力を高める学習活動が『学びのチャレンジ』のコーナーに掲載されている。第2学年では、文学作品を読む上での語り手の位置について、『流れメロス』の『学びナビ 変化する語り』のコーナーに掲載されている。表現による違いを知る学習活動が『少しでも変えてみる』に設定されている。第3学年では、一人称で語られた小説の特徴について『故郷』の『学びナビ 「私」が語る<私>』のコーナーに掲載されている。言語能力を高める基本的な視点が『助詞のはたらき』に記載されている。</p> <p>・語彙を豊かにすることについて、第1学年では、3つの言葉の意味の違いを脳を知っていますか』の『言葉と表現』のコーナーに掲載されている。『考え方やイメージに関わる言葉』などが『理解に役立つ言葉』のコーナーに、『意見を述べる活動』の言葉などが『表現に役立つ言葉』のコーナーに掲載されている。第2学年では、接尾語の使い方について考える課題が『紙の建築』の『言葉と表現』のコーナーに掲載されている。『出来事や様子に関わる言葉』などが『理解に役立つ言葉』のコー</p>	<p>・言語能力の育成について、第1学年では、学習する内容が『助言を自分の文章に生かそう』の『学習の窓 自分が書いた文章をよりよくするには』のコーナーに掲載されている。『レポートの例』が『根拠を示して説明しよう』に掲載されている。第2学年では、学習する内容が『モアイは語るー未来の地球』の『学習の窓 論理の展開を吟味する』のコーナーに掲載されている。『自分の立場・意見』の例が『立場を尊重して話し合おう』の『考えをまとめる』に掲載されている。第3学年では、学習する内容が『人間と人工知能と創造性』の『学習の窓 文章を批判的に読む』のコーナーに掲載されている。『合意形成に向けて話し合おう』の『座標軸で整理した例』が掲載されている。</p> <p>・語彙を豊かにすることについて、第1学年では、集めた言葉から気持ちや状況にふさわしい表現を探す課題が『言葉を集めよう もっと伝わる表現を目ざして』に掲載されている。表現するときの参考となる『心情・様子・行為を表す言葉』が『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。第2学年では、抽象的な概念を表す言葉を類義語と比べて理解する課題が『言葉を比べよう もっと伝わる表現を目ざして』に掲載されている。表現するときの参考となる『抽象的な概念、見方や考え方を表す言葉』が『語彙を豊</p>

	<p>れている。第3学年では、『批評する言葉』を探す活動が『百科事典少女』の『広がる言葉』のコーナーに掲載されている。『論理的な言葉の力』『文学的な言葉の力』『対話的な言葉の力』について、系統的な学習として、巻末『学びを支える言葉の力』に掲載されている。</p> <p>・読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『読書への招待』のコーナーで芥川龍之介の『トロッコ』などの作品が紹介され、『作家と作品』では作家の略歴や他の作品などが紹介されている。第2学年では『読書への招待』のコーナーで夏目漱石の『坊っちゃん』などの作品が紹介され、『作家と作品』では作家の略歴や他の作品などが紹介されている。第3学年では『読書への招待』のコーナーで森鷗外の『最後の一句』など作品が紹介され、『作家と作品』では作家の略歴や他の作品などが紹介されている。</p>	<p>な場面で使われるかについての課題が『問の文化』の『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。日本語と英語の慣用表現の言葉の選び方の違いが『日本語と英語の慣用表現』のコーナーに掲載されている。</p> <p>・読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『私の読書体験』のコーナーで著名な作家による『本を読むことのおもしろさ』という文章が掲載され、その作家の作品が紹介されている。第2学年では『私の読書体験』のコーナーで著名な作家による『生涯の友と出会う』という文章が掲載され、その作家の作品が紹介されている。第3学年では『私の読書体験』のコーナーで著名な作家による『谷間の君へ』という文章が掲載され、その作家の作品が紹介されている。</p>	<p>ナーに、『自分の考えを書く活動』の言葉などが『表現に役立つ言葉』のコーナーに掲載されている。第3学年では、語句の意味、用例について考える課題が『問いかける言葉』の『言葉と表現』のコーナーに掲載されている。『慣用句・ことわざ』などが『理解に役立つ言葉』のコーナーに、『質問や評価をする活動』の言葉などが『表現に役立つ言葉』のコーナーに掲載されている。</p> <p>・読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『読書への招待』のコーナーで芥川龍之介の『蜘蛛の糸』などの作品が紹介され、『作品解説』や作家の略歴などが掲載されている。第2学年では『読書への招待』のコーナーで夏目漱石の『坊っちゃん』などの作品が紹介され、『作品解説』や作家の略歴などが掲載されている。第3学年では『読書への招待』のコーナーで森鷗外の『最後の一句』など作品が紹介され、『作品解説』や作家の略歴などが掲載されている。</p>	<p>かに』のコーナーに掲載されている。</p> <p>第3学年では、言葉の変化について理解し、相手に応じて言葉を選ぶ課題が『言葉を選ぼう もっと伝わる表現をみさして』に掲載されている。表現するときの参考となる『見方や考え方を表す言葉、慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語』が『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。</p> <p>・読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『読書コラム』で著名なアニメーション映画監督の文章が紹介され、その監督が紹介する『注文の多い料理店』などの図書が掲載されている。第2学年では『読書コラム』で著名な翻訳家・文芸評論家の文章が紹介され、『翻訳作品を読み比べてみよう』では異なる訳者の『星の王子様』の翻訳作品の一部が掲載されている。第3学年では『読書コラム』で著名な小説家の文章が紹介され、『本の世界を広げよう』では『旅する絵描き』などの図書が掲載されている。</p>
--	--	--	---	--

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	書写	
発行者の番号・略称	38	光村
教科書の記号・番号	書写	704
書名	中学書写一・二・三年	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒」「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」「よりよい社会の構築に貢献できる生徒」としている。さらに本校の「育てたい力」である「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」も重視している。</p> <p>国語科では、世の中の現象や人の心の動きを言葉を通じて的確に理解し、表現する力を養うこと、我が国の言語文化に触れて豊かな感性を育むことを重視し、「言語能力の育成」、「伝統や文化に関する事項の充実」、「日常の学習や生活に役立てる態度の育成」等にも取り組んでいる。</p> <p>これらを踏まえ、特に「言語能力の育成」、「伝統や文化に関する事項の充実」、「日常の学習や生活に役立てる態度の育成」といった観点から、東京書籍「新しい書写一・二・三年」、三省堂「現代の書写一・二・三」、教育出版「中学書写」、光村図書「中学書写一・二・三年」という全4者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言語能力の育成」に関しては、『季節のしおり』や『名文を書いてみよう』等、季節に関する表現や古典の一節を硬筆行書で書く課題が設けられていること。 ○「伝統や文化に関する事項の充実」に関しては、書写の道具の製造過程の紹介、書聖・王羲之の紹介等、伝統文化・文字文化の豊かさについて触れられていること。 ○「日常の学習や生活に役立てる態度の育成」に関しては、手紙や送り状の書き方など、学校での生活や日常生活で用いる例が掲載されており、学級スローガンや立て看板の作成等、生徒の実際の生活に即した取り組みやすい工夫・配慮がなされていること。 <p>こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、光村図書出版「中学書写一・二・三年」を選定した。</p>		

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 書写

	東書	三省堂	教出	光村
内容と構成	<p>・言語能力の育成について、情報を整理したノートやレポートの書き方、効果的なメモの書き方などの学習活動が、各学年の基本単元や『書写活用ブック』に例示されている。第1学年『情報を整理した書き方』では理科の実験ノート、『書写活用ブック』では保育園の訪問レポートが例示されている。第2学年では地域の防災訓練の話し合いメモの例などが示され、第3学年では手書き文字の効果などの特徴をまとめる活動が示されている。</p> <p>・伝統や文化に関する教育の充実について、多様な文字文化について示されたコラム『文字のいずみ』が掲載されている。『書き初め』の模範例が示されている。第1学年では『文字の成り立ちと移り変わり』、第2学年では『文字と絵』『書いて味わおう「平家物語」』、第3学年は『仕事の手書き文字』などが示されている。</p> <p>・生活に役立てる観点について、行事の案内など知識・技能を活用する学習活動が、『生活に広げよう』や『書写活用ブック』などで例示されている。第1、第2学年『生活に広げよう』では学校行事の案内に必要な情報を縦書きの手紙に書いた例や、地域の防災訓練に関する会議録や防災パンフレットなどが例示されている。第3学年『思いを文字で表そう』では効果的な表現について作品例が示されている。</p>	<p>・言語能力の育成について、グループ新聞や情報誌、名言集などの制作や記事を互いに推敲したり、作品を読み合ったりする言語活動が『やってみよう』で例示されている。第1学年『グループ新聞を作ろう』で記事の執筆などの学習活動が例示され、第2学年『情報誌を作ろう』では『わかば探訪』と題し、ふるさとの味を情報誌にまとめる例が示されている。第3学年『名言集を作ろう』では作品を互いに読みあう活動が示されている。</p> <p>・伝統や文化に関する教育の充実について、現代まで続く文字の歴史や文化を取り上げた『文字の変遷』や、文字に関わる仕事で活躍する人物の紹介が掲載されている。第1学年では文字の歴史を取り上げ、『仮名の字形と筆使い』では平仮名の歴史と『いろは歌』が楷書で示されている。第2学年では『いろは歌』が行書で示され、第3学年『身のまわりの文字』では手書き文字を仕事としている人物が紹介されている。</p> <p>・生活に役立てる観点について、書写で学んだことを日常の多様な「書く」場面で用いる『書いて身につけよう』『やってみよう』が設定されている。第1学年『書いて身につけよう』では、縦書きのはがきなどを書く活動が例示されている。第2学年『やってみよう』では、47都道府県名や名文を硬筆で書く活動が設定されている。第3学年『名言集を作</p>	<p>・言語能力の育成について、情報を整理してポスターやレポートを書き、相手に応じた内容の伝え方を考える学習活動などが『学校生活に生かして書く』などに示されている。第1学年『ポスターを書く』では作成したポスターでポスターセッションを行う例を示している。第2学年『新聞を書く』では相手に応じた書き方について考える学習が例示され、第3学年『多様な表現による文字』では取材レポートについて例示されている。</p> <p>・伝統や文化に関する教育の充実について、『文字の変遷』や『日本建築と書』、『芸術としての書道』が掲載され、『書き初め』の模範例が巻末に掲載されている。第1学年では『文字の変遷』、第2学年では『日本建築と書』について『コラム』に掲載されている。第3学年では『芸術としての書道』が巻末に掲載されている。</p> <p>・生活に役立てる観点について、書写で学んだことを用いる『学習を生かして書く』などが設定され、日常で使う手紙などの書式が巻末の『書式の教室』に示されている。第1学年ではノートの書き方のポイントが示され、手紙の書き方は巻末の『書式の教室』で示されている。第2学年『学習を生かして書く』では掲示物など日常で活用できる例が示され、第3学年『三年間の学習の成果を生かそう』では文字の表現効果が示されている。</p>	<p>・言語能力の育成について、硬筆で名文を書いて味わう学習活動として、各学年に『季節のしおり』、書写ブックに『名文を書いてみよう』が掲載されている。第1学年、第2学年の『季節のしおり』では、季節の言葉を硬筆の行書と楷書で書く活動や清少納言『枕草子』の一部を硬筆行書で書いて味わう活動が例示されている。第3学年『名文を書いてみよう』では、松尾芭蕉『奥の細道』を硬筆行書で書く例が示されている。</p> <p>・伝統や文化に関する教育の充実について、書写の道具の製造過程の紹介が裏表紙に掲載され、伝統文化や文字文化については『コラム』や『発展』に掲載されている。巻頭で筆や紙、硯、墨、鉛筆など道具の製造過程が示されている。第1学年の『文字の歴史を探る』や第2学年の『物語を千年書き継ぐ』、第3学年では発展として『なりきり、書聖・王羲之』が設定され、伝統文化・文字文化の豊かさについて示されている。</p> <p>・生活に役立てる観点について、手紙や送り状の書き方など、学校での生活や日常生活で用いる例が掲載され、そのポイントが『日常に役立つ書式』に示されている。第1学年では一年間の学級ローガンや個人の目標を書く活動が設定され、第2学年では行書を活用した立て看板や応援旗などが例示されている。第3学年では、好きな言葉を書</p>

		ろう』では好きな言葉を選び名言集を作る活動が例示されている。		体や筆記具、用紙を選んで作品にする活動が示されている。
--	--	--------------------------------	--	-----------------------------

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	社会（地理的分野）	
発行者の番号・略称	46	帝国
教科書の記号・番号	地理	703
書名	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	
使用学年	1・2	
<p>【選定理由】</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」とし、育成したい力として「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」を掲げている。</p> <p>前期課程の基礎期（1・2年）地理的分野の学習では、「基礎的な知識や技能を習得するための学習活動」、また、「日本・世界の地域、身近な地域などについて調べ、考察した上でレポートを作成し、発表する等の学習活動」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に、地理分野の教科書を選定するにあたり、「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮」の観点を設け、全4者の教科書について比較・検討した。</p> <p>○「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」に関しては、『略地図の描き方』や『統計資料の使い方』などの基礎的・基本的な技能について、資料を読み取るコーナーが取り上げられている。</p> <p>○「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮」に関しては、単元の最初や最後に思考し、表現する活動が設定されている。という点から、帝国書院の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」、日本文教出版の「中学社会 地理的分野」の2者の教科書に絞った。</p> <p>さらに2者の教科書について、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」「言語能力の確実な育成」「情報活用能力の育成」等の観点から、比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <p>○「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」に関して、</p>		

単元の学習内容の確認と対話的な学習テーマが『特設ページ』に掲載されている。

○「言語能力の確実な育成」に関して、単元末に、対話的な学習や言語活動のテーマを掲載した『特設ページ』が設けられている。

○「情報活用能力の育成」に関して、『統計資料を使ってみよう』など、多面的多角的な調べ方を掲載した『技能をみがく』が設けられている。

こうした題材や資料等が、本校生徒に最も適していると判断し、帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（地理的分野）

	東書	教出	帝国	日文
生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	・「知識・技能」の習得について、『地図帳を使って次の都道府県を探しましょう』など、『チェック』が設けられている。また、『日本略地図の描き方』や『統計資料の使い方』などの基礎的・基本的な技能について『スキル・アップ』で取り上げられている。	・「知識・技能」の習得について、『日本の白地図に都道府県名、県庁所在地名を記入し、整理しよう』など、『確認』が設けられている。また、『世界の略地図を描いてみよう』『統計資料を使ってみよう』など基礎的・基本的な技能について『地理の技』で取り上げられている。	・「知識・技能」の習得について、『都・道・府がつく都道府県名をそれぞれ挙げよう』など、『確認しよう』が設けられている。また、『略地図の描き方』『統計資料の使い方』など基礎的・基本的な技能について『技能をみがく』で取り上げられている。	・「知識・技能」の習得について、『47都道府県の県名と県庁所在地名を書きましよう』など、『確認』が設けられている。また、『地図の活用』や『統計資料の活用』などの基礎的・基本的な技能について『スキルUP』で取り上げられている。
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	・「思考力・判断力・表現力等」等の育成について、学習内容ごとに『大陸と海洋はどのように分布しているのでしょうか』などの『学習課題』が設定されている。また、単元の最初と最後に『世界や日本はどのような姿をしているのでしょうか』などの『探究課題』が設けられている。	・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『簡単な世界の略地図を描き、六大陸と三海洋の大まかな位置を書き込もう』などの『表現』が設定されている。また、単元の最後には『韓国と中国の工業発展についてそれぞれ特色をまとめよう』などの『表現しよう』が設けられている。	・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭で『人と自然との関係』など『地理的な見方・考え方』が解説されている。また、学習内容ごとに『地球儀と世界地図の長所と短所を表にまとめ、説明しよう』などの『説明しよう』が設けられている。	・「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭で『人と自然のかかわり』など『地理的な見方・考え方』が解説されている。また、章末に『イギリスのEU離脱を考えよう』などの『チャレンジ地理』が設けられている。

	帝国	日文
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	・主体的・対話的で深い学びについて、『ブラジルの熱帯雨林は、どのようにして開発されているのかな』などの問いがキャラクターの吹き出しで掲載されている。また、単元の学習内容の確認と対話的な学習テーマが『特設ページ』に掲載されている。	・主体的・対話的で深い学びについて、『なぜ六つの祭りが集まって東北絆まつりが開催されているのでしょうか』など学習内容に関連した『クイズ』が設けられている。また、『地域の魅力を広めよう』などの学習テーマが『アクティビティ』に掲載されている。
言語能力の確実な育成	・言語能力の育成について、単元末に、学習内容に関連した言語活動のテーマを掲載した『特設ページ』が設けられている。また、『地域の在り方』では発信の手順が記載されている。	・言語能力の育成について、『地域の魅力を広めよう』など言語活動のテーマを掲載した『アクティビティ』が設けられている。また、『チャレンジ地理』で調べたり議論するためのテーマが記載されている。
情報活用能力の育成	・情報活用能力の育成について、『ハザードマップの読み方』や『防災情報の入手のしかた』などが、『技能をみがく』に掲載されている。また、『資料活用』のマークを示し、資料を活用する際の視点について示されている。	・情報活用能力の育成について、『統計資料を活用する』や『巻末資料の使い方』が『スキルUP』に掲載されている。また、『資料活用』のマークを示し、資料を活用する際の視点が示されている。
生徒が、各分野における「社会的な見方・考え方(地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方)」を動かせる学習ができるための工夫や配慮がなされているか。	・生徒の社会的な見方・考え方を動かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。また、単元の最後にはその単元の問いに関連した『見方・考え方』が示されている。	・生徒の社会的な見方・考え方を動かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。また、学習のまとめりごとの課題に関連した『見方・考え方』が示されている。
社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。	・多面的、多角的に考察し、表現することについて、見方・考え方をもとに考える問いが掲載された『章(節)の学習を振り返ろう』が設けられている。また、表現方法や調べ方が提示された『技能をみがく』が設けられている。	・多面的、多角的に考察し、表現することについて、異なる視点から学習する『地理+α』や対話的な活動『アクティビティ』が設けられている。また、表現方法や調べ方が提示された『スキルUP』が設けられている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	社会（歴史的分野）	
発行者の番号・略称	116	日文
教科書の記号・番号	歴史	709
書名	中学社会 歴史的分野	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」とし、育成したい力として「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」の3つの力を掲げている。</p> <p>前期課程の基礎期（1・2年）における歴史的分野の学習では、「基礎的な知識や技能の習得するための学習活動」、また、「身近な地域の歴史、神奈川県郷土史などについて調べ、考察した上でレポートを作成し、発表する等の学習活動」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に歴史的分野の教科書を選定するにあたり、「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」「情報活用能力の育成」等の観点を設け、全8者の教科書について比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」に関して、学習内容の時期を着色した年表が掲載されている。 ○「情報活用能力の育成」に関して、インターネットを活用した学習が効果的な箇所にはマークが示されている。 <p>という点から、東京書籍「新しい社会 歴史」・帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」・日本文教出版「中学社会 歴史的分野」の3者に絞った。</p> <p>さらに、3者の教科書について、「社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされたか」「主体的・対話的で深い学びに向けた学習活動に資する工夫や配慮」の観点から比較・検討した。</p>		

その結果、

○「社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされたか」に関して、社会的事象を時期や内容、立場を変え表にまとめる作業や、各時代の特色や出来事についての表現活動が『学習の整理と活用』『アクティビティ』に掲載されている。

○「主体的・対話的で深い学びに向けた学習活動に資する工夫や配慮」に関して、各学習内容において、『学習課題』を提示し、『見方・考え方』『深めよう』では、学習課題への理解を深める問いが掲載されている。また、各編は、導入のページと振り返るまとめのページが掲載されている。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、日本文教出版「中学社会 歴史的分野」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果

「社会（歴史的分野）」（令和4・5・6年度用）」令和3年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（歴史的分野）

	東書	教出	帝国	山川
生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	『集める』『読み取る』『まとめる』という3つの視点から技能を身に付ける『スキル・アップ』が設けられている。また、各章末での学習のまとめ活動が『基礎・基本のまとめ』『まとめの活動』で設定されている。	学習内容ごとに、『学習課題』とその課題に即した『確認』『表現』が設けられ、学習内容を振り返る問いが設定されている。資料の読み取り方について『歴史の技』『読み解こう』が設けられている。	各学習内容において、『確認しよう』では知識の確認、『技能をみがく』『やってみよう』では技能を身に付ける課題が設定されている。また、時代を概観させる『タイムトラベル』のページが掲載されている。	各学習内容において、導入の発問、本文、ステップアップによる振り返りという流れが設定されている。また、用語解説を設けたり、資料を読み取る技能の習得に関連した発問が掲載されたりしている。
	日文	自由社	育鵬社	学び舎
	各学習内容で『学習課題』と『確認』が示され、振り返りや技能の習得を図る問い『深めよう』『スキルUP』が設けられている。また、歴史学習に関連する用語説明が『基本用語』で掲載されている。	学習内容ごとに学習課題が設定され、学習内容を確認する問い『チャレンジ』が設定されている。また、章ごとに『調べ学習のページ』『復習問題のページ』『時代の特徴を考えるページ』『対話とまとめ図のページ』が設定されている。	各学習内容において、『課題』とまとめの問いが示され、歴史の流れをつかむ資料として『鳥の目で見ると』『虫の目で見ると』が掲載されている。また、歴史上の人物を紹介する『人物クローズアップ』が設けられている。	各学習内容において、学習課題が設定され、部ごとに『学習のまとめ』が設けられている。各部のはじめに、部の学習課題が掲載されている。各章末に振り返りの活動、各章末に学習のまとめの活動が掲載されている。

	東書	教出	帝国	山川
生徒の学習上の困難さに応じた工夫	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて用語の解説が記載されている。また、見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が左下に設けられている。	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて用語の解説が記載されている。また、各学習内容のテーマ表記の上に、学習している時代が掲載されている。	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて用語の解説が記載されている。また、見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が右端に掲載されている。	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて用語の解説が記載されている。また、歴史上の人物について詳しく説明する『人物』が掲載されている。
	日文	自由社	育鵬社	学び舎
	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて用語の解説が記載されている。また、見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が右端に設けられている。	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、見開きごとに学習内容の時期を着色した年表『歴史モノサシ』が左下に設けられている。	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、社会的事象について詳しく説明する内容が『歴史ビュー』に記述されている。	挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、見開きごとに社会的事象について関連する内容や人物の紹介が掲載されている。

	東書	教出	帝国	山川
情報活用 能力の育 成	書籍やインターネットでの調べ方や集めた情報のまとめ方、発表の方法が『身近な地域の歴史』に示されている。また、インターネットを活用した学習が効果的な部分には『Dマーク』が掲載されている。	書籍やインターネットでの調べ方や、集めた情報のまとめ方、発表方法などが『身近な地域の歴史を調べよう』に示されている。資料や新聞から情報を集めるポイントや図や年表で表す方法が『歴史の技』に掲載されている。	図書館やインターネットを使った情報の集め方や、野外調査の方法、地図の作成方法が『歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた』に掲載されている。また、『資料活用』のマークとともに、発問が掲載されている。	『図書館を利用しよう』『インターネットで昔の地図を見てみた』『発表しよう』などの調査、発表の方法が『身近な地域を調べよう』に掲載されている。また、写真やグラフなどの資料に、発問が掲載されている。
	日文	自由社	育鷗社	学び舎
	情報を読み取る技能、収集する技能、まとめる技能に関する内容が『スキルアップ』に掲載されている。文化財やグラフに『資料活用』のマークを添え、資料を読み取る視点が記載されている。	インターネット調査や図書館などでの調査における留意点が『調べ学習のページ』に掲載されている。また、図書館などで調べた内容をまとめる活動例が『人物カードの作り方』や『800字で人物伝記を書いてみよう』に掲載されている。	情報活用の説明として『調査のしかた』や『調査のまとめ方（調査レポートの書き方）』が『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。また、学習に関連した情報を紹介する内容にマークが記載されている。	学芸員や説明員にインタビューをしながら、調べ学習に取り組む内容が、『地域の博物館で調べる』に掲載されている。また、図書館やインターネットで調べる課題が、『章のふりかえり』に掲載されている。

	東書	教出	帝国	山川
体験活動 の充実	調べ学習の準備や進め方が『地域の歴史を調べよう』に掲載されている。また、インターネットや博物館、美術館での聞き取り調査の方法が、『身近な地域の歴史』に掲載されている。	学び方の手がかかりとして『地域調査の手引き』が『身近な地域の歴史を調べよう』に掲載されている。また、地域の遺跡や古墳、地域の寺社、地域の街道や港を訪ねるなど、地域社会と関わりながら学ぶ例が掲載されている。	調べ学習や発表に関する学習の手順や、図書館や博物館、資料館、インターネットでの調査や、野外・聞き取り調査方法やレポートによる発表に関する内容が『歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた』に掲載されている。	地域の博物館や郷土資料館への見学・調査の学習例が、『身近な地域を調べよう』や『地域からのアプローチ』に掲載されている。また『地域からのアプローチ』では、地域の博物館や郷土資料館への見学・調査が示されている。
	日文	自由社	育鷗社	学び舎
	取り扱う学習テーマと関連させ、博物館や遺跡の見学や調べ学習の方法について、『でかけよう地域調べ』に掲載され、また、資料から課題について考える活動や体験について記述された『チャレンジ歴史』が設定されている。	地域の博物館や史跡への見学・調査の学習例が『地域の歴史を調べる』に掲載されている。また、章ごとに『調べ学習のページ』が設けられ、調査方法の手順やまとめ方の例が掲載されている。	身近な地域の歴史を調査、発表する学習内容、手順が、『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。また、地域に残る文化財や資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を考察する内容が掲載されている。	火おこしや綿から糸を紡ぐなどの体験の様子が、『歴史を体験する』に掲載されている。また、『歴史への案内』で博物館での調査に関する内容を記載した『歴史を体験する』が掲載されている。

	東書	帝国	日文
社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。	『Xチャート』や『くらげチャート』など、考えるための技法が、各章の『まとめの活動』に設けられている。また、『探究課題』『探究のステップ』『学習課題』『チェック』『トライ』が設けられている。	関連する資料から、問題の解決を図るための活動が、『多面的・多角的に考えてみよう』に掲載されている。また、各章末に、学習した内容を自分の言葉でまとめる活動が、『章の学習を振り返ろう』に設定されている。	社会的事象を時期や内容、立場を変えて表にまとめる作業が、編のまとめの『アクティビティ』に設定され、資料をもとに対話したり、体験したりする資料が、『チャレンジ歴史』に掲載されている。
主体的・対話的で深い学びに向けた学習活動に資する工夫や配慮	各学習内容で課題をつかむ『学習課題』が提示され、『チェック』『トライ』で課題解決へむけた問いが掲載されている。また、考え、表現する活動『みんなでチャレンジ』が掲載されている。	各章の問い、節の問い、各学習内容と区別され、学習課題に対応したまとめや振り返りが掲載されている。また、各章のはじめに『タイムトラベル』、各章の終わりに『章の学習を振り返ろう』が掲載されている。	各学習内容において、『学習課題』を提示し、『見方・考え方』『深めよう』では、学習課題への理解を深める問いが掲載されている。また、各編は、導入のページと振り返るまとめのページが掲載されている。
言語能力の確実な育成	話し合いなどの対話的な活動の学習課題が『みんなでチャレンジ』に掲載されている。また、各章の終わりに、時代の特色をまとめる活動『まとめの活動』が設けられている。	各章の終わりに、見方・考え方を働かせながら各時代の特色をまとめる活動が『章の学習を振り返ろう』に掲載されている。また、各学習内容で、社会的事象を表現する問いが『確認しよう』『説明しよう』で掲載されている。	各編のまとめに、各時代の特色や出来事について表現する活動が『学習の整理と活用』や『アクティビティ』に掲載されている。また、対話し表現する内容が『チャレンジ歴史』に掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	社会（公民的分野）	
発行者の番号・略称	46	帝国
教科書の記号・番号	公民	903
書名	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	
使用学年	3	
<p>〔選定理由〕</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」とし、育成したい力として「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」の3つの力を掲げている。</p> <p>公民分野の教科書を選定するにあたり、「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」「言語能力の確実な育成」「情報活用能力の育成」の観点を設け、教科書目録にある全6者の教科書について比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」に関して、学習内容を振り返る課題が『確認』に設定されていることから、教育出版「中学社会 公民とともに生きる」 ○「言語能力の確実な育成」に関して、議論を中心としたテーマ学習、特設ページ『アクティブ公民』が設けられていることから、帝国書院「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」 ○「情報活用能力の育成」に関して、情報を収集、まとめることに関連する内容として『情報スキルアップ』が掲載されていることから、日本文教出版「中学社会 公民的分野」の3者に絞った。 <p>さらに、3者の教科書について、「社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現されるための工夫」「課題を追究・解決する活動の充実を図る工夫」の観点から比較・検討した。</p>		

その結果、

○「社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現されるための工夫」に関して、意見交換を行う中で、他者の見方・考え方を取り入れる活動が『章の学習を振り返ろう』に設定され、また、公民学習への興味・関心を喚起する写真・グラフ・図・表等を読み取るための技能、留意点などが、『技能みがく』に掲載されている。

○「課題を追究・解決する活動の充実を図る工夫」に関して、レポート作成の課題が『課題の探究』として設定されている。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、帝国書院「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（公民的分野）

	東書	教出	帝国
生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	「知識・技能」の習得について、公民の学習を進めるうえで必要な用語や資料の読み取り方について『スキル・アップ』の『法律用語の読み方』や『新聞でメディアリテラシーを身に付けよう』などに記載されている。	「知識・技能」の習得について、毎時間の課題が提示され、学習内容が本文見開きのページで示されるとともに、学習内容を振り返る課題が『確認』に設定されている。また、記述内容を補足する資料として写真やグラフなどが掲載されている。	「知識・技能」の習得について、『KJ法』や『ディスカッション』など、学習するうえで必要な基礎的な技能を体験しながら学び、学習内容に関連する実社会の動きを紹介する特設ページとして『技能をみがく』が設けられている。
	日文	自由社	育鷗社
	「知識・技能」の習得について、見開きページの冒頭に、毎時間提示する学習課題とともに、『見方・考え方』が示されている。また、統計データやグラフの読み取る際のポイントについて『情報スキルアップ』で示されている。	「知識・技能」の習得について、毎時間の学習内容をまとめた『ここがポイント』が掲載されている。また、グループでアイデアを出し合い、意見交換をしながら進めるグループ学習が『アクティブに深めよう』に設けられている。	「知識・技能」の習得について、各章の最後にその章で学習した語句の確認や、自己の考えを自分の言葉で説明する表現活動などで構成された『学習のまとめ』や本時の学習に関連した『学習を深めよう』が設定されている。

	東書	教出	帝国
言語能力の確実な育成	言語能力の育成について、小集団での参加型学習による対話的な活動として、『みんなでチャレンジ』で『模擬裁判をやってみよう』や『決まりについて考えよう』などの題材が設定されている。	言語能力の育成について、ディベートを用いた言語活動による『新しい人権を考える』という題材で、テーマ学習が、特設ページ『言葉で伝え合おう』に設けられている。	言語能力の育成について、『裁判の判決を考えよう』という題材で、論理的な説明と合意形成を目指す議論を中心としたテーマ学習が、特設ページ『アクティブ公民』に設けられている。
	日文	自由社	育鷗社
	言語能力の育成について、『道路の拡張計画について考えよう』という題材で、社会の課題について考えるテーマ学習が、特設ページ『チャレンジ公民』に、設けられている。	言語能力の育成について、『グローバル化によって私たちの生活はどう変わったか、考えてみよう』という題材で、小集団で話し合う言語活動が、特設ページ『アクティブに深めよう』に設けられている。	言語能力の育成について、『新聞の社説を比べてみよう』という題材で、ディベートを行う言語活動が、特設ページ『やってみよう』に設けられている。また、毎時間、学習のまとめに話し合う活動が設定されている。

	東書	教出	帝国
情報活用能力の育成	情報活用能力の育成について、掲載されている資料に、『集める』『読み取る』『まとめる』マークが示されており、情報を収集し、分析し、まとめる活動が設定されている。	情報活用能力の育成について、『メディアが報じる「事実」は「真実」か』や『ソーシャルメディアの影響』など、情報を入力し、活用する際の留意点や課題について読み取る資料が、『メディアリテラシーを学ぼう』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、テレビやインターネットにない新聞の特徴が示されており、実際の新聞記事から事実と意見を区別する活動が『新聞について知ろう』に設定されている。
	日文	自由社	育隣社
	情報活用能力の育成について、情報を収集し、読み取り、まとめる際に必要な知識・技能、留意点などについて『情報スキルアップ』の『統計とグラフを使いこなそう』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、同じ日付の各新聞社の記事を読み比べ、各新聞社がどのように報じているかを話し合い、比較し、まとめる活動が『新聞を読み比べてみよう』に設定されている。	情報活用能力の育成について、写真や地図などの資料を読み取り、話し合う活動が『身近な祭りを調べてみよう』に設定されている。また、冒頭のページに主なマスメディアの特徴について掲載されている。

	教出	帝国	日文
社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、ごみ収集所を設置するにあたって、住民のそれぞれの立場に立った意見を出し合い提案書を作成する活動が『私たちがつくるこれからの社会』で設定されている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、自分の考えを整理して書き出すとともに、意見交換を行う中で、他者の見方・考え方を取り入れる活動が各章の最後の『章の学習を振り返ろう』に設定されている。	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、『日本の議院内閣制とアメリカの大統領制』の仕組みの違いや二つの制度を民主主義の観点から良い点と悪い点をまとめる活動が『内閣のしくみと議院内閣制』の『アクティビティ』で設定されている。
課題を追究・解決する活動の充実を図る工夫	課題を追究・解決する活動について、学習の見通しを記載し、章全体をとおしての『問い』が各章の『学習のはじめに』に提示されている。また、冒頭で提示された『問い』に対して答える活動が章の最後に設定されている。	課題を追究・解決する活動について、レポート作成の課題が『課題の探究』として設定されている。レポートの作成にあたって、『ウェビングマップ』での課題の決定方法や資料収集の仕方、まとめ方など、作成段階ごとの説明が掲載されている。	課題を追究・解決する活動について、レポート作成の『ヒント』や『参考資料の書き方』、『発表のポイント』などが『私たちの課題』に掲載されている。また、『もしも行き詰ってしまったら』が示されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	地図	
発行者の番号・略称	46	帝国
教科書の記号・番号	地図	702
書名	中学校社会科地図	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」とし、育成したい力として「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」の3つの力を掲げている。</p> <p>社会の地図帳を選定するにあたり、「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」「言語能力の確実な育成」「体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか」の観点を設け、東京書籍「新しい社会 地図」、帝国書院「中学校社会科地図」の全2者の教科書について比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生きて働く知識・技能を習得するための工夫や配慮」に関して、地図を活用する課題として『地図活用』が掲載されている。 ○「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮」に関して、資料をもとに考えるテーマ「地域ではどのような違いがあるか答えよう」等の発問が取り上げられている。 ○「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」に関して、主体的・対話的で深い学びについて、発表する課題を示した『地図活用』が掲載されている。 ○「言語能力の確実な育成」に関して、言語活動のテーマが示された『学習課題』が設けられている。 ○「体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか」に関して、版型でA4判が採用されており、生徒が学習しやすくなっている。 		

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、帝国書院「中学校社会科地図」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 社会（地図）

	東書	帝国
生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『一般図を見よう』などで取り上げられた『この地図帳の活用方法』が掲載されている。また、地図活用を促すために『歴史・公民マーク』が示されている。	「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『いろいろな地図を使いこなそう』などで取り上げられた『地図帳の使い方』が掲載されている。また、 <u>地図活用の課題として『地図活用』が設けられている。</u>
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『ヨーロッパの言語分布』や『北海道の土壤』など、資料をもとに考えるテーマが『テーマ資料』で取り上げられている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『五大湖周辺とサンベルト地域ではどのような違いがあるか答えよう』など、 <u>資料をもとに考えるテーマが『地図活用』で取り上げられている。</u>
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びについて、『世界の気候・海流』と『世界各地の平均気温・降水量』など、学習内容と関連する資料が『ジャンプ』で示されている。また、資料の読み取りのポイントなどがキャラクターの吹き出しに示されている。	主体的・対話的で深い学びについて、『伝統工芸品を一つ選び、その特徴やよさについて調べ、クラスで発表しよう』などの学習課題を示した『 <u>地図活用</u> 』が設けられている。また、その中に、 <u>地図の見方や活用の仕方などについても示されている。</u>
言語能力の確実な育成	言語能力の育成について、『ヨーロッパの自動車工場の分布』の資料について『1980年と現在とで、分布にどんなちがいがあるだろう』とキャラクターの吹き出しに掲載されている。また、『環境問題』や『自然災害』など、言語活動のテーマになるページが設けられている。	言語能力の育成について、『世界の言語と宗教の分布にはどのような特徴があるだろうか』など、 <u>言語活動のテーマが示された『学習課題』が設けられている。</u> また、『環境問題』や『自然災害』など、言語活動のテーマになるページが設けられている。
体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	判型はA B判が採用されている。	<u>判型はA 4判が採用されている。</u>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	数学	
発行者の番号・略称	104	数研
教科書の記号・番号	数学	706、707、806、807、906、907
書名	<p>日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学1 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学1 探究ノート</p> <p>日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学2 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学2 探究ノート</p> <p>日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学3 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学3 探究ノート</p>	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒」「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」「よりよい社会の構築に貢献できる生徒」としている。それら教育目標やめざす生徒像の実現に向け、本校では育みたい力として「科学・論理的思考力」、「表現コミュニケーション力」、「社会生活実践力」をあげている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「科学・論理的思考力」、「表現コミュニケーション力」の育成に資する「主体的・対話的で深い学び」「言語能力の確実な育成」「体験活動の充実」といった観点から全7者を比較・検討し、東京書籍「新しい数学」、教育出版「中学数学」、数研出版「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学」の3者に絞った。</p> <p>次に、「科学・論理的思考力の育成に資する主体的・対話的で深い学び」に「社会に貢献する力を育てる」「情報活用能力の育成」という観点を加え、3者を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」について、話し合う中で課題解決をする活動『Q』や『TRY』が掲載されていること。 ○「社会に貢献する力」について、社会で活用されている数学について取り上げた『数学旅行』のコーナーに『暗号と素数』などが掲載されていること。 		

○「情報活用能力の育成」について、実生活で使われている情報について紹介した『暗号と素数』などが、『数学旅行』のコーナーに掲載されていること。

○加えて、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『深海の水圧』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されていること。探究活動に重点を置いた授業を行うことや、学習後に回収して生徒個々の学習状況を確認する別冊「探究ノート」が付属していること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、数研出版「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 数学

	東書	大日本	学図	教出
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『みんなの記録と自分の記録を比べよう』などが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q』で『数学的活動』が掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q 目標を達成することはできるのかな?』などが掲載されている。
	啓林館	数研	日文	
	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q』や『TRY』が掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『学び合おう』のコーナーが掲載されている。	

	東書	大日本	学図	教出
言語能力の確実な育成	言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『身長を平均をくふうして求めてみよう』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。	言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『みんなの記録と自分の記録を比べよう』などが掲載されている。	言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『正の数・負の数の活用』などの『Q』が掲載されている。	言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『正の数・負の数の活用』などの『Q』が掲載されている。
	啓林館	数研	日文	
	言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『説明しよう』や『話しあおう』などが掲載されている。	言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『Q』や『TRY』などが掲載されている。	言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『平均値の求め方をくふうしよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。	

	東書	大日本	学図	教出
体験活動の充実	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『くじを先にひく？あとにひく？』などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『アーガイルチェックの模様』などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした正の数・負の数のたし算の問題などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『立体の体積と表面積』の問題などが掲載されている。
	啓林館	数研	日文	
	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『ゆっくり落ちる紙の形や大きさは？』の問題などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『立体の体積と表面積』の問題などが掲載されている。	体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした正多面体の特徴を調べる問題などが掲載されている。	

	東書	教出	数研
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q 目標を達成することはできるのかな？』などが掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q』や『TRY』が掲載されている。
「社会とかがわかる力」社会とかがわかる力の中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	「社会とかがわかる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学についてのインタビューを取り上げた『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。	「社会とかがわかる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学についてのインタビューを取り上げた巻頭の『数学の広場』のコーナーが掲載されている。	「社会とかがわかる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学について取り上げた『数学旅行』のコーナーに『暗号と素数』などが掲載されている。
他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として、理科と関連した『球が斜面を転がる場面』などが掲載され、『教科関連マーク』が示されている。	カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『素数ゼミ』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。	カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『深海の水圧』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。
情報活用能力の育成	情報活用能力の育成について、標本を無作為に抽出する方法として、コンピューターの表計算ソフトの操作手順が『母集団から標本を取り出す方法について考えてみよう』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、標本と無作為抽出する方法の一つとして、コンピューターの表計算ソフトを利用する方法が、『標本調査とデータ活用』に掲載されている。	情報活用能力の育成について、実生活で使われている情報について紹介した『暗号と素数』や、ICT活用を例示した『ビッグデータ』などが、『数学旅行』のコーナーに掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	理科	
発行者の番号・略称	61	啓林館
教科書の記号・番号	理科	705、805、905
書名	未来へひろがるサイエンス1 未来へひろがるサイエンス2 未来へひろがるサイエンス3	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、本校の教育理念は「科学・論理的思考力」「表現コミュニケーション力」「社会生活実践力」の3つである。</p> <p>本校の理科においては、身に付けた知識・技能を基礎としながら、自ら課題を見だし、課題を解決するため、他者と協働する学習に取り組むとともに、自然を探究する学習をとおして、「科学的・論理的思考力」を育成することをめざしている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」「自然を探究する体験活動の充実」「日常生活や社会とのかかわりあい」といった観点から全5者を比較・検討し、東京書籍「新しい科学」、大日本図書「理科の世界」、啓林館「未来へひろがるサイエンス」の3者に絞った。</p> <p>次に、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」「自然を探究する体験活動の充実」「日常生活や社会とのかかわりあい」に、「他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる」「観察、実験などが、科学的に探究する力の育成がはかられるような工夫や配慮がなされている」という観点を加え、3者を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学びの実現」について、話し合い活動を促す『話し合ってみよう』『考えてみよう』などのマークが掲載されていること。 ○「体験活動の充実」について、巻末の『サイエンス資料』で身近なものでできる自由研究のテーマ例があげられていること。 		

- 「日常生活や社会とのかかわりあい」について、学習内容と関連する『科学コラム』のコーナーが掲載されていること。
- 「他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力の育成」について、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されていること。また、SDGs、ESD・環境教育に関する資料として『ひろがる世界』が掲載されていること。
- 「科学的に探究する力の育成」について、『教科書の使い方』では課題解決のプロセスが示されていること。また、各単元に観察・実験を計画して結果を分析・ふり返しをする『探Qシート』が掲載されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、啓林館「未来へひろがるサイエンス」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 理科

	東書	大日本	学図
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	<p>・全学年とも、巻頭に探究の流れや発表の仕方などをイメージするマンガの解説が掲載されている。自分と他者との考えを交流させる活動として『課題に対する結論を表現しよう』や、章の最後の『学んだことをつなげよう』が設けられている。</p>	<p>・全学年とも、『問題を見つけよう』や『結果から考えよう』など、探究活動の過程がマークにより示されている。また、『話し合おう』のマークとともに対話的な学びの活動を取り入れる場面に、例としてキャラクターの会話が掲載されている。</p>	<p>・全学年とも、巻頭の『理科のトリセツ』で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた『どうやったら対話的になるの??』などの解説が参照ページとともに示されている。単元末に、『ふり返って深める』や『発信して深める』などをまとめた『学び続ける理科マイスター』が設けられている。</p>
	<p>教出</p> <p>・全学年とも、巻頭に『探究の進め方』が設けられ、探究活動が過程を追って示されている。探究活動において話し合いを取り入れる場面にキャラクターの対話モデルが示されている。また、『話し合おう』や『活用しよう』マークが示され、話し合いや考えを表現する活動が設けられている。</p>	<p>啓林館</p> <p>・第1・第2学年の巻末『サイエンス資料』に理科における話し合いと発表の要点が示されている。また、各学年において『話し合ってみよう』、『考えてみよう』、『表現してみよう』や『みんなで解決』のマークとともに話し合いの活動が示されている。</p>	
体験活動の充実	<p>・全学年とも、巻末資料の『理科の学習を深めよう』では校外施設が取り上げられている。</p>	<p>・全学年とも、『自由研究にチャレンジしよう』や校外施設、ジオパークなどが巻末で取り上げられている。</p>	<p>・地学分野において、継続観測が取り上げられている。</p>
	<p>教出</p> <p>・全学年とも、『巻末資料』で身近なものでできる自由研究や校外施設が取り上げられている。</p>	<p>啓林館</p> <p>・全学年とも、巻末の『サイエンス資料』で身近なものでできる自由研究のテーマ例が取り上げられている。</p>	
日常生活や社会とのかわり	<p>・全学年とも、学習内容と関連がある身近な事柄が『つながる科学』で取り上げられている。</p>	<p>・第1学年と第3学年においては、身の回りの物質を用いた実験が扱われている。第2学年では、学習内容に関連して『くらしの中の理科』で取り上げられている。</p>	<p>・各学年とも、活動や探究する実験、学習内容の関連性が示されている。</p>
	<p>教出</p> <p>・全学年とも、学習内容と関連がある身近な事柄が巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。</p>	<p>啓林館</p> <p>・全学年とも、身近な事柄と学習内容の関連が示された内容が、科学コラムの『部活ラボ』や『深めるラボ』で取り上げられている。</p>	

	東書	大日本	学図
既習内容や 発展内容の 表記	・高校の学習内容が『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。	・高校の学習内容が『発展』として取り上げられ、『高』のマークで示されている。	・高校での学習内容が『発展』として取り上げられ、『つながり高校』のマークで示されている。
	教出 ・高校の学習内容が『発展 高校』のマークで示されている。	啓林館 ・高校の学習内容が『発展』として取り上げられ、『高校化学へ』のマークで示されている。	

	東書	大日本	啓林館
SDGs、 ESD・環境教育に関する資料	・SDGsに関連する『温暖化』などを取り上げた『世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。	・SDGsに関連する国際的な取組として『ラムサール条約』などが取り上げられた『SciencePress』のコーナーが掲載されている。	・SDGsをテーマにした2025年大阪・関西万博を取り上げた『ひろがる世界』のコーナーが掲載されている。
生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	・これから学ぶ内容の導入として『レッツスタート!』が各節冒頭に設けられている。また、ページ下端に探究の流れが色分けして示されている。	・巻頭に『①問題の発見』から『⑦解説など』までの問題解決のプロセスと教科書との関連が示された『理科の学習の進め方』が設けられている。	・巻頭に『課題の把握』→『課題の追究』→『課題の解決』のサイクルが示された『探究の過程』や、課題解決のプロセスと教科書本文の関連が示された『教科書の使い方』が掲載されている。
他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる	・全学年とも、自然環境の保全・生命の尊重に関連した新技術に関するコーナーが掲載されている。男女のキャラクターが登場し、イラストには外国にルーツを持つ生徒が活動する様子も掲載されている。	・全学年とも、環境や資源に関する物事に『環境マーク』が表示されている。	・全学年とも、環境保全に関する場面では、『環境マーク』が示されている。また、 <u>男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されている。</u>
観察、実験などが、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされている	・全学年とも、探究の流れが問題発見『レッツスタート!』で考えたり調べられたりして、活用『学びを活かして考えよう』へと続く形式で設定されている。章全体の見通しと振り返りの『Before & After』が設けられている。	・全学年とも、『問題をみつけよう』『計画を立てよう』『結果から考えよう』『振り返ろう』に重点に置かれ、本文中では色分けしたマークによって強調されている。実験では、科学的な探究の過程が明確になるよう『着眼点』などの項目が示されている。	・全学年とも、各単元に、観察・実験を計画して結果を分析・振り返りをする『探Q実験』が設けられ、重視する『探究のふり返し』の項目に『ここをしっかりと!』と付されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	音楽（一般）	
発行者の番号・略称	27	教芸
教科書の記号・番号	音楽	702、803、804
書名	中学生の音楽 1 中学生の音楽 2・3上 中学生の音楽 2・3下	
使用学年	1、2・3、2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本選定における教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、本校の教育理念は「育てたい3つの力」として、「科学・論理的思考力…科学的根拠に基づく考察などにより、さまざまな事象を論理的に理解し、順序立てて説明する力」、「表現コミュニケーション力…相手の主張や状況などを的確に把握し、自己の考えや行動をその場にふさわしい方法で表現し、相手に伝えることのできる力」、「社会生活実践力…さまざまな社会現象を多面的にとらえる知識や技能を持ち、課題解決のために活用できる力」の3つを掲げている。</p> <p>本校の音楽科では、「科学・論理的思考力」、「表現コミュニケーション力」、「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「科学・論理的思考力」「表現コミュニケーション力」「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」に「言語能力の確実な育成」という観点を加え、教科書目録にある全2者、教育出版「中学音楽 1、2・3上下 音楽のおくりもの」、教育芸術社「中学生の音楽 1、2・3上下」を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「科学・論理的思考力」、「表現コミュニケーション力」の育成に関して、『深めよう！音楽』で、自分がどのように表現したいかについて考えを記入し、仲間と意見交換をするためのワークシートが設定されていること。 ○「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」の充実に関して、第1学年では雅楽、箏曲、日本の民謡、2・3上では長唄、義太夫節、郷土の芸能、2・3下では尺八音楽、能、沖縄民謡などが、唱歌によって旋律の特徴を感じ取ったり、図形楽譜で民謡の節回しを演奏したりするなど、体験活動を含めて設定されていること。 ○「言語能力の確実な育成」に関して、『深めよう！音楽』で、表現の工夫に関して考え、 		

仲間と意見交換する活動例が示されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に適していると判断し、教育芸術社の「中学生の音楽 1、2・3上下」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 音楽（一般）

	教育出版	教育芸術社
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年の教材に『学びのユニット』として、学びの手掛かりとなる、音楽を形づくっている要素が示されている。教材のページ左下に『比べてみよう』『深めてみよう』がマークで示され、他の教材と比較することで特徴やよさを考える機会が設定されている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『My Melody』でキャラクターの吹き出しにより、表現の工夫や曲の特徴を捉える際の着眼点が示されている。また、『深めよう！音楽』では、 <u>表現の工夫に関して考え、仲間と意見交換する活動例が示されている。</u>
言語能力の確実な育成	言語能力の育成について、全学年において、鑑賞教材に『話し合おう』の記入欄が設けられており、感想や批評を話し合う活動が設定されている。また、2・3上の『Let's Sing!』では、 <u>意見交換を通して、表現方法を考える学習活動が設定されている。</u>	言語能力の育成について、第1学年と2・3下の『曲のよさをプレゼンしよう』では、音楽について批評した内容を、プレゼンする学習活動が設定されている。また、全学年において『深めよう！音楽』では、 <u>自分がどのように表現したいかについて、意見交換をするためのワークシートが掲載されている。</u>
伝統や文化に関する教育の充実	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では箏曲、尺八音楽、日本とアジアの声による表現、2・3上では雅楽、舞楽、郷土の音楽や芸能、能、2・3下では歌舞伎、長唄、文楽などが取り上げられている。	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では雅楽、箏曲、日本の民謡、2・3上では <u>長唄、義太夫節、郷土の芸能、2・3下では尺八音楽、能、沖縄民謡などが取り上げられている。</u>
「A表現」や「B鑑賞」の教材が、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか	系統的・発展的な配列について、『故郷』の歌唱では、学年が上がるに従って、同声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展されている。また『深めてみよう』により、新たに得た知識・技能が別の教材でも関連付けられるよう、教材配列がされている。	系統的・発展的な配列について、『ふるさと』の歌唱では、学年が上がるに従って、混声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展している。また、『My Voice!』では、 <u>豊かな発声について、学年が上がることに姿勢や呼吸、息の流れのイメージ、豊かな響きへと、配列されている。</u>
文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。	『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています。』『特別支援教育の視点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	音楽（器楽合奏）	
発行者の番号・略称	27	教芸
教科書の記号・番号	器楽	752
書名	中学生の器楽	
使用学年	1・2・3	
<p>〔選定理由〕</p> <p>本選定における教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、本校の教育理念は「育てたい3つの力」として、「科学・論理的思考力…科学的根拠に基づく考察などにより、さまざまな事象を論理的に理解し、順序立てて説明する力」、「表現コミュニケーション力…相手の主張や状況などを的確に把握し、自己の考えや行動をその場にふさわしい方法で表現し、相手に伝えることのできる力」、「社会生活実践力…さまざまな社会現象を多面的にとらえる知識や技能を持ち、課題解決のために活用できる力」の3つを掲げている。</p> <p>本校の音楽科では、「科学・論理的思考力」、「表現コミュニケーション力」、「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、「科学・論理的思考力」「表現コミュニケーション力」「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」に、「体験活動の充実」という観点を加え、教科書目録にある全2者、教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」、教育芸術社「中学生の器楽」を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「科学・論理的思考力」「表現コミュニケーション力」の育成に関して、『深めよう！音楽』で、キャラクターの吹き出しにより、表現の工夫についての対話が例示されていること。 ○「かながわ次世代教養の一つである伝統文化・歴史学習」の充実に関して、箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八の五種類の和楽器から選択して知識・技能の習得ができるように設定されていること。また、各楽器の伝統的な代表曲が鑑賞教材として紹介されているほか、唱歌や楽器本来の楽譜も掲載されていること。 ○「体験活動の充実」に関して、『寄席の合方』によるリズムアンサンブルで、唱歌と手拍子、膝打ちにより『勧進帳』を演奏体験する学習が設定され、合方の特徴を体験する 		

際に、掛声を用いる学習も設定されていること。

こうした題材や資料が、本校生徒の学習に適していると判断し、教育芸術社「中学生の器楽」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 音楽（器楽）

	教育出版	教育芸術社
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びの実現について、『何が同じで、何が違う？』では、楽器の構え方や音の出る仕組み、音色の特徴等について考えるワークシートが掲載されている。また、『発展』では各楽器の成り立ちや伝統などについて仲間と意見交換する場面も設定されている。	主体的・対話的で深い学びの実現について、『深めよう！音楽』では、生徒役キャラクターの吹き出しにより、表現の工夫についての対話が例示されている。また、『回』により、演奏において留意する点が写真などを交えて示されている。
体験活動の充実	体験活動の充実について、鑑賞教材の『勤進帳』の『寄席の合方』の部分を体験的に演奏する活動が掲載されている。また、『楽器と唱歌によるパッチワーク』では、複数のリズムパターンと、唱歌を組み合わせた創作活動により、お囃子の特徴を体験する学習が設定されている。	体験活動の充実について、『寄席の合方』によるリズムアンサンブルでは、唱歌と手拍子、膝打ちにより、『勤進帳』を演奏体験する学習が設定されている。また、合方の特徴を体験する際に、掛け声を用いる学習も設定されている。
「A表現」「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか	系統的・発展的な学習について、全体の構成として、前半は管楽器、後半は弦楽器から打楽器へと、配列されている。また、各楽器の教材は入門から技能の習得、表現や音色の工夫まで、段階的に配置されている。	系統的・発展的な学習について、前半にアンサンブル教材が配置され、『深めよう！音楽』により、対話的な学習が配置されている。各楽器に関連する教材は、全般的な知識、構造、技能が段階的に配置されている。
音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか	音楽文化の理解について、『発展』の『吹く楽器の仲間たち』では、世界の吹奏楽器の写真や、素材が説明されており、文化や伝統について考える学習が設定されている。また、太鼓が、古くから地域の伝統行事や祭りにおいて演奏されてきた写真が掲載されている。	音楽文化の理解について、巻末に、和楽器に取り組む中学生の様子が掲載されている。また、ギターでは、クラシック以外にフォーク、ロック、ジャズなどのジャンルの違いが紹介されている。『バンドの世界をのぞいてみよう』では、音楽文化の一つとして、ポピュラー音楽が掲載されている。
文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。	『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています』『特別支援教育の観点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	美術	
発行者の番号・略称	38	光村
教科書の記号・番号	美術	702、802
書名	美術1 美術2・3	
使用学年	1、2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、本校の教育理念は「育てたい3つの力」として、「科学・論理的思考力…科学的根拠に基づく考察などにより、さまざまな事象を論理的に理解し、順序立てて説明する力」、「表現コミュニケーション力…相手の主張や状況などを的確に把握し、自己の考えや行動をその場にふさわしい方法で表現し、相手に伝えることのできる力」、「社会生活実践力…さまざまな社会現象を多面的にとらえる知識や技能を持ち、課題解決のために活用できる力」の三つを掲げている。</p> <p>本校の美術科においては、「生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わること」、また、「生徒が自ら主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、自分らしい思いや考えをもつこと」に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わること」、「生徒が自ら主題を生み出して表現すること」、「生徒が自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞すること」に、「『A表現』『B鑑賞』の領域と〔共通事項〕の内容を相互に関連させながら取り扱うこと」を加えた観点で、開隆堂「美術1 発見と創造」「美術2・3 探求と継承」、光村「美術1」「美術2・3」、日文「美術1 美術との出会い」「美術2・3上 学びの実感と広がり」「美術2・3下 学びの探求と未来」という全3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <p>○ 「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わること」に関して、身の回りの物事や漫画を造形的な視点で鑑賞する題材が掲載されていること。</p>		

- 「生徒が自ら主題を生み出して表現すること」に関して、2人の生徒が発想や構想をし、表現していく過程が、制作途中の写真や言葉と共に紹介されていること。
- 「生徒が自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞すること」に関して、美術作品を鑑賞する視点が示され、自分が感じたことや考えたことをまとめていく流れが掲載されていること。
- 「『A表現』『B鑑賞』の領域と〔共通事項〕の内容を相互に関連させながら取り扱うこと」に関して、題材に関連した作品鑑賞から導入され、表現と鑑賞を相互に取り組む題材が掲載されていること。
- その他、「思いやる力」の「豊かな心」について、人権を意識した生徒作品の掲載や、伝統や文化に関する教育の充実として「国宝」の明示、絵巻物作品と漫画表現との共通点や違いを探る鑑賞題材があること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、光村「美術1」「美術2・3」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 美術

〈かながわ教育ビジョンとの関連〉

	開隆堂	光村	日文
<p>【思いやる力】他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。</p>	<p>【思いやる力】の「豊かな心」について、小さな子どもが触れることを想定して木のおもちゃをつくる題材や、安心・安全・便利などについて発想や構想をして制作する題材では、生徒作品『ドア開閉安全マーク』や『画びょう入れ』が掲載されている。</p>	<p>【思いやる力】の「豊かな心」について、感謝やお祝いの気持ちなどを伝えるために、使う相手や受け取る相手などの目的に応じて制作するデザインの題材や、『LGBTの人たちが生きやすい社会』を表したポスターと、『いじめ防止缶バッジ』と題した生徒作品が掲載されている。</p>	<p>【思いやる力】の「豊かな心」について、使う相手や、受け取る相手などの目的に応じて制作するデザインの題材や、みんなで話し合いながら『学校紹介ムービー』を共同制作する題材、アール・ブリュット作品の写真が掲載されている。</p>

〈内容と構成〉

	開隆堂	光村	日文
<p>伝統や文化に関する教育の充実</p>	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、日本の国宝に指定されているものについては『国宝』と示されている。また、『名古屋城本丸御殿復元プロジェクト』として、伝統技術の未来への継承や、文化を未来に残すための市民の森づくり事業について掲載されている。</p>	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、日本の国宝に指定されているものについては『国宝』と示されている。また、<u>絵巻物作品『鳥獣人物戯画』や『伴大納言絵巻』などと、『ちびまる子ちゃん』などの漫画表現との共通点や違いを採る鑑賞題材が掲載されている。</u></p>	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、日本の国宝に指定されているものについては『国宝』と示されている。また、『どこまで修復すべきか』では、日本や外国の伝統や文化から、美術文化の継承と創造について記述した鑑賞題材が掲載されている。</p>
<p>生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるような工夫や配慮がなされているか。</p>	<p>身の回りの物事を造形的な視点で捉えるよう、同じ場所の季節が異なる風景写真を使って色彩について説明されている。また、既存の建物の特徴を利用して新しく生まれた美術館やカフェなどのリノベーションされた建物が鑑賞題材として設定されている。</p>	<p>案内用記号や四季の和菓子など、身の回りの生活の中にデザインが活用されていることを鑑賞する題材や、<u>絵巻物と漫画を比較し、現代の漫画には絵巻物に共通する表現が使われていることなどを示した題材が設定されている。</u></p>	<p>美術の学びについて、巻頭に著名人の『学びの言葉』が掲載されている。また、『社会に生きる美術の力』では、『美術には心を落ち着かせる力や、感動をもたらす力があることを。』という、ノーベル生理学・医学賞受賞者の言葉が示されている。</p>

	開隆堂	光 村	日 文
生徒自らが主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、表現及び鑑賞の題材に、自分らしい思いや考えをもつための工夫や配慮がなされているか。	作品に表現の主題が『作者の言葉』として示されている。また、表現の主題をグループで話し合いながら決めている過程や、自分で制作した自己紹介カードのデザインの意図について伝え合っている様子の写真が掲載されている。	2人の生徒が発想や構想をし、表現していく過程が、制作途中の写真と言葉と共に紹介されている。また、『美術鑑賞を楽しむ手がかかり』には、美術作品を鑑賞する際、『自分なりに考える』などの流れが、キャラクターの言葉と共に示されている。	作品に表現の主題が『作者の言葉』として示されている。また、巻頭の『この教科書で学ぶみなさんへ』に、『感性や想像力を働かせ自分なりの見方や感じ方をつくり出そう。』『自分が強く表したい主題（テーマ）を生み出そう。』と掲載されている。
「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	身近な風景から感じ取ったよさをもとに表したいことを絵に表す題材『心ひかれる風景』では、生徒作品とともに、日本画家・片岡球子の作品『山 富士山』が紹介され、表現と鑑賞に相互に取り組む題材が掲載されている。	『表現中心の題材』は、題材に関連した作家や生徒の作品を鑑賞する活動が初めに示されている。また、表現した後の生徒作品が『ぼくは旅をすると必ずその土地のY字路を捜す。』などの『作者の言葉』とともに掲載されている。	表現を中心とした題材に、生徒作品だけでなく関連した作家の作品や制作途中の写真が掲載されている。また、『造形的な視点』として、『指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいて欲しいこと』が示されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	保健体育	
発行者の番号・略称	224	学研
教科書の記号・番号	保体	704
書名	中学保健体育	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像は「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」とし、育成したい力として「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」の3つの力である。</p> <p>本校の保健体育科においては、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』を涵養するための工夫や配慮」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」、「生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮」等に重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、「学びに向かう力、人間性等の涵養」「主体的・対話的で深い学びの実現」「生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮」といった観点から、東京書籍「新しい保健体育」、大日本「中学校保健体育」、大修館「最新 中学校保健体育」、学研「中学保健体育」という全4者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力、人間性等の涵養」に関して、各章末に、探究活動を取りあげた『探究しようよ!』が設定されていること。 ○「主体的・対話的で深い学びの実現」に関して、習得した知識をもとに、これを活用する学習活動を取り上げた『まとめる・深める』が設定されていること。また、教えあいや学びあいを行う課題には『協働マーク』が示されていること。 ○「生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮」に関して、学習の流れを示した『学習の目標』『課題をつかむ』『考える・調べる』『まとめる・深める』という目標や学習活動が設定され、章の最初に学習の見通しがもてる資料が掲載されている。また、これらに加えて、イラストやキャラクターなどを用いて、身近な問題やテーマをもとにした学習活動が設けられていること。 		

こうした題材や資料等が、本校の生徒の学習に最も適していると判断し、学研「中学保健体育」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 保健体育

	東書	大日本	大修館	学研
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習したことを自分の生活に当てはめ、更に調べる『広げる』のコーナーが設けられている。『章末資料』で写真や図などが掲載されている。また、章末の日常生活での活用例が『学習のまとめ』に設定されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自分の身の回りに関する内容を取り上げた『つかも』が設定され、自分の生活に生かす『活用して深めよう』も設定されている。また、『学びを活かそう』で知識を広げたり、知識を生かしたりする課題が設定されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、章末に自分の課題を見つけるために『課題に向かって』が設定されている。また、応用的な課題が『クローズアップ』に設定されている。『章とびら』の欄が写真やイラストとともに見開きページで設定されている。	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習した知識を活用して、探究活動を取り上げた『探究しようよ!』が設定されている。各章の『もっと広げる・深める』『探究しようよ!』で『章のまとめ』に、今後に生かすために『生活への活用』『生かそう』が設定されている。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びについて、学習で得た知識をもとに、自分の行動を改善したり、確かめたりする活動例を取り上げた『広げる』のコーナーが各章各単元に掲載されている。また、『活用する』において他者に説明したり、話し合ったりする場面が設定されている。	主体的・対話的で深い学びについて、資料を読み取り、他の生徒と考えたり、話し合ったりする活動が章末の『学びを活かそう』のコーナーで設定されている。学習内容と、話し合いを深める活動例が見開きページで本文と資料に分けて掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う場面や発表する場面を取り上げた『学習のまとめ』が設定されている。また、本文に関連する知識を取り上げた『ほり下げる』『クローズアップ』『特集資料』のコーナーが設定されている。	主体的・対話的で深い学びについて、知識をもとに、話し合ったり、説明したり、考えたりする活動を取り上げた『まとめる・深める』が設定されている。また、教えあいや学びあいを行う課題には『協働マーク』が示されている。
生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか	学習の流れを示した『見つける』『学習課題』『課題の解決』『広げる』が4ステップで示され、巻末に『キーワードの解説』が設定されている。また、章の最初に『この章で学習すること』があり、学習の見通しがもてるように設定されている。	学習の流れを示した『つかも』『話し合ってみよう』『やってみよう』『調べてみよう』などの項目があり、『キーワード』は単元末にまとめられ、チェック欄が設定されている。また、章の最初に『この章で学習すること』があり、学習の見通しがもてるように設定されている。	学習の流れを示した『やってみよう』『意見を出そう』『考えよう』などの項目があり、当てはまるものをチェックする欄を設けた『課題をつかむ』が設定されている。また、章の最初に『この章で学習すること』があり、学習の見通しがもてる資料が掲載されている。	学習の流れを示した『学習の目標』『課題をつかむ』『考える・調べる』『まとめる・深める』という目標や学習活動が設定されている。また、章の最初に学習の見通しがもてる資料が掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	技術・家庭（技術分野）	
発行者の番号・略称	9	開隆堂
教科書の記号・番号	技術	704
書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	
使用学年	1・2・3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒」「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」「よりよい社会の構築に貢献できる生徒」としている。</p> <p>これらを踏まえ、技術・家庭技術分野では、「社会生活実践力」「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」を育てたいとし、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」、「実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力、判断力、表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか」、「体験活動の充実」といった観点から全3者の教科書を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮」について、各節の冒頭では、導入課題として例示した『調べてみよう』や『考えてみよう』、『話し合ってみよう』という項目が掲載されていること。 ○「実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力、判断力、表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか」について、『問題の発見』や『評価・改善』などの学習過程があわせて記載されていること。 ○「体験活動の充実」について、実践的・体験的な題材が例示され、『問題解決の手順』や『一枚の板で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック』などの実習例が掲載されていること。 <p>加えて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、節の最後などには自己評価をする『ふ 		

り返り』が設定されていること。

○既存の技術を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているかについては、製作者の意図がインタビュー形式で取り上げられた『いすに込められた工夫の例』が掲載されている。各編2章1節には、問題解決の手順について例示した『問題解決の流れ』が掲載されていること。

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、開隆堂「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 技術・家庭科（技術分野）

	東書	教図	開隆堂
⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	主体的・対話的で深い学びについて、『学校の机や椅子などの技術の工夫を見つけよう』において、話し合う対話的な活動を取り上げた『活動』が記載されている。キャラクターが対話することで設計要素を検討できるように例示した『問題解決例』が掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、『やってみよう』では、『自分が設計をして製作をした作品を、グループで発表しよう!』の中で対話を例示した『友だちからのコメント記入欄』が掲載されている。	主体的・対話的で深い学びについて、各節の冒頭では、導入課題として例示した『調べてみよう』や『考えてみよう』、『話し合ってみよう』という項目が掲載されている。技術の最適化の例などが『参考』として掲載されている。
⑪ 体験活動の充実	体験活動の充実について、『リモコンラック』や『絵本ラック』など基本題材や参考題材など、体験的な活動を例示した『問題解決例』が掲載されている。基礎的な実習例や実験例が示された『活動』が掲載されている。	体験活動の充実について、各編では、1章『不思議な本立て』という導入題材、2章で『調味料ホルダー』という基本題材などのように1章、2章において体験活動を例示し、図や写真を用いた実習例が掲載されている。	体験活動の充実について、各編の2章では、実践的・体験的な題材が例示され、『問題解決の手順』や『一枚の板で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック』などの実習例が掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、節の冒頭部分には、学習の見通しを示した『目標』や、関連する『キーワード』が掲載されている。節の最後には、『まとめよう』や『自己評価』が掲載されている。	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各節には、冒頭部分に学習の見通しを示した、『めあて』と節の最後に『振り返る』が対応して掲載されている。問題の発見のしかたや工夫の例などを考えるポイントを取り上げたキャラクターのコメントが掲載されている。	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、考えるポイントを例示したキャラクターのコメントが記載されている。節の最後などには『振り返り』を配置し、自己評価ができるように設定されている。
⑯ 実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	実践的・体験的な活動について、『活動 必要な工具や加工方法を考えて、加工体験をしよう』などで『活動』マークが掲載されている。ワークシート例が取り上げられ、『問題解決カード』として掲載されている。	実践的・体験的な活動について、『解答者の画面デザインしよう』などの活動を例示した『やってみよう』や、各編の2章では、実習を進める際に必要な作業手順が『つくってみよう』として掲載されている。	実践的・体験的な活動について、『実験 金属の性質』などで、体験的な活動を通して知識を習得する題材が設定されている。各編の2章の実習例では、思考力・判断力・表現力等の育成のため『問題の発見』や『評価・改善』などの学習過程があわせて記載されている。

	東書	教図	開隆堂
⑩ 既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	課題を解決する力を養う学習過程について、学習過程を『問題の発見、課題の設定』『設計・計画』『製作』『評価、改善・修正』『新たな問題の発見』に分類して取り上げられた『問題解決カード』が掲載されている。	課題を解決する力を養う学習過程について、『問題を発見する』『目的や条件をもとに構想を考える』『構想を具体化する』『設計をまとめる』の4つのステップを例示した『設計の手順』が掲載されている。また、巻末資料に『設計計画表にまとめよう』というワークシートが付けられている。	課題を解決する力を養う学習過程について、製作者の意図がインタビュー形式で取り上げられた『いすに込められた工夫の例』が掲載されている。各編2章1節には、問題解決の手順について例示した『問題解決の流れ』が掲載されている。

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	技術・家庭（家庭分野）	
発行者の番号・略称	9	開隆堂
教科書の記号・番号	家庭	703
書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	
使用学年	1・2・3	

[選定理由]

本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒」「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」「よりよい社会の構築に貢献できる生徒」としている。

これらを踏まえ、本校の技術・家庭科家庭分野では、「社会生活実践力」「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」を育てたい力とし、「自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力の育成」、「『生活の営みに係る見方・考え方』を働かせた学習となるよう、内容構成の工夫や配慮」、「実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮」といった観点から教科書目録にある全3者の教科書を比較・検討した。

その結果、

- 「自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力の育成」に関して、消費者としての視点と自覚を持ち、持続可能な社会の実現に向け、自立した消費者に関する取組が「消費行動が社会に与える影響」「消費行動が環境に与える影響」で示されていること。
- 「『生活の営みに係る見方・考え方』を働かせた学習となるよう、内容構成の工夫や配慮」に関して、各節の終わりに見方・考え方をいかした活動が設定されていること。
- 「実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮」に関して、家族の気持ちや立場を考える活動例が示されていること。

その他、

○生きて働く「知識・理解」を習得するための工夫・配慮に関して、実習のポイントや理論などが掲載されていること。

○体験活動の充実に関して、調理実習などの理論や根拠に関する写真、説明文が「調理方法Q&A」に示されていること。

こうした題材や資料等が、本校の生徒の学習に適していると判断し、開隆堂「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 技術・家庭（家庭分野）

	東書	教図	開隆堂
教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>・「知識・技能」の習得について、巻頭に家族・家庭の基礎的な機能などの『家庭分野のガイダンス』が示されている。各章末に知識の習得に関する『学習のまとめ』や、実習について技能の習得に関する『いつも確かめよう』などが設定されている。</p>	<p>・「知識・技能」の習得について、『日常の1食分の調理』について、考え、工夫する』などで、課題解決学習の流れが説明文と図によって実習例が示されている。また、調理実習では、材料・調理手順など調理のポイントなどが示されている。</p>	<p>・「知識・技能」の習得について、ポイントとなる語句は太字で示されている。『しょうが焼き』の実習例において『しょうがを入れるとどうなるの？』『なぜ、フライパンを熱してから油を入れるの？』などのQ&Aにより、基礎的な調理手順や調理理論が示されている。</p>
かながわ教育ビジョンとの関連	<p>・「たくましく生きる力」の「消費者教育」について、自立した消費者に関する持続可能な社会、エシカル消費、消費者市民社会の説明などが『私たちの消費生活と環境』などに示されている。</p>	<p>・「たくましく生きる力」の「消費者教育」について、自立した消費者に関するエシカル消費、フェアトレードなどのトピック、持続可能な社会の実現などが『消費生活が社会に与える影響を考えよう』『環境に及ぼす影響を考えて行動しよう』などで取り上げられている。</p>	<p>・「たくましく生きる力」の「消費者教育」について、消費者としての視点と自覚を持ち、持続可能な社会の実現に向け、自立した消費者に関する取組が『消費行動が社会に与える影響』『消費行動が環境に与える影響』で示されている。</p>
内容と構成	<p>・体験活動の充実について、実物大の食品の掲示や、実習の際に確認する野菜の切り方などの段階ごとの写真、説明文、実習例などが、『私たちの食生活』や『いつも確かめよう』で示されている。</p> <p>・実践的・体験的な学習活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、知識・技能を活用する例が『弁当作りに挑戦しよう』などで示されている。</p> <p>・「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、『加工食品の特徴』などで、学びの視点が、キャラクターの吹き出しなどで示されている。</p>	<p>・体験活動の充実について、調理などの実習例が掲載されている。また、調理例のページの下部に小麦や卵、乳などの食物アレルギーの対応が『つくってみよう』に示されている。</p> <p>・実践的・体験的な学習活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、自分の生活の中から問題を発見し、知識・技能を活用する取組『生活の課題と実践』などに示されている。</p> <p>・「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、生徒同士の対話から日常生活と学習内容をつなげるコーナーが『見つめる』として、『家庭生活と地域の関わりを知ろう』などに示されている。</p>	<p>・体験活動の充実について、『ますます好きになる肉の調理』『こんなにおいしい魚の調理』などで、調理実習などの理論や根拠が写真、説明文などが『調理方法Q&A』に示されている。</p> <p>・実践的・体験的な学習活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、家族の気持ちや立場を考えるロールプレイングなど実践的・体験的な学習活動例が『中学生にとっての家族』に示されている。</p> <p>・「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、『家庭分野のガイダンス』で学びの視点が示され、各節の終末に見方・考え方を日常生活に生かす活動『生活にいかそう』が設定されている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	英語	
発行者の番号・略称	38	光村
教科書の記号・番号	英語	705、805、905
書名	Here We Go! ENGLISH COURSE 1 Here We Go! ENGLISH COURSE 2 Here We Go! ENGLISH COURSE 3	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。</p> <p>本校の英語科においては、本校の「育てたい3つの力」の1つである「表現コミュニケーション力」の育成を重視し、「基礎的な表現や文法事項の定着」、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の五つの領域にわたってコミュニケーションを図る資質・能力をバランスよく育成するための言語活動」、「リテリング、ディベートなどの領域統合型の言語活動」にも重点を置いている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「リテリング、ディベートなどの領域統合型の言語活動」といった観点から全6者を比較・検討し、東京書籍の「NEW HORIZON English Course」、開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」、光村図書「Here We Go! ENGLISH COURSE」の3者に絞った。</p> <p>次に、「リテリング、ディベートなどの領域統合型の言語活動」に、新学習指導要領で示されている「簡単な語句や文を用いて即興で話す」という観点を加え、3者を比較・検討した。</p> <p>その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「リテリング、ディベートなどの領域統合型の言語活動」という観点に関して、3年間を通して、自分の言葉で話す「Story Retelling」が設定されている。 ○「簡単な語句や文を用いて即興で話す」という観点に関して、学習した内容を繰り返し活用しながら簡単な語句や文を用いて即興で話す帯活動「Let's Talk」が設定されている。 		

こうした題材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、光村図書「Here We Go! ENGLISH COURSE」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 英語

(1) 全発行者の比較

	東書	開隆堂	三省堂
① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、新出文法事項が示され、その英文の仕組みについて説明が添えられている。続いて、文型練習の『Practice』、技能別の練習の『Mini Activity』が設定されている。ある程度の活動が終わった後、 <u>文法事項のまとめの『Grammar for Communication』で、扱われた表現が使い方と形の両面から整理され、実際にそれらを使用する活動が設定されている。</u>	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容に触れる前に、マンガ形式の短い対話の『Scenes』で、場面から新出文法事項が示されている。続いて、それに関連した聞く活動、表現の練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、 <u>文法事項のまとめの『英語のしくみ』で、扱われた表現の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示され、吹き出して追加のヒントがキャラクターのセリフとして述べられている。</u>	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、『POINT』で新出文法事項が示されるが、最初はそれについての直接的な解説はされず、文の仕組みなどを考える問いが設けられている。続いて、文型練習の『Drill』、聞く活動、話すことと書くことを結びつけた活動が設定されている。ある程度の活動が終わった後、『 <u>文法のまとめ</u> 』で、扱われた表現について説明やヒントなどが示されている。
	教出	光村	啓林館
	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、新出文法事項が示され、その英文の仕組みについて説明が添えられている。続いて、文型練習、聞く活動、『Think & Try!』で自分で考える文を含んだ表現の練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、 <u>文法事項のまとめの『Grammar』で、扱われた表現をまとめた文脈の中で示してから整理されている。その後、ペアでの会話練習が設定されている。</u>	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、本文内容に関連した聞く活動、話す活動、書く活動が設定されている。続いて新出文法事項が示され、説明が添えられている。ある程度の活動が終わった後、 <u>文法事項のまとめの『Active Grammar』で、扱われた表現がまとめた文脈の中で示されるとともに、それらの表現が使われた箇所などを教科書本文に戻って再びチェックする『Grammar Hunt』が設定されている。</u>	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、聞く活動が設定されている。続いて新出文法事項が示され、説明が添えられている。その後、文型練習、例にならって考える表現練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、 <u>文法事項のまとめの『Targetのまとめ』で、扱われた表現の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示されるとともに、その表現を実際に使用する活動が設定されている。</u>

⑩ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」などのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成できるよう、実際の言語の使用場面や言語の動き等に十分配慮した題材を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。	東書 言語の使用場面について、地域のおすすめの場所を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。この活動は、 <u>どのようなおすすめを紹介してほしいのかを「聞くこと」から始め、自分で考えたおすすめを「書くこと」「話すこと[やり取り]」をし、グループのメンバーが考えた内容を「読むこと」を行い、「話すこと[発表]」で紹介するという流れで構成されている。</u> この活動における言語の動きとして、「聞き直す」「褒める」「説明する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。	開隆堂 言語の使用場面について、他人にあまり知られていない自分のことを伝える自己紹介活動の場面を取り上げた『あなたの知らない私』などが掲載されている。この活動は、 <u>モデルスピーチを「聞くこと」「読むこと」から始め、自分のスピーチのアイデアについて「話すこと[やり取り]」「書くこと」を行い、マッピングなどで自分の考えを整理し、即興のスピーチを繰り返していく中で原稿をまとめ、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。</u> この活動における言語の動きとして、「繰り返す」「礼を言う」「発表する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。	三省堂 言語の使用場面について、将来の夢がテーマのスピーチコンテストで発表する場面を取り上げた『将来の夢を紹介しよう』などが掲載されている。この活動は、 <u>モデルスピーチを「聞くこと」から始め、ペアやグループで「話すこと[やり取り]」をして互いの興味を確認し、モデルスピーチを「読むこと」で文の構成などを参考にし、自分のスピーチを「書くこと」を行い、練習をして「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。</u> この活動における言語の動きとして、「挨拶をする」「褒める」「報告する」「申し出る」「依頼する」などが取り上げられている。
	教出 言語の使用場面として、紹介したい日本の文化の一つを選んで発表する場面を取り上げた『日本の文化を紹介しよう！』などが掲載されている。この活動は、 <u>日本の文化について紹介された英文を「読むこと」から始め、それを参考に紹介したい日本の文化を考えてメモを作り、メモを参考に「書くこと」を行う。</u> その後グループ内で「話すこと[発表]」「聞くこと」を行い、 <u>互いに質問や感想を言い合う「話すこと[やり取り]」につなぐという流れで構成されている。</u> この活動における言語の動きとして、「挨拶をする」「褒める」「描写する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。	光村 言語の使用場面として、ウェブサイトの掲示板の内容を参考に議論に参加する場面を取り上げた『学校に必要なものを考えて意見を伝えよう』などが掲載されている。この活動は、 <u>掲示板に書かれた意見を「読むこと」から始め、その内容についての賛否を考え、グループで議題を決め「話すこと[やり取り]」「聞くこと」を行い、「書くこと」で議論を整理する。</u> 最後に、 <u>そのテーマについての自分の賛否を「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。</u> この活動における言語の動きとして、「相づちを打つ」「謝る」「説明する」「反対する」「質問する」などが取り上げられている。	啓林館 言語の使用場面について、有名人や歴史上の人物などに架空のインタビューをする場面を取り上げた『有名人にインタビューしよう』などが掲載されている。この活動は、 <u>ALTにインタビューしている対話「話すこと[やり取り]」からわかったことについてメモを取りながら「聞くこと」から始め、それを参考にインタビューしたい人物を決めて質問事項を「書くこと」を行う。</u> ペアで作った原稿を「読むこと」などを通して練習し、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の動きとして、「相づちを打つ」「歓迎する」「報告する」「申し出る」「質問する」などが取り上げられている。

	東書	開隆堂	三省堂
◎ 言語能力の確実な育成	<p>言語能力の育成について、第1学年では、登山の計画において、地図や表をもとにテキストメッセージでやり取りしている様子を読み取り、結論を導く『Let's Climb Mt. Fuji』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第2学年では、コミュニケーションを図るうえで、相手のもっている知識に合わせて話したり書いたりする配慮を示した『Point of View』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第3学年では、ディベートにおいて、<u>自分の意見を主張する手立てなどを示した『Word Room』が掲載されている。</u></p> <p>また、各学年とも、国語科との関連を図り、物語の読み方や、英語俳句を書く活動などが示されている。</p>	<p>言語能力の育成について、第1学年では、導入・展開・まとめの順で話を構成することなどを示した『話の組み立て方を考えよう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第2学年では、会話を続け、深めることにおいて、あいづちや疑問詞を使った疑問文を組み合わせるとよいといった具体例などを示した『会話をつなげ、深めよう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第3学年では、言いたいことをどう表現したらいいかわからないときの手立てとして、自分や相手の知っている簡単な表現に言い換えることなどを示した『簡単な表現で言いかえよう』が掲載されている。</p> <p>また、各学年とも、ページ内にある『Try』で、即興的なやり取りを促す題材が示されている。</p>	<p>言語能力の育成について、第1学年では、内容を考えて整理する手立てなどについて示した『学校生活や行事を紹介するメールを書こう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第2学年では、ディスカッションで意見をまとめ、参加者全員が役割を意識することなどを示した『ディスカッションをしよう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第3学年では、イベントのチラシから必要な情報を読み取り、そのイベントについての質問に答える題材などを示した『イベントのチラシ』が掲載されている。</p> <p>また、各学年とも、表現を行う活動で『キャラクターのひとりごと』が示され、表現をまとめるに至る思考過程について示されている。</p>
	教出	光村	啓林館
	<p>言語能力の育成について、第1学年では、代名詞に注意して読み、文章を正しく読み取ることを示した『Tips for Reading』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第2学年では、書くことを整理するコツとして、すぐに文章を書き始めないで、マッピング図を描いて書くことを整理することを示した『Tips for Writing』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第3学年では、読み手にわかりやすい文章を書くことにおいて、ジャンルなどが大きなことから細かいことの順に書くことなどを示した『Tips for Writing』が掲載されている。</p> <p>また、各学年とも、教科書内の各単元と並行して扱う『Activities Plus』で、継続的な会話練習が設定されている。</p>	<p>言語能力の育成について、第1学年では、自己表現を読み取る目的を示した『自己紹介で共通点・相違点を見つけよう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第2学年では、留学生に合う自分の町の観光プランを作ることに、自己紹介から相手の知りたいことを読み取り、その内容を基に考える活動を取り上げた『わが町観光プランをおすすめしよう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第3学年では、ある場所の未来の予想をすることにおいて、同じ場所の過去と現在の写真について、相違点をあげるグループ活動を取り上げた『「過去」と「現在」の相違点を挙げよう』が掲載されている。</p> <p>また、各学年とも、教科書本文の見開きのページに、「聞く」「読む」「話す」「書く」の技能別の活動が一つずつ設けられている。</p>	<p>言語能力の育成について、第1学年では、例を参考に表現したいことを選び、それを基に原稿を書くことなどを示した『自己紹介をしよう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第2学年では、別の人のやり取りを聞き、意見のまとめ方の練習をする活動を取り上げた『自分の意見を言おう』が掲載されている。</p> <p>言語能力の育成について、第3学年では、ディスカッションをする際、モデル対話の人物の意見を読み取り、自分の表現につなげる活動を取り上げた『ディスカッションをしよう』が掲載されている。</p> <p>また、各学年とも、テーマに合うスピーチを段階に沿って作成し、発表する構成の『Express Yourself』が掲載されている。</p>

	東書	開隆堂	三省堂
⑯ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	<p>文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真などから場面などを想像するリスニングで導入 ②教科書本文の概要把握 ③基本本文をもとにした練習活動 ④『Mini Activity』で各技能の習得を図る ⑤『Read and Think (第2・3学年)』でまとまった文章を3段階のステップ(概要把握、詳細理解、表現につなげる)で読む ⑥領域統合型の『Unit Activity』で成果を確認 ⑦複数の単元のまとめとして行う領域統合型の『Stage Activity』などで設定されている。また、各技能別に特化した活動、他教科との技能連携題材、読み物教材などが設定されている。</p>	<p>文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が段階的に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真やリスニングで題材への興味付けを行い、学習の見通しを立てる ②マンガ形式の短い対話で基礎・基本の習得を図る ③教科書本文の題材内容について考える ④自分の言葉で本文をリテリングする(第1学年 Program 9から設定) ⑤学んだ表現をもとに即興で自己表現する ⑥複数の単元のまとめとして行う領域統合型の活動を行うなどで設定されている。また、ペアによるスモールトーク、表現するうえでの技能の紹介、語彙力の増強活動、技能別のコミュニケーション活動、読み物教材などが設定されている。</p>	<p>文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が並列に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①学ぶ内容への動機付けをし、学習の見通しを立てる ②教科書本文の概要を把握する ③基本本文を確認し、文法事項や文構造を理解する ④基本本文の練習活動を行う ⑤聞く活動から始める技能別の活動を行う ⑥まとまりのある英文を3段階のステップ(背景知識活性化、繰り返し読む、発信)で読み取る ⑦目的・場面・状況に応じてまとまりのある文章を書く ⑧目的・場面・状況に応じて発表する ⑨複数の単元のまとめとして、領域統合的な活動を行うなどで設定されている。また、聞き取り活動、やり取り活動、読み物教材などが設定されている。</p>
	<p>教出</p> <p>文法事項について、小学校で扱った be 動詞と一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①教科書本文ごとの目標を確認 ②教科書本文の内容理解 ③基本本文の確認 ④基本本文を用いた練習活動 ⑤まとまった内容の振り返りやタスク活動 ⑥文法事項や文構造の整理 ⑦複数単元のまとめとしての領域統合型の課題解決活動などで設定されている。また、並行して帯活動で行うペアによる即興でのチャットやスピーチ、言語の使用場面に応じた活動、技能を高めるコツの紹介、読み物教材、英語の勉強の仕方についてのアドバイスなどが設定されている。</p>	<p>光村</p> <p>文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、構成は基本的にストーリー仕立てで、①目標の確認とストーリーの予想 ②教科書本文を理解しながら音読練習 ③本文中で基本本文や語彙を確認 ④目的や場面に沿った練習活動 ⑤基本本文のルールなどの再確認 ⑥アウトプットと振り返り活動 ⑦複数単元のまとめとして行う領域統合型の言語活動などで設定されている。また、並行して帯教材で扱うリテリング活動、即興でのやり取り活動、領域別の練習教材、国際理解を深める教材、読み物教材などが設定されている。</p>	<p>啓林館</p> <p>文法事項について、小学校で扱った be 動詞、一般動詞が段階的に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①テーマに沿った目標の確認 ②教科書本文の概要理解 ③新出文法や新出語句の確認 ④音声での新出文法の確認 ⑤新出文法の練習や表現活動 ⑥テーマに沿ったまとまった文章の読み取り(概要理解、要約、内容について考える) ⑦テーマに沿った発表活動 ⑧背景知識の補足資料 ⑨複数単元のまとめとして行う領域統合型の活動などで設定されている。また、新出文法の振り返り、「話す」「聞く」「読む」の各技能の学習、追加のディスカッション・ライティング活動(第3学年)、追加の読み物教材(第3学年)などが設定されている。</p>

(2) 3者での比較

	東書	開隆堂	光村
⑤ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、国語科と関連して、物語の文章構成を取り上げた『Learning LITERATURE in English』が掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、技術・家庭科（家庭分野）と関連して、食品表示を取り上げた『Learning HOME ECONOMICS in English』が掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、理科と関連して、食物連鎖を取り上げた『Learning SCIENCE in English』が掲載されている。</p> <p>また、各学年とも、他教科と関連する内容は鎖の形の同一のアイコンで示されている。</p>	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、国語科と関連して、書道や百人一首を取り上げた『Let's Enjoy Japanese Culture.』が掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、技術・家庭科（技術分野）と関連して、カワセミを模して作られた新幹線の形状を取り上げた『High-Tech Nature』が掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、保健体育科と関連して、睡眠時間と健康の関係をとり上げた『Good Night Sleep Tight.』が掲載されている。</p> <p>また、「ごんぎつね」など、複数の小学校の国語科で扱われた物語が、英文で掲載されている。</p>	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、地理的分野と関連して、日本と世界の時差を取り上げた『世界の時刻』が掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、美術科と関連して、葛飾北斎『雷獄三十六景』を取り上げた『音声ガイド』が掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、理科と関連して、絶滅危惧種の現状とその原因を取り上げた『Living With Animals』が掲載されている。</p> <p>また、『Story Retelling』『Let's Talk!』などの常教材が設定されている。</p>

令和6年度使用希望教科書選定理由書

県立相模原中等教育学校 前期課程

種目	道徳	
発行者の番号・略称	116	日文
教科書の記号・番号	道徳	704、705、804、805、904、905
書名	中学道徳 あすを生きる1, 中学道徳 あすを生きる1 道徳ノート 中学道徳 あすを生きる2, 中学道徳 あすを生きる2 道徳ノート 中学道徳 あすを生きる3, 中学道徳 あすを生きる3 道徳ノート	
使用学年	1、2、3	
<p>[選定理由]</p> <p>本校の教育目標は、「人格の完成をめざし、高い知性と豊かな人間性をそなえ、心身ともに健全な、次世代を担う人材を育成する」である。また、めざす生徒像を「豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒」「これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒」「よりよい社会の構築に貢献できる生徒」としている。それら教育目標やめざす生徒像の実現に向け、本校では「表現コミュニケーション力」「社会生活実践力」を育むために、言語活動の充実を図っている。</p> <p>これらを踏まえ、特に「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養、「言語能力」の育成といった観点から、設定された学習活動について全7者を比較・検討し光村図書出版「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき1,2,3」、日本文教出版「中学道徳 あすを生きる1,2,3」、学研教育みらい「新・中学生の道徳 明日への扉1,2,3」の3者に絞った。</p> <p>次に、3者について、本校の教育目標やめざす生徒像を鑑み、「リーダーシップ」、「社会貢献」、「国際理解・国際貢献」と「情報化」の観点について、3者を比較・検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「リーダーシップ」と「社会貢献」に関わる「思いやる力」に関して、複数の教材から他者を尊重した集団生活について考えさせるようなユニット『いじめと向き合う』が各学年で設定されている。 ○「働くことの大切さ」に関して、キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。 ○「国際理解・国際貢献」と「情報化」に関しては、「国際理解・国際貢献」について、地球規模で考える教材『地球で分かち合う、幸せな未来』が設定されている。 ○「情報化」に関して、第1学年『近くにいた友』『違いを意識したコミュニケーション』 		

ン』や第2学年『インターネットでの情報発信』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材や、情報の正しい活用法について考えられる、『環境保全と持続可能な社会』などコラムが設定されている。

さらに、日本文教出版は自分の考えを記述したり、考えを振り返ったりする別冊「道徳ノート」が巻末に挟み込まれており、取り外しが可能なため、学習後に回収して生徒個々の学習状況を確認することができる。

こうした教材や資料等が、本校生徒の学習に最も適していると判断し、日本文教出版の「中学道徳 あすを生きる1, 2, 3」を選定した。

「県立相模原中等教育学校 令和6年度使用希望教科書選定理由書」補足資料

※「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」令和2年6月（神奈川県教育委員会）を参考に作成

種目 道徳

	東書	教出	光村	日文
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、役割演技など、人と関わることをとおして、多面的・多角的な考え方に触れる『ACTION!』のコーナーが設けられている。また、人と関わることをとおして、様々な考えに触れる活動型の教材が設定されている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、体験的な学習をとおして、複数の人物の多面的・多角的な考え方に触れる教材『不自然な独り言』、『裏庭での出来事』などが『やってみよう』のコーナーに設けられている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだあとに、別の人物の視点から振り返る『見方を変えて』や『つなげよう』のコーナーが設定されている。また、1年間の学びを振り返る『道徳の学びを振り返ろう』が巻末に設けられている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容を他教科や活動とつなげ、考えや視野を広げる『君の心を打つ言葉』などが『プラットフォーム』のコーナーに配置されている。また、教材末に、自らの考え方をより深く考える『考えてみよう』『自分に+1』が設けられている。
	学研	廣あかつき	日科	
	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、視点や学習内容の違う関連情報を取り扱った、『クローズアップ』『クローズアップ+プラス』などのコーナーが設定されている。また、教材の終わりに、生徒全員が同じテーマで思考する『考えよう』が設定されている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだ後に、今の自分の視点から振り返ったり、考えたりする発問が、教材末『学習の手がかり』の中に配置された『考えを広げる・深める』のコーナーに設けられている。	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、話し合うことをとおして、複数の人物の多面的・多角的な考え方に触れ、自分自身の考えを見つめる、『考え、話し合ってみよう』そして、深めよう』のコーナーが教材末に設定されている。	

	東書	教出	光村	日文
<p>学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮</p>	<p>「<u>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、授業について振り返ったり、教材から学び、心に残っていることを記述したりする『自分の学びを振り返ろう』が設定されている。また、自己を見つめ自己の学びを振り返る『1年間で学ぶこと』のページや、自由に思いを書き込む『つばやき』をはじめ、その時の自分の考えを記述したり、振り返りをしたりするページが設定されている。</u></p>	<p>「<u>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返り、これから学びたいこと、がんばりたいことを記述する欄が巻頭に配置されている。巻末には『道徳の学びを記録しよう』や『これからを生きる皆さんへ』、『道徳の学びを振り返ろう』が設けられている。</u></p>	<p>「<u>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻末に、学んでいくにあたっての自分の思いや、毎時間後に記録した学習内容を記述し、学期ごとに振り返り、自分の成長を確かめるコーナー『学びの記録』がシーズンごとに設定されている。</u></p>	<p>「<u>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の『道徳科での学び方』で学習過程が示されている。また、『考えてみよう』では、主題に関する発問が示され、自分の考えを記述したり、考えを振り返ったりする別冊『道徳ノート』が設定されている。</u></p>
	<p>学研</p> <p>「<u>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の自己を見つめる『マイプロフィール』、巻末の心の成長を振り返る『心の四季』『学びの記録』において各学期の振り返りができる構成になっている。また、巻末には学期ごとの学習のまとめが設定されている。</u></p>	<p>廣あかつき</p> <p>「<u>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返るコーナーや、毎時間の学習の記録や、心に残っている授業の記録を記述するコーナーが、別冊『中学生の道徳ノート』に設定されている。</u></p>	<p>日科</p> <p>「<u>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、1年間の心の成長を振り返るページと、1年間の道徳科の時間を振り返るページをとおして、道徳科で学びたいことを記述するコーナーが設けられている。教材の後の『込められた想い』『もっと知りたい』などで、自分ができることについて考えるコーナーが設けられている。</u></p>	

	東書	教出	光村	日文
言語能力の確実な育成	言語能力の育成について、巻頭の『話し合いの手引き』では、話し合いの進め方が示されている。また、巻末には意見発表の方法の1つの例としてホワイトボード用のペンで記入するページが設けられている。第1学年のコラム『PLUS+探究の対話「p4c」』では、ルールに沿った対話の仕方の例として『p4c』という手法が示されている。	言語能力の育成について、全学年の巻頭の『道徳科の学びを深めるために』では、学習の進め方や話し合い活動の手引きが示されている。教材末では、自分の考えを整理し、話し合い、考えを交流する『学びの道しるべ』が設けられている。第1学年の『ルールとマナー』では、考えを記入し、話し合いに結びつけていく方法が示されている。	言語能力の育成について、『広げよう人と人の関係づくり』では、話し合い活動の手引きが示されている。ペア活動やアンガーマネジメントなど、相互理解に向けた話し合い活動が示されている。また、生徒が意見を出す『考えよう』が、すべての教材に設定されている。第1学年の『深めたいむ』では、グループでの話し合い活動が示されている。	言語能力の育成について、全学年で自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられ、それらを対比させながら学習する別冊『道徳ノート』に、自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられている。『学習の進め方』では、話し合いの進め方が写真や、イラストを用いて、考え、議論する話し合い活動が示されている。
	学研	廣あかつき	日科	
	言語能力の育成について、考えを端的に記述したり、根拠をもって議論したり、話し合いの中で学んだことを記録したりする特設ページ『深めよう』が各学年に掲載されている。第1学年の『家庭での出来事』では、『深めよう』において今後の生き方につながる話し合い活動の例が示されている。	言語能力の育成について、自己を見つめる考えを自由に記述し、教材ごとに考えを書き込む欄や年間の学習を通して学んだことを書く欄を設けた『中学生の道徳ノート』が用意されている。各教材末『考えを広げる・深める』では多面的・多角的に考えながら話し合う活動例や発問例が示されている。	言語能力の育成について、第1学年『二つの足跡』では、話し合い活動の例が示されている。第2学年『ニュースで討論「支え合いは当たり前」』では、討論の仕方の例が示されている。各学年、自らの考えをもとに議論するページが用意されている。	

	光村	日文	学研
<p>【思いやる力】他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)</p>	<p>【思いやる力】の「人権教育」について、『魚の涙』や『三年目の「ごめんね」』など、いじめの問題を扱った教材に関連した『深めたいむ』が設けられている。学級づくりや人間関係づくりについて、いじめ問題の解決に結びつく教材が学年の前半に配置されている。</p>	<p>【思いやる力】の「人権教育」について、『いじめと向き合う』では複数の教材から他者を尊重した<u>集団生活について考えるユニット</u>が各学年で設定されている。また、「いじめ」を重点テーマとして役割演技をする『プラットホーム』が設定されている。</p>	<p>【思いやる力】の「人権教育」について、いじめ防止に関連した『卒業文集最後の二行』などの教材が配置されている。「生命尊重」などを取り上げた、『クローズアップ』が配置されている。また、いじめや命をテーマとした『クローズアップ+プラス』や、自己肯定感について考えさせる『あなたへ質問』が設定されている。</p>
<p>【社会とかかわる力】社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。 (生きること、働くこと、働くこと、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)</p>	<p>【社会とかかわる力】の「働くこと、働くこと、働くこと」について、キャリア教育に関する教材『私の働く理由』が掲載されている。「生きること」について、環境教育など現代的な課題について取り上げたコラム『広げよう』のコーナーが設けられている。</p>	<p>【社会とかかわる力】の「働くこと、働くこと、働くこと」について、キャリア教育に関する教材『私は清掃のPROになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。「生きること」について、環境問題、安全教育など、現代的社会的な課題を考えられる教材が設けられている</p>	<p>【社会とかかわる力】の「働くこと、働くこと、働くこと」について、キャリア教育に関する教材『掃除の神様が教えてくれたこと』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。「生きること」について、ユニット学習として『夢に向かって共に輝く』『地球と地域の未来のために』などが設定されている。</p>
<p>【たくましく生きる力】自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。 (公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)</p>	<p>【たくましく生きる力】の「情報化」について、第1学年『私の話を聞いてね』や『言葉の向こうに』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。『情報モラル』のテーマで複数教材からなるユニットが組まれている。</p>	<p>【たくましく生きる力】の「情報化」について、第1学年『近くにいた友』『違いを意識したコミュニケーション』や第2学年『インターネットでの情報発信』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材や、情報の正しい活用方法について考えられるコラムが設定されている。</p>	<p>【たくましく生きる力】の「情報化」について、第1学年『日曜日の朝に』、第2学年『つい言い過ぎて』、第3学年『アップロードダウンロード』など、SNSやスマートフォンの使い方に関するトラブル、課題を取り上げた教材や、『クローズアップ』『ネットがないと生きていけない?』などのコーナーが配置されている。</p>

	光村	日文	学研
<p>他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 (教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)</p>	<p>カリキュラム・マネジメントについて、発達段階に応じて、1年間を3シーズンに分けた年間の学習計画が示されている。社会科と関連した教材として第1学年では『日本のお米』、第3学年では『一票を投じることの意味』という教材が設定されている。</p>	<p>カリキュラム・マネジメントについて、学習内容を他教科や活動とつなげる『プラットフォーム』のコーナーが配置され、『地球で分かち合う、幸せな未来』、『環境保全と持続可能な社会』などが取り上げられている。第1学年では、国語科と関連した『トマトとメロン』という書写や詩に関する教材が設けられている。</p>	<p>カリキュラム・マネジメントについて、理科に関連した教材からなる『地球と地域の未来のために』など、他教科と関連した複数の教材からなるユニット学習が設定されている。第1学年では、保健体育科と関連した教材『真の国際人 嘉納治五郎』などが設けられている。</p>